

## 商標

Autel®、MaxiSys®、MaxiDAS®、MaxiScan®、MaxiTPMS®、MaxiRecorder®およびMaxiCheck®は、Autel Intelligent Technology Corp.、Ltd.の商標であり、中国、米国およびその他の国で登録されています。他のすべてのマークは、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

## 著作権情報

Autelの事前の書面による許可なしに、このマニュアルのいかなる部分も、電子的、機械的、写真複写、記録、またはその他の方法または手段によって、複製、検索システムに保存、または送信することはできません。

## 保証の免責および責任の制限

このマニュアルのすべての情報、仕様、図は、印刷時に入手可能な最新情報に基づいています。

Autelは、予告なしにいつでも変更を行う権利を留保します。このマニュアルの情報の正確性については慎重に確認しておりますが、製品の仕様、機能、および図の完全性および正確性については保証されません。

Autelは、直接的、特別、偶発的、間接的な損害、または経済的損害（利益の損失を含む）に対する責任を負いません。

---

### ❗ 重要

このユニットを操作または保守する前に、このマニュアルを注意深く読み、安全上の警告と注意事項に特に注意してください。

---

### サービスとサポートの場合：



[pro.autel.com](http://pro.autel.com)

[www.autel.com](http://www.autel.com)



1-855-288-3587 / 1-855-AUTELUS（北米）

0086-755-86147779（中国）



[support@autel.com](mailto:support@autel.com)

詳細については、このマニュアルを参照してください

# 安全情報

あなた自身の安全と他者の安全のため、また使用される装置と車両の損傷を防ぐために、このマニュアル全体で示されている安全上の注意事項を、操作または接触するすべての人が読んで理解することが重要です。

車両を整備するためのさまざまな手順、技術、ツール、および部品が必要であり、作業を行う人のスキルも必要です。この装置でテストできる製品には膨大な数のテストアプリケーションとバリエーションがあるため、あらゆる状況に対応するためのアドバイスや安全メッセージを予測または提供することはできません。テスト対象のシステムに精通することは、自動車技術者の責任です。適切な保守方法とテスト手順を遵守することが重要です。あなたの安全、作業エリアの他の人の安全、使用中のデバイス、またはテスト中の車両を危険にさらさない適切で許容可能な方法でテストを実行することが不可欠です。

デバイスを使用する前に、テスト対象の車両または機器のメーカーが提供する安全メッセージと適用可能なテスト手順を常に参照して、それに従ってください。このマニュアルに記載されている方法でのみデバイスを使用してください。このマニュアルのすべての安全メッセージと指示を読み、理解し、従ってください。

## 安全メッセージ

人体への傷害および機器の損傷を防ぐために、安全メッセージが提供されています。すべての安全メッセージは、危険レベルを示す注意喚起で紹介されています。

---

### 危険

回避しないと、オペレーターまたは傍観者が死亡または重傷を負う差し迫った危険な状況を示します。

---

### 警告

回避しないと、オペレーターまたは傍観者が死亡または重傷を負う可能性がある潜在的に危険な状況を示します。

---

## 安全指示

本書の安全メッセージは、Autel が認識している状況をカバーしています。Autel は、可能性のあるすべての危険を評価または推奨することができません。発生した状態やサービス手順が個人の安全を危険にさらさないことを確認する必要があります。

---

 **危険**

エンジンが稼働している間は、サービスエリアの通気を良好に保つか、エンジン排気システムに建物排気ガス除去システムを設置します。エンジンは無臭の有毒ガスである一酸化炭素を生成し、反応時間が遅くなり、重傷や人命の損失につながる可能性があります。

---

---

 **ヘッドフォンを使用するときに音量を上げすぎないでください**

長時間にわたって耳を過度に刺激する大音量で聴くと、聴力が失われる可能性があります。

---

 **安全上の警告：**

- 常に安全な環境で自動車試験を実施してください。
- ANSI 規格に適合する安全保護具を着用してください。
- 衣服、髪、手、道具、試験装置などを、すべての可動部品または高温のエンジン部品に近づけないでください。
- 排気ガスは有毒なので、換気の良い作業エリアで車両を操作してください。
- トランスミッションをパーキング（オートマチックトランスミッション）またはニュートラル（マニュアルトランスミッション）に入れ、パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
- 駆動輪の前にブロックを置き、テスト中は車両から離れないでください。
- イグニッションコイル、配電キャップ、イグニッションワイヤーやスパークプラグ周辺での作業には細心の注意を払う必要があります。これらのコンポーネントは、エンジンの稼働中に危険な電圧を生成します。
- ガソリン、化学薬品、および電気の火災に適した消火器を近くに置いてください。
- イグニッションがオンになっているとき、またはエンジンが稼働しているときは、テスト機器を接続したり切断したりしないでください。
- テスト機器を乾燥した清潔な状態に保ち、油、水、またはグリースを含まないようにします。必要に応じて、清潔な布に中性洗剤を使用して、機器の外側を清掃します。
- 車両を運転すると同時にテスト機器を操作しないでください。事故を引き起こすことがあります。

- サービス対象の車両のサービスマニュアルを参照し、すべての診断手順と注意事項に従ってください。従わない場合、人身傷害または試験装置の損傷につながる可能性があります。
- テスト機器の損傷や誤ったデータの生成を防ぐため、車両のバッテリーが完全に充電され、車両の DLC への接続が確実であることを確認してください。
- テスト機器を車両のディストリビューターに置かないでください。強い電磁干渉は機器を損傷する可能性があります。

## 目次

安全情報.....	ii
安全メッセージ.....	ii
<b>このマニュアルの使用.....</b>	<b>1</b>
1.1 規則.....	1
1.1.1 太字.....	1
1.1.2 注意事項和提示信息.....	1
1.1.3 ハイパーリンク.....	2
1.1.4 図.....	2
1.1.5 作業手順.....	2
<b>2 製品説明.....</b>	<b>3</b>
2.1 MAXISYS タブレット診断機器.....	3
2.1.1 機能の説明.....	3
2.1.2 電源.....	5
2.1.3 技術仕様.....	6
2.2 MAXIFLASH VCI -車両通信インターフェイス.....	8
2.2.1 機能説明.....	8
2.2.2 電源.....	9
2.2.3 技術仕様.....	10
2.3 アクセサリー.....	10
2.3.1 メインケーブル.....	10
2.3.2 OBDI タイプアダプター.....	11
2.3.3 その他のアクセサリー.....	12
<b>3 はじめに.....</b>	<b>13</b>
3.1 パワーアップ.....	13
3.1.1 アプリケーションメニュー.....	14
3.1.2 画面ロケータとナビゲーションボタン.....	15
3.1.3 システムステータスアイコン.....	17
3.2 シャットダウン.....	17
3.2.1 再起動システム.....	17
<b>4 診断.....</b>	<b>18</b>
4.1 車両通信の確立とモデルの選択.....	18
4.1.1 車両通信の確立.....	18
4.1.2 スタートするには.....	23
4.1.3 車両識別.....	25
4.2 診断画面レイアウト.....	30

4.3	自動スキャン.....	31
4.4	コントロールユニット.....	38
4.4.1	画面メッセージ.....	39
4.4.2	選択を行う.....	39
4.5	ECU 情報.....	40
4.6	故障コード.....	40
4.6.1	コードの読み取り.....	40
4.6.2	故障コードの消去.....	42
4.7	ライブデータ.....	42
4.8	アクティブテスト.....	50
4.9	特殊機能.....	52
4.10	プログラミングとコーディング.....	53
4.10.1	コーディング.....	54
4.10.2	再プログラミング操作.....	55
4.10.3	更新エラー.....	56
4.11	一般的な OBDII 操作.....	57
4.11.1	一般的な手順.....	57
4.11.2	機能の説明.....	58
4.12	診断レポート.....	61
4.12.1	プレスキャンとポストスキャン.....	61
4.12.2	診断レポート PDF.....	62
4.13	車両診断の終了.....	66
<b>5</b>	<b>知能診断.....</b>	<b>67</b>
5.1	知能診断機能へのアクセス.....	67
5.1.1	自動スキャン.....	67
5.1.2	システムエラー スキャン.....	69
5.1.3	知能診断ボタンによるアクセス.....	71
5.1.4	知能診断アイコンを介したアクセス.....	72
5.2	スマートな診断操作.....	76
5.2.1	車両システムと検出された DTC.....	77
5.2.2	テクニカルサービス アナウンス (OEM 情報).....	77
5.2.3	DTC 分析.....	78
5.2.4	修理アシスト.....	79
5.2.5	修復のヒント.....	86
5.2.6	成分測定.....	87
5.2.7	関連するケース.....	88
<b>6</b>	<b>サービス.....</b>	<b>89</b>
6.1	オイルリセットサービス.....	89
6.2	電動パーキングブレーキ (EPB) サービス.....	90

6.2.1	EPBの安全性	90
6.3	タイヤ空気圧監視システム (TPMS) サービス	91
6.4	バッテリー管理システム (BMS) サービス	91
6.5	ディーゼルパティキュルフィルター (DPF) サービス	91
6.6	イモビライザー (IMMO) サービス	93
6.7	ステアリング角度センサー (SAS) サービス	93
<b>7</b>	<b>データマネージャー</b>	<b>95</b>
7.1	車両履歴	96
7.1.1	過去のテスト記録	97
7.2	ワークショップ情報	99
7.3	顧客情報	100
7.4	画像	101
7.5	PDF ファイル	103
7.6	レビューデータ	103
7.7	アプリのアンインストール	104
7.8	データレコード	104
<b>8</b>	<b>設定操作</b>	<b>106</b>
8.1	オペレーティング	106
8.1.1	ユニット	106
8.1.2	言語	107
8.1.3	印刷設定	107
8.1.4	ニュースプッシュ	108
8.1.5	自動更新	109
8.1.6	ADAS 登録	109
8.1.7	車両リスト	110
8.1.8	国コード	110
8.1.9	システム設定	111
8.1.10	情報	111
<b>9</b>	<b>更新</b>	<b>112</b>
<b>10</b>	<b>VCI マネージャー</b>	<b>115</b>
10.1	Wi-Fi 接続	116
10.2	BT ペ어링	117
10.3	アップデート	119
<b>11</b>	<b>ADAS 操作</b>	<b>121</b>
<b>12</b>	<b>サポート</b>	<b>123</b>
12.1	製品登録	123

12.2	サポート画面レイアウト	124
12.3	マイアカウント	124
12.3.1	個人情報	124
12.3.2	更新情報	125
12.3.3	サービス情報	125
12.4	苦情	125
12.4.1	画面レイアウト	125
12.5	データロギング	126
12.6	トレーニング	127
12.7	FAQ	127
<b>13</b>	<b>リモートデスクトップ</b>	<b>129</b>
13.1	操作	129
<b>14</b>	<b>クイックリンク</b>	<b>131</b>
<b>15</b>	<b>MAXI VIEWER</b>	<b>132</b>
<b>16</b>	<b>HD 内視鏡</b>	<b>134</b>
16.1	アクセサリ	135
16.1.1	HD 内視鏡カメラ	135
16.1.2	カメラアクセサリ	136
16.1.3	アクセサリアセンブリ	136
16.1.4	技術仕様	138
16.2	操作	138
<b>17</b>	<b>メンテナンスとサービス</b>	<b>141</b>
17.1	メンテナンス方法	141
17.2	トラブルシューティングチェックリスト	141
17.3	バッテリーの使用について	142
17.4	サービス手順	143
17.4.1	技術サポート	143
17.4.2	修理サービス	144
17.4.3	他のサービス	145
<b>18</b>	<b>コンプライアンス情報</b>	<b>146</b>
<b>19</b>	<b>保証</b>	<b>148</b>
19.1	12 か月限定保証	148

# このマニュアルの使用

このマニュアルには、デバイスの使用方法が記載されています。

このマニュアルに示されている図には、システムに含まれていないモジュールやオプション機器が含まれている場合があります。

## 1.1 規則

次の規則が使用されます。

### 1.1.1 太字

太字のテキストは、ボタンやメニューオプションなどの選択可能な項目を強調するために使用されます。

例：

- OK をタップします。

### 1.1.2 注意事項和提示信息

#### ご注意

ご注意は、追加の説明、ヒント、コメントなどの役立つ情報を提供します。

例えば：

---

ⓘ **注意**：新しいバッテリーは、約 3~5 回の充電および放電サイクル後にフル容量に達します。

---

#### 重要

重要は、回避しないとタブレットまたは車両に損傷を与える可能性がある状況を示します。

例えば：

---

❗ **重要**：ケーブルは、高温、油、鋭いエッジ、可動部品から遠ざける必要があります。ケーブルが破損している場合は、すぐに交換してください。

---

### 1.1.3 ハイパーリンク

他の関連記事、手順、および図へのハイパーリンクまたはリンクは、電子文書で入手できます。青色の斜体テキストは選択可能なハイパーリンクを示し、青色の下線付きテキストはウェブサイトリンクまたは電子メールアドレスリンクを示します。

### 1.1.4 図

このマニュアルで使用されているイラストはサンプルであり、実際のテスト画面はテスト対象の車両ごとに異なる場合があります。メニューのタイトルと画面の指示に従って、正しいオプションを選択してください。

### 1.1.5 作業手順

矢印アイコンは手順を示します。

例：

#### ➤ カメラを使用するには

1. **[カメラ]** ボタンをクリックしてカメラインターフェースを開きます。
2. ファインダーで撮影する画像にピントを合わせます。
3. 画面右側のカメラアイコンをタップして写真を撮ります。ファインダーに撮影した写真が表示され、自動的に保存されます。
4. 画面の右上隅にあるサムネイルをタップして、保存されている画像を表示します。
5. **[戻る]** または **[ホーム]** ボタンをクリックして、カメラアプリケーションを終了します。

## 2 製品説明

MaxiSys 909 は、自動車向けの第 3 世代知能診断システムです。Samsung Exynos オクタコアプロセッサをベースにしており、非常に高速でスムーズです。タッチと繊細さに敏感な 9.7 インチ TFT-LCD 静電容量式タッチスクリーンを搭載しています。MaxiSys 909 は、エラーガイダンス、故障コード分析、オンライン保守情報クエリをサポートし、トラブルシューティングと修復を迅速に実現する、強力な自動車知能診断および分析システムです。対象モデルはより完全に更新され、大規模なメンテナンスケースライブラリに依存して、スマートで正確、シンプルかつ効率的な自動車診断ソリューションを提供します。

MaxiSys システムは主に 2 つの部分で構成されています：

- MaxiSys タブレット診断機器-診断システムの中央処理装置とモニター
- VehicleCommunicationInterface (VCI) -車両データにアクセスして取得するために使用される機器

このマニュアルでは、製品の構造と、各デバイスを組み合わせて診断ソリューションを取得する方法について説明します。

### 2.1 MaxiSys タブレット診断機器

#### 2.1.1 機能の説明

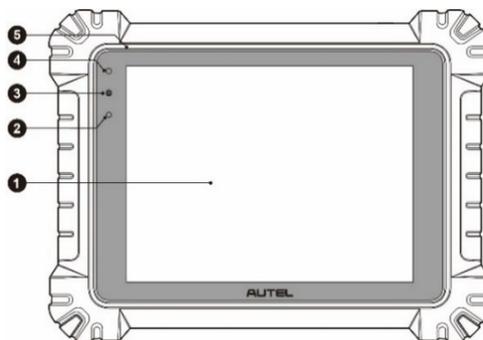
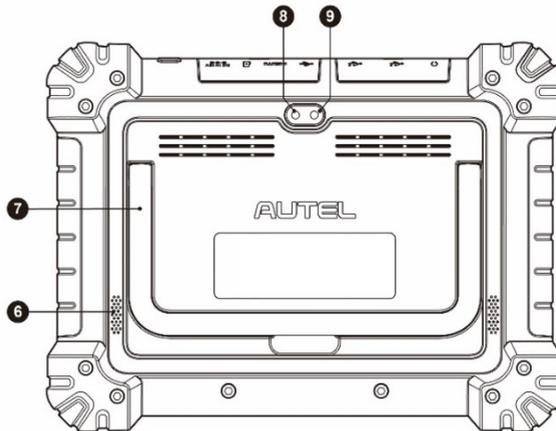


図 2 MaxiSys タブレットの正面図

1. 9.7インチ LED 容量性タッチスクリーン
2. 周囲光センサー-周囲の明るさを検出します
3. 電源 LED インジケータ-詳細については、表 2-1 電源 LED インジケータ-の説明を参照してください
4. フロントカメラ
5. マイクロフォン

**表 2-1 電源 LED インジケータ-の説明**

LED	色	説明
電源	緑	充電中、バッテリー残量は 90%以上の場合、緑色のライトが常に点灯します。電源が入っているときは、電源が 15%を超える場合、緑色のライトが常に点灯します。
	黄	充電中、バッテリー残量は 90%未満で、黄色のライトが常に点灯します。
	赤	電源が入っているとき、バッテリー残量は 15%未満の場合、赤いライトはが常に点灯しています。



**図 2 MaxiSys タブレットの背面図**

6. オーディオスピーカー
7. 折りたたみ式スタンド-背面に取り付けてあり、30度の角度でタブレットをハンズフリーで見ることができます。
8. リアカメラ
9. カメラのフラッシュ

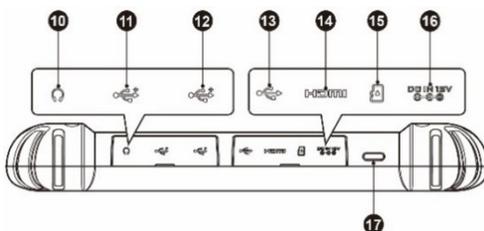


図 2-3 MaxiSys タブレットの上面図

10. ヘッドホンジャック
11. USB ポート
12. USB ポート
13. ミニ USB ポート-このポートと標準の USB ポートを同時に使用することはできません
14. HDMI 接口（高清晰度マルチメディア接口）
15. マイクロ SD カードスロット
16. DC 電源入力ポート
17. ロック/電源ボタン-長押ししてタブレットのオンとオフを切り替えるか、短押しして画面をロックします

## 2.1.2 電源

MaxiSys タブレットは、次のソースのいずれかから電力を受け取ることができます：

- 内蔵バッテリーパック
- AC / DC 電源
- 車両電源

## ❶重要

周囲温度 0~45°Cの範囲でバッテリーを充電してください。温度が範囲外の際にバッテリーを充電すると、バッテリーが発火することがあります。

## 内蔵バッテリーパック

タブレットには内部充電式バッテリーで電力を供給できます。完全に充電すると、約 8 時間の連続動作に十分な電力を供給できます。

## AC / DC 電源

タブレットは、AC / DC 電源アダプターを使用してコンセントから給電できます。AC / DC 電源は、内部バッテリーパックも充電します。

## 車両電源

タブレットは、直接ケーブル接続を介して、シガレットライターまたはテスト車両の他の適切な電源ポートから電力を供給できます。車両の電源ケーブルは、ディスプレイユニットの上部にある DC 電源ポートに接続します。

## 2.1.3 技術仕様

表 2-2 MaxiSys タブレットの仕様

アイテム	説明
操作システム	Android 7.0
プロセッサ	サムスン Exynos8895V コアプロセッサ (2.3GHz クアッドコア Mongoose + 1.7GHz クアッドコア A53)
メモリー	4GB RAM & 128GB オンボードメモリー
ディスプレイ	9.7 インチ TFT-LCD タッチスクリーン、1536x2048 解像度
接続性	<ul style="list-style-type: none"><li>• WiFi2 (802.11 a/b/g/n/ac 2x2 MIMO)</li><li>• BT v.2.1 + EDR</li><li>• GPS</li><li>• USB2.0 (USB ホストタイプ A 2つ、USB ミニデバイス 1つ)</li><li>• HDMI 2.0</li><li>• SD カード (最大 256GB サポート)</li></ul>
カメラ	<ul style="list-style-type: none"><li>• リアカメラ、1600 万ピクセル、フラッシュ付きオートフォーカス</li><li>• フロントカメラ、500 万ピクセル</li></ul>

アイテム	説明
センサー	重力加速度計、周囲光センサー（ALS）
オーディオ入出力	<ul style="list-style-type: none"> <li>• マイクロフォン</li> <li>• デュアルスピーカー</li> <li>• 3バンド3.5 mmステレオ/標準ヘッドセットジャック</li> </ul>
電源とバッテリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1500mAh 3.8 V リチウムポリマー電池</li> <li>• 温度が0° C~45° Cの12 V AC / DC 電源を介した充電</li> </ul>
入力電圧	12V/3A
動作温度	0° から 50° C まで (32° F から 122° F まで)
ストレージ温度	-20° C から 60°Cまで (-4° F から 140° F まで)
寸法 (長さ x 幅 x 高さ)	304.4 mm x 227.8 mm x 42.5 mm
重量	1.66 kg
プロトコル	DoIP, PLC J2497, ISO-15765, SAE-J1939, ISO-14229 UDS, SAE-J2411 Single Wire Can(GMLAN), ISO-11898-2, ISO-11898-3, SAE-J2819 (TP20), TP16, ISO-9141, ISO-14230, SAE-J2610 (Chrysler SCI), UART Echo Byte, SAE-J2809 (Honda Diag-H), SAE-J2740 (GM ALDL), SAE-J1567 (CCD BUS), Ford UBP, Nissan DDL UART with Clock, BMW DS2, BMW DS1, SAE J2819 (VAG KW81), KW82, SAE J1708, SAE-J1850 PWM (Ford SCP), SAE-J1850 VPW (GM Class2)

## 2.2 MAXIFLASH VCI -車両通信インターフェイス

### 2.2.1 機能説明

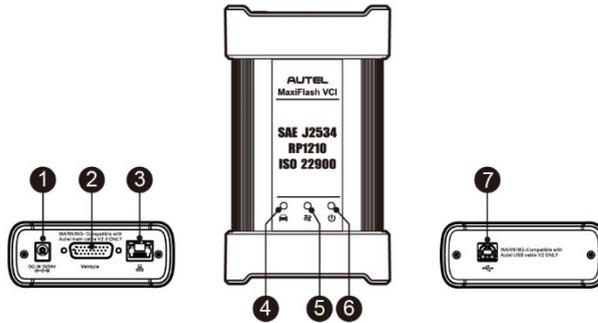


図 2-4 MaxiFlashVCI プログラミングデバイス

1. DC 電源入力ポート
2. 車両データインターフェイス
3. イーサネットポート
4. 車両の LED インジケーター
  - デバイスが車両ネットワークと通信すると、緑色のライトが点滅します
5. LED インジケーターを接続します
  - デバイスは通常、USB ケーブルを介してタブレット診断デバイスに接続されており、緑色のライトは常に点灯しています。
  - Wi-Fi 接続-
  - 使用している場合、シアン（青/緑）ライトは常にオンです。ワイヤレス Bluetooth 接続を使用している場合、青ライトは常にオンです。
6. 電源 LED インジケーター
  - 電源が入っているときは、緑色のライトが常に点灯しています
  - VCI のアップグレード中、赤いライトが点滅します
  - システムエラーが発生し、赤信号が常に点灯している
  - デバイスの電源がオンになると、VCI セルフテスト中に黄色のライトが自動的に点灯します

## 7. USB ポート

### ❗重要：

重要な注意：車両の LED が点灯しているときは、プログラミングデバイスを切断しないでください。車両の ECU がプログラムされている場合、この時点で ECU フラッシュメモリが空であるか、部分的にしか編集されていない可能性があります、プログラムの中断により ECU モジュールが回復不能になる可能性があります。

## プログラミング機能

MaxiFlash VCI デバイスは、D-PDU、SAE J2534 & RP1210 準拠の PassThru プログラミングインターフェイスデバイスです。更新された OEM ソフトウェアを使用して、電子制御ユニット (ECU) の既存のソフトウェア/ファームウェアを置き換え、新しい ECU をプログラミングし、ソフトウェア制御のドライバビリティの問題と排出量の問題を修正することができます。

## 通信能力

Maxi Flash VCI デバイスは、Bluetooth (BT)、Wi-Fi、および USB 通信をサポートし、ケーブル接続の有無にかかわらず、車両データをタブレットに送信できます。オープンエリアでは、BT 通信を介した送信機の動作範囲は最大 328 フィート (約 100m) です。5GWi-Fi の動作範囲は最大 164 フィート (50m) です。信号が失われた場合範囲外に持ち出された場合、タブレットが範囲内に入ると通信が回復します。

## 2.2.2 電源

VCI 機器は、次のチャンネルを介して電源を取得できます：

- 車両の電源
- AC/DC 電源
- 車両の電源

VCI 機器は、車両データポートを介して 12V および 24V の車両電源を取得できます。OBD II / EOBD 診断ソケット (DLC) に接続した後、デバイスを起動できます。OBD II / EOBD と互換性のない車両の場合、デバイスは補助電源コードを使用して、テスト車両のシガレットライターまたはその他の適切な電源ポートから電力を供給することができます。

## AC / DC 電源

VCI デバイスは、AC / DC 電源アダプターを使用して壁のコンセントから電力を供給できます。

## 2.2.3 技術仕様

表 2-3 Maxi Flash VCI 機器仕様

項目	説明
通信	<ul style="list-style-type: none"><li>● BTV. 2.1 + EDR</li><li>● USB 2.0</li><li>● Wi-Fi 5G</li><li>● イーサネット</li></ul>
ワイヤレス受信周波数	5 GHz
入力電圧範囲	12 VDC ~24 VDC
電源電流	<ul style="list-style-type: none"><li>● 170 mA @ 12 VDC</li><li>● 100 mA @ 24 VDC</li></ul>
動作温度	0° C~50° C
保管温度	-20° C~60° C
寸法 (長さ x 幅 x 高さ)	149 mm x 86 mm x 35 mm
重量	0.29 kg

### ⓘ注意

詳細については、付属の VCI デバイスのユーザーマニュアルを参照してください。

## 2.3 アクセサリー

### 2.3.1 メインケーブル

VCI 機器は OBDII/EOBD 互換車両に接続でき、DT0 2.0 バージョンのテストメインラインから電源を供給できます (V2.0 ロゴはメインテストラインに表示されます)。VCI デバイスと車両間の通信がテストメインラインを介して確立された後、VCI デバイスは受信した車両データを MaxiSys タブレット診断デバイスに送信できます。

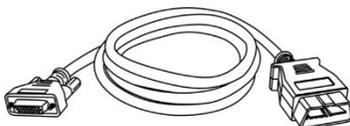


図 25 テストメインライン-長さ 1.5メートル

 注意

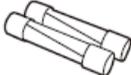
MaxiFlashVCMII および MaxiFlashVCI は、Autel メインケーブル V2.0 でのみ接続できます。他の Autel メインケーブルを使用して MaxiFlashVCMII および MaxiFlashVCI を接続しないでください。

## 2.3.2 OBDI タイプアダプター

OBDI タイプのアダプターは、非 OBDII 車両用です。使用するアダプターは、テストする車両のタイプによって異なります。最も一般的なアダプターを以下に示します（アダプターは別売りの場合があります。詳細については、販売代理店にお問い合わせください）。

 ベンツ-14	 クライスラー-16	 BMW-20	 Nissan -14
 起亜-20	 フィアット-3	 PSA -2	 Mazda-17
 VW/Audi -2+2	 ベンツ-38	 三菱/ヒュンダイ- 12+16	

### 2.3.3 その他のアクセサリ

	<p><b>Autel USB ケーブル (V2 アイコンはケーブルに表示されます)</b> タブレットを VCI ユニットに接続します。</p>
	<p><b>AC / DC 外部電源アダプター</b> タブレットを電源用の外部 DC 電源ポートに接続します。</p>
	<p><b>ライター</b> 一部の非 OBDII 車両は、DLC 接続を介して電力を供給できないため、車両のシガレットライターレセプタクルへの接続を介してタブレットまたは VCI デバイスに電力を供給します。</p>
	<p><b>クリッパーケーブル</b> 車両のバッテリーへの接続を介してタブレットまたは VCI デバイスに電力を供給します。</p>
	<p><b>ヒューズ (2 個)</b> 自動車用電源ソケットの安全装置。</p>

## 3 はじめに

タブレットに十分な電力があるか、外部電源に接続されていることを確認してください。

### 3.1 パワーアップ

タブレット診断装置の右上にある[ロック/電源]ボタンを押して、装置の電源を入れます。システムは3つの入力オプションを表示します。

1. MaxiSys ホーム- MaxiSys ホームアイコンを上にはスワイプして、以下に示す MaxiSys プログラムメニューに入ります。
2. ロック解除-インターフェイスの中央にある「ロック」アイコンを上にはスワイプして画面のロックを解除するか、上にはスワイプして起動時に MaxiSys プログラムメニューに入ります。
3. カメラ-「カメラ」アイコンを上にはスワイプしてカメラを開きます。



図 3-1MaxiSys プログラムのメニュー図

1. アプリケーションメニュー
2. 画面ロケータとナビゲーションボタン
3. ステータスアイコン

## 🔍 ご注意

画面はデフォルトで起動時にロックされます。システム内の情報を保護し、電力を節約するために、使用していないときは画面をロックすることをお勧めします。

タブレット診断デバイスのすべての操作は、タッチスクリーンを介して実行されます。診断プログラムは主にメニュー選択によってガイドされ、ユーザーは一連の質問とオプションを通じてプログラム操作またはデータ検索を実行します。次の章では、各アプリケーションのメニュー操作に関する対応する手順を説明します。

### 3.1.1 アプリケーションメニュー

ユーザーは、アプリケーションメニューからさまざまなアプリケーションを実行することを選択します。次の表で、システムアプリケーションについて簡単に説明します。

表 3-1 アプリケーション

名称	ボタン	説明
診断		ユニットの診断機能にアクセスします。
メンテナンス		特殊機能メニューにアクセスします。「サービス」を参照してください。
データ管理		詳細な車両診断やテスト記録履歴など、保存されたワークショップ、消費者、車両データにアクセスします。「データマネージャー」を参照してください。
設定		システム設定メニューと一般的なタブレットメニューにアクセスします。「設定」を参照してください。
アップデート		システムソフトウェアの更新メニューにアクセスします。「アップデート」を参照してください。
VCI マネージャー		VCI 接続メニューにアクセスします。「VCI マネージャー」を参照してください。

名称	ボタン	説明
ADAS		ADAS システムメニューにアクセスします。101 ページの ADAS を参照してください。
サポート		Autel のオンラインサービスデータベースを MaxiSys タブレットと同期します。「サポート」を参照してください。
リモートデスクトップ		TeamViewer アプリケーションを使用してリモートサポートを受けるようにユニットを設定します。「リモートデスクトップ」を参照してください。
クイックリンク		クイックリンク製品の更新、サービス、サポート、およびその他の情報にすばやくアクセスできるように、関連する Web サイトのブックマークを提供します。「クイックリンク」を参照してください。
関数クエリ		サポートされている機能や車両のクイック検索を提供します。「関数クエリ」を参照してください。
高清内窥镜		イメージングヘッドケーブルを接続することにより、高解像度の内視鏡操作を行い、車両を注意深く検査することができます。詳しくは、「HD 内視鏡検査」をご覧ください。

### 3.1.2 画面ロケータとナビゲーションボタン

画面下部のナビゲーションボタンの操作について、以下の表で説明します：

**表 3-2 屏幕定位器和导航按钮**

名称	ボタン	説明
ロケータ		画面の場所を示します。前または次の画面を表示するには、画面を左右にスワイプします。
戻り		前の画面に戻ります。
アンドロイド d ホーム		アンドロイドシステムのホーム画面に戻ります。

名称	ボタン	説明
最近のアプリ		在動作しているアプリケーションのリストを表示します。アプリのアイコンをタップして起動します。アプリを削除するには、右にスワイプします。
ブラウザー		Chrome インターネットブラウザーを起動します。
カメラ		短押しでカメラを開きます。長押しでスクリーンショット画像を取得して保存します。保存されたファイルは、後で確認できるようにデータマネージャーアプリケーションに自動的に保存されます。
ディスプレイとサウンド		画面の明るさと音声出力の音量を調整できます。
MaxiSys ホーム		MaxiSys プログラムメニューに戻ります。
VCI		VCI 管理プログラムインターフェイスを開きます。右下隅の緑色のアイコンは、VCI デバイスが接続されていることを示します。接続に失敗すると、赤色の「X」アイコンが表示されます。バッテリーステータスアイコンは、残りの電力を示します。
MaxiSys ショートカット		診断画面に戻ります。
サービス		サービス画面に戻ります。

#### ➤ カメラを使用するには

1. カメラボタンをタップします。カメラ画面が開きます。
2. ビューファインダーでキャプチャする画像の焦点を合わせます。
3. 画面右側のカメラアイコンをタップして写真を撮ります。ファインダーに撮影した写真が表示されます。そして自動的に保存します。
4. 画面の右上隅にあるサムネイル画像をタップして、保存されている画像を表示します。
5. 戻るまたは[ホーム]ボタンをタップして、カメラアプリケーションを終了します。

#### ⚠ 注意：

[カメラ]ボタンをクリックしてカメラインターフェイスを開いた後、画面を左から右

にスライドし、青いカメラアイコンまたはビデオアイコンをクリックしてカメラモードとビデオモードを切り替えます。

---

詳細については、Android のドキュメントを参照してください。

### 3.1.3 システムステータスアイコン

これらは、アンドロイドオペレーティングシステムの標準のステータスアイコンです。MaxiSys ディスプレイタブレットは、完全に機能するアンドロイドパッドです。詳細については、アンドロイドのドキュメントを参照してください。

## 3.2 シャットダウン

タブレットをシャットダウンする前に、すべての車両通信を終了する必要があります。タブレットが車両と通信している間にシャットダウンが試行されると、警告メッセージが表示されます。タブレットの通信中に強制的にシャットダウンすると、一部の車両で ECM の問題が発生する場合があります。タブレットの電源を切る前に、診断アプリケーションを終了してください。

➤ **MaxiSys タブレットの電源を切るには：**

1. **ロック/電源ボタン**を長押しします。
2. **電源オフオプション**をタップします。
3. **OK** をタップします。

### 3.2.1 再起動システム

システムがクラッシュした場合は、**ロック/電源ボタン**を長押しし、**再起動**をタップしてシステムを再起動します。

## 4 診断

診断アプリケーションは、エンジン、トランスミッション、アンチロックブレーキシステム（ABS）、エアバッグシステム（SRS）など、さまざまな車両制御システムの電子制御モジュールにアクセスできます。

### 4.1 車両通信の確立とモデルの選択

#### 4.1.1 車両通信の確立

診断操作では、メインケーブルを使用して VCI デバイスを介して MaxiSysMS909 診断タブレットをテスト車両に接続する必要があります。（必要に応じて、該当する OBDII タイプのアダプターを使用してください）。タブレットとの適切な車両通信を確立するには、次の手順を実行する必要があります：

1. 通信と電源供給のために VCI デバイスを車両診断ソケットに接続します。
2. BT ペ어링、Wi-Fi、または USB 接続を介して VCI デバイスをタブレットに接続します。
3. 上記の手順が完了したら、画面の下部バーにある VCI ナビゲーションボタンを確認します。緑色の BT、Wi-Fi、または USB アイコンが右下隅に表示されている場合、MaxiSysMS909 診断プラットフォームは車両診断を開始する準備ができています。

#### 車両接続

VCI デバイスを車両の DLC に接続するために使用される方法は、次のように車両の構成によって異なります：

- OBDII システムと互換性のある車両は、標準の J-1962 診断ソケットを介して通信し、12V の電力を供給します。
- OBDII システムと互換性のない車両は、OBDI アダプター接続を介して通信し、場合によっては、シガレットライターソケットまたは車両バッテリーを接続することによって 12V の電力を供給します。

#### OBDII 車両接続

このタイプの接続には、追加のアダプターなしでメインケーブルのみが必要です。

##### ➤ OBDII 車両に接続するには

1. メインケーブルのメスアダプタを VCI デバイスの VehicleData

Connector に接続し、非脱落型ネジを締めます。

2. テストメインラインの 16 ピンオスアダプターを車両診断ソケットに接続します。これは通常、車両ダッシュボードの下部にあります。

---

ⓘ **注意：**

車両の DLC は常にダッシュの下にあるとは限りません。追加の接続情報については、テスト車両のユーザーマニュアルを参照してください。

---

## 非 OBDII 車両接続

このタイプの接続には、メインケーブルとサービス対象の特定の車両に必要な OBDI アダプターの両方が必要です。

非 OBDII 車両接続には、次の 3 つの条件が考えられます：

- DLC 接続は通信と電力の両方を供給します。
- DLC 接続は通信を供給し、電力はシガレットライター接続を介して供給されます。
- DLC 接続は通信を供給し、電力は車両のバッテリーへの接続を介して供給されます。

### ➤ 非 OBDII 車両に接続するには

1. メインケーブルのメスアダプターを VCI デバイスの車両データインターフェイスに接続し、非脱落型ネジを締めます。
2. 必要な OBDI コネクタを見つけて、その 16 ピンジャックをメインケーブルのオスアダプターに接続します。
3. 接続された OBDI コネクタを車両診断ソケットに接続します。

---

ⓘ **注意：**

一部の車両には、複数のアダプターいる場合や、アダプターの代わりにテストリードがある場合があります。必要に応じて、車両に適切に接続する必要があります。

---

### ➤ シガレットライターを接続するには

1. シガレットライターの DC 電源コネクタをデバイスの DC 電源入力ポートに差し込みます。
2. シガレットライターのオスコネクタを車両のシガレットライターレセプタクルに接続します。

## ➤ クリッパーケーブルを接続するには

1. クリッパーケーブルの管状プラグをシガレットライターのおスコネクタに接続します。

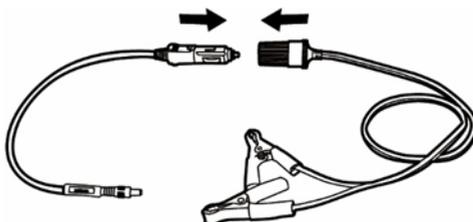


図 4-1 シガレットライターとクリッパーケーブルの接続

2. シガレットライターの DC 電源コネクタを VCI デバイスの DC 電源入力ポートに差し込みます。
3. クリッパーケーブルを車両のバッテリーに接続します。

---

### ⓪注意

VCI デバイスが車両に正常に接続されると、デバイスの電源 LED が点灯し、ピープ音が鳴ります。

---

## VCI 接続

VCI デバイスが車両に正しく接続されると、VCI デバイスの電源 LED が緑色に点灯し、タブレットとの通信を確立する準備が整います。

MaxiSys MS909 ツールキットに付属する VCI デバイスは、タブレットとの 3 つの通信方法 (BT、Wi-Fi、および USB) をサポートします。

## BT 経由でのペアリング

オープンエリアでは、BT 通信の作業範囲は約 328 フィート (100m) であるため、技術者は修理工場のどこからでも車両診断を実行できます。

顧客が多いときに複数の VCI デバイスを使用してテスト車両に接続する場合、BT を介して異なるテスト車両に接続された各 VCI デバイスにタブレットを個別にペアリングすることにより、さまざまな車両で車両診断を便利に実行できます。従来の有線接続では避けられなかった、接続と接続解除の手順を繰り返す必要がないため、より多くの時間を節約し、より効率的になります。

➤ **BT を介してタブレットを VCI デバイスとペアリングするには**

1. タブレットの電源を入れます。
2. MaxiSys プログラムメニューから VCI マネージャーアプリケーションを選択します。
3. VCI Manager アプリケーションを開くと、デバイスは BT ペアリングに使用可能な VCI デバイスを自動的にスキャンします。見つかったデバイスは、画面右側の [設定] セクションに一覧表示されます。

---

 **注意**

VCI デバイスが見つからない場合は、信号強度が弱すぎて検出できない可能性があります。VCI デバイスの位置を変更し、信号干渉を引き起こす可能性のあるすべてのオブジェクトを削除します。右上隅にある [スキャン] ボタンをタップして、VCI を再スキャンします。

---

4. 通常、VCI デバイス名は、シリアル番号がサフィックスとして付いた Maxi として表示されます。ペアリングする VCI デバイスを選択します。(ショップで複数の VCI が使用されている場合は、ペアリングする正しい VCI が選択されていることを確認してください。)
5. ペアリングが成功すると、接続ステータスが「接続済み」と表示されません。
6. タブレットと VCI が接続されている場合、画面下部のタブレットナビゲーションバーの VCI アイコンに緑色の BT アイコンが表示されます。

詳細については、BT ペアリング (102 ページ) を参照してください。

## **通过 Wi-Fi 连接**

VCI デバイスは 5GHz Wi-Fi 接続をサポートしています。オープンエリアでは、5G Wi-Fi 通信の動作範囲は最大 164 フィート (50 m) です。

➤ **Wi-Fi 経由でタブレットを VCI デバイスとペアリングするには**

1. タブレットの電源を入れます。
2. MaxiSys プログラムメニューから VCI マネージャーアプリケーションを選択します。
3. VCI Manager アプリケーションを開くと、タブレットは Wi-Fi 接続に使用可能な VCI デバイスを自動的にスキャンします。見つかった VCI デバイスは、画面右側の [設定] セクションに一覧表示されます。

4. 通常、VCI デバイス名は、シリアル番号がサフィックスとして付いた Maxi と表示されます。接続に必要なデバイスを選択します。
5. ペアリングが成功すると、接続ステータスが「接続済み」と表示されます。
6. タブレットと VCI が接続されている場合、画面下部のタブレットナビゲーションバーの VCI アイコンに緑色の Wi-Fi アイコンが表示されます。

詳細については、101 ページ「Wi-Fi 接続」を参照してください。

## USB ケーブル接続

USB ケーブル接続は、タブレットと VCI デバイス間の通信を確立するための簡単で迅速な方法です。タブレットから VCI デバイスに USB ケーブルを正しく接続すると、画面下部のバーにある VCI ナビゲーションボタンに緑色のチェックマークが表示され、VCI デバイスの USB LED が緑色に点灯し、デバイス間の接続が成功したことを示します。

これで、MaxiSys 診断プラットフォームで車両診断を実行する準備が整いました。

---

### 注意

USB 接続は最も安定した通信を提供するため、ECU プログラミングまたはコーディングを操作するときにはタブレットと VCI の間で推奨される通信モードです。USB 通信方式は、接続されている他の通信モードよりも優先されます。

---

## 通信メッセージなし

- A. タブレットが VCI に接続できない場合、「エラー」メッセージが表示されます。「エラー」メッセージは、タブレットが VCI デバイスと通信していないことを示します。次の手順を実行して、エラーのトラブルシューティングを行ってください：
  - VCI デバイスの電源がオンになっていることを確認します。
  - ワイヤレス接続を使用する場合は、ネットワークが正しく構成され、適切なデバイスが接続されていることを確認してください。
  - 診断中にタブレットが突然通信を失った場合は、信号の中断を引き起こしているオブジェクトがないことを確認してください。
  - VCI 機器が正しく配置されていること、および VCI 機器が上向きに配置されていることを確認します。
  - タブレットを VCI デバイスに近づけます。有線接続を使用する場合は、

ケーブルが VCI にしっかりと接続されていることを確認してください。

- 選択した通信タイプ (BT、Wi-Fi、または USB) で VCI 通信モードが点灯していることを確認します。
- B. VCI デバイスが通信リンクを確立できない場合、メッセージにトラブルシューティング手順が表示されます。通信エラーの考えられる原因は次のとおりです：
- VCI デバイスは車両との通信リンクを確立できません。
  - 車両でサポートされていない診断のために車両システムが選択されました。
  - 車両または VCI コネクタの接続が緩んでいます。
  - 車両のヒューズが飛んでいます。
  - 車両またはデータケースに配線不良があります。
  - データケーブルまたはアダプターに回路エラーがあります。
  - 車両識別番号が間違っていて入力されています。

## 4.1.2 スタートするには

診断アプリケーションを最初に使用する前に、VCI デバイスがタブレットに正しく接続され、通信していることを確認してください。100 ページの「VCI マネージャー」を参照してください。

### 車両メニューのレイアウト

VCI デバイスがテストメインラインを介して車両に接続され、MaxiSys タブレット診断デバイスと正常にペアリングされた後、車両診断操作を開始できます。MaxiSys プログラムメニューの[診断]ボタンをクリックして、車両メニューを開きます。



図 1 車両メニュー画面のサンプル

1. 上部のツールバーボタン
2. メーカーのボタン

### 上部のツールバーボタン

画面上部のツールバーボタンの操作を以下の表にリストして説明します：

表 4 上部のツールバーボタン

名称	ボタン	説明
ホーム		MaxiSys プログラムメニューに戻る。
VID スキャン		このボタンをクリックしてドロップダウンメニューリストを開き、[自動検出]をクリックして自動VINコード検出をします。[手動入力]をクリックしてVINコードまたはナンバープレート番号を手動で入力します。[ナンバープレート/ VINコードのスキャン]をクリックして、カメラがVINコード/ナンバープレート番号をスキャンできるようにします。
すべて		車両メニューにすべての車両ブランドを表示する。
お気に入り		車両メニューによく使用する車両ブランドを表示する。

名称	ボタン	説明
履歴		テストされた車両タイプの保存されたテストレコードを表示します。このオプションは、以前に診断セッションを実行したテスト車両への直接アクセスを提供します。詳細については、228 ページの車両履歴を参照してください。
アメリカ		アメリカ車のメニューを表示します。
ヨーロッパ		ヨーロッパの車のメニューを表示する。
アジア		アジアの車のメニューを表示。
国産車		国産車メニューを表示します。
検索		このボタンをクリックして仮想キーボードを開き、検索に必要な特定の車両ブランドを手動で入力します。
キャンセル		このボタンをクリックして検索インターフェースを終了するか、操作をキャンセルします。

## メーカーボタン

製造業者ボタンには、さまざまな車両のブランド名が表示されます。VCI デバイスがテスト車両に正しく接続された後、診断セッションを開始するために必要なメーカーボタンを選択します。

### 4. 1. 3 車両識別

MaxiSys 診断システムは、車両識別の 5 つの方法をサポートしています。

1. 自動 VIN スキャン
2. 手動入力
3. ナンバープレート/VIN コードをスキャンします
4. 手動車両選択
5. OBD 直接アクセス手動入力

#### 自動 VIN スキャン

MaxiSys 診断システムは、最新の VIN ベースの自動 VIN スキャン機能を備えてお

り、ワンタッチで CAN 車両を識別します。これにより技術者は正確な車両をすばやく検出し、すべての車両の診断可能な ECU をすべてスキャンし、選択したシステムで実行できます。

#### ➤ 自動 VIN スキャンを実行するには

1. MaxiSys プログラムメニューから診断アプリケーションボタンをタップします。車両メニューが表示されます。
2. 上部のツールバーの VIN スキャンボタンをタップします。
3. 自動検出を選択します。テスターは、車両の ECU で VIN スキャンを開始します。テスト車両が正常に識別されると、システムは車両診断画面に直接案内します。



図 2 車両診断画面のサンプル

車両によっては、車両ブランドを選択した後もオート VIN 機能を利用できます。



図 4-4 自動選択画面のサンプル

自動選択を選択すると、システムは自動的に VIN 情報を取得するか、ユーザーが手動で VIN を入力できるようにします。

## 手動入力

自動 VIN スキャン機能をサポートしていない一部の車両では、MaxiSys 診断システムを使用して、車両 VIN を手動で入力するか、VIN ステッカーの写真を撮影して車両をすばやく識別できます。

### ➤ 手動 VIN 入力を実行するには

1. MaxiSys プログラムメニューから**[診断]**アプリケーションボタンをタップします。「**車両メニュー**」が表示されます。
2. 上部のツールバーの**[VID スキャン]**ボタンをタップします。
3. **[手動入力]**を選択します。
4. 入力ボックスをタップして、正しい VIN コードまたはナンバープレート番号を入力します。入力ボックスの右側にあるスキャンアイコンをクリックして、VIN コードまたはナンバープレート番号をスキャンすることもできます。

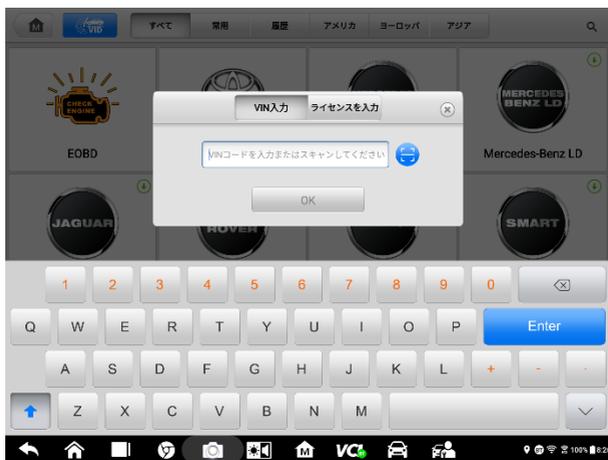


図 4-5 手動 VIN 入力

- 完了をタップします。車両は数秒で識別され、照合が成功すると、システムは車両診断画面に直接案内します（図 4-3）。
- キャンセルをタップして、手動入力を終了します。

## スキャン VIN / ライセンス

ドロップダウンリスト（図 4-3）で[VIN/ライセンスのスキャン]をタップすると、カメラが開きます。画面の右側で、上から下に、バーコードのスキャン、VIN のスキャン、ライセンスのスキャンの 3 つのオプションを使用できます。

### 注意

スキャンライセンスの方法は、一部の国と地域でサポートされています。ライセンス番号が利用できない場合は、手動で入力してください。

3 つのオプションのいずれかを選択し、タブレットを配置してスキャンウィンドウ内で VIN またはライセンス番号を揃えます。スキャン後に結果が[認識結果]ダイアログボックスに表示されます。[OK]をタップして結果を確認すると、タブレットに車両情報確認画面が表示されます。すべての車両情報が正しい場合は、画面中央のアイコンをタップしてテスト対象の車両の VIN を確認し、[OK]をタップして続行します。

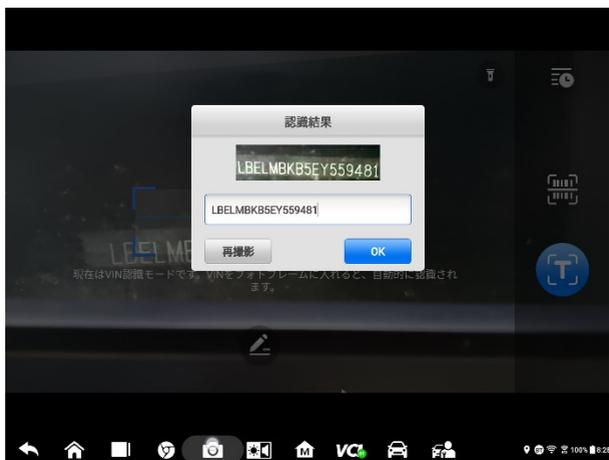


図 4-6 スキャン VIN コード 1 のサンプル

VIN/ライセンス番号をスキャンできない場合は、VIN /ライセンス番号を手動で入力してください。[OK]をタップして続行します。ライセンス番号を手動で入力し、車両情報確認画面で車両ブランドを選択します。画面中央の診断アイコンをタップしてテスト対象の車両のVINを確認し、[OK]をタップして続行します。



図 4-7 スキャン VIN コード 2 のサンプル

## 手動車両選択

車両のVINが車両のECUから自動的に取得できない場合、または特定のVINが不

明な場合は、車両を手動で選択できます。

## 段階的な車両選択

段階的な車両選択モードは、メニューガイドモードです。車両メニュー画面の[メーカー]アイコンを選択すると、車両選択画面が開きます。画面左側の[手動選択]ボタンをクリックしてください。ブランド、モデル、排気量、エンジンタイプ、車両年式など、同じ画面で車両情報を選択します。必要に応じて、[戻る]ボタンをクリックしてください。



図 4-8 手動車両選択画面のサンプル

## 代替車両識別

場合によっては、テスターが認識しないテスト車両を特定することがあります。データベースがサポートしていないか、テスターと通信することを妨げるいくつかの原因が考えられます。これらのインスタンスでは、OBD ダイレクトエントリが提供され、これを介して一般的な OBDII または EOBD テストを実行できます。

## 4.2 診断画面レイアウト

車両情報を選択した後、画面の右下隅にある[OK]ボタン(図 4-9 を参照)をタップして、メインメニューページを開きます。このセクションは、自動スキャン、コントロールユニットなど、一般的に使用されるさまざまな機能で構成されています。表示される機能は車両によって異なります。



図 4-9 車両情報選択画面のサンプル

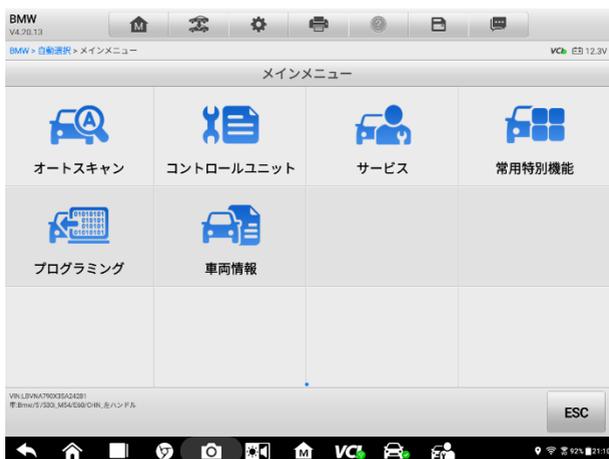


図 4-10 メインメニュー画面のサンプル

### 4.3 自動スキャン

「自動スキャン」機能は、車両 ECU 内のすべてのシステムの包括的なスキャンを実行して、エラーを特定し、故障コードを取得します。[エラースキャン]をクリックして開始します。エラーを検出していないシステムは緑色で表示され、エラーがあるシステムはオレンジ色で表示されます。

➤ 自動スキャン機能を実行するには

例として、ランドローバーのトポロジーを取り上げます：

1. MaxiSys プログラムメニューの[診断]アプリケーションボタンをタップします。対応する車両情報を選択し、車両診断ページに入ります。
2. メインメニューで[自動スキャン]を選択して、診断インターフェイスに入ります。
3. トポロジータブページがメインセクションに表示されます。画面下部のエラースキャンボタンをタップして、車両システムモジュールをスキャンします。
4. エラーが検出されずにスキャンされたシステムは、緑色で表示されます。エラーが検出されてスキャンされたシステムは、オレンジ色で表示されます。合計エラー数が右上隅に表示されます。

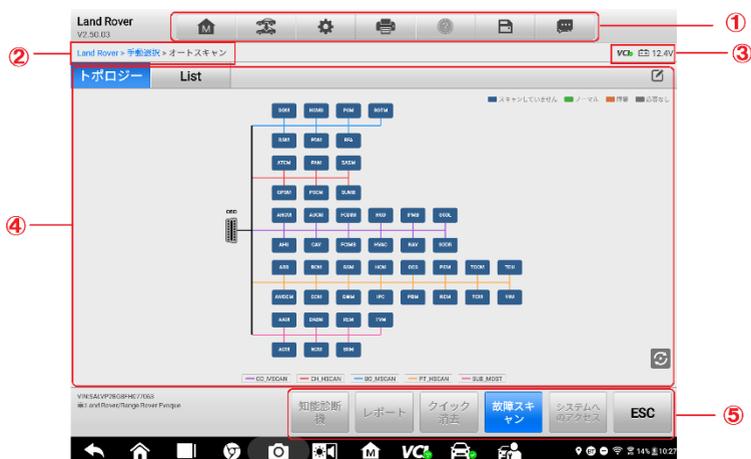


図 4-11 自動スキャン画面のサンプル

### ① 注意

自動スキャン画面では、右上隅に[システムの選択]アイコンがあります。スキャンに対応するシステムを選択すると、すべてのシステムをスキャンするよりも時間を節約できます。

1. 診断ツールバー
2. 現在のディレクトリパス
3. ステータス情報バー
4. メインセクション

## 5. 機能ボタン

### 診断ツールバー

診断ツールバーには、表示されたデータを印刷または保存したり、その他の操作を実行したりできるボタンが含まれています。次の表に、[診断]ツールバーボタンの操作の簡単な説明を示します：

表 4-1 診断ツールバーボタン

名称	ボタン	説明
ホーム		MaxiSys プログラムメニューに戻ります。
車両交換		診断セッションを終了し、車両メニュー画面に戻って、テストする別の車両を選択します。
設定操作		設定画面を開きます。90 ページの <b>エラー! 参照元が見つかりません。</b> を参照してください。
印刷		保表示されたデータのコピーを保存して印刷します。91 ページの <b>エラー! 参照元が見つかりません。</b> を参照してください。
ヘルプ		さまざまな診断機能の操作に関する指示またはヒントを提供します。
保存		<p>タップしてサブメニューを開きます。サブメニューには、表示されているデータを保存するための 3 つのオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>【このページを保存】</b> をタップして、スクリーンショット画像を撮ります</li> <li>• <b>【すべてのデータを保存】</b> をタップして PDF ファイルを保存します（主に 1 ページ以上のデータを保存するために使用されます）</li> <li>• <b>【保存を開始】</b> をタップして、ビデオクリップを記録します（ライブデータまたは特別なグラフデータの記録にのみ使用可能）</li> </ul> <p>保存されたすべてのデータは、後で確認できるようにデータマネージャーアプリケーションに保存されます。</p>

名称	ボタン	説明
データレコード		テスト車両の通信データと ECU 情報を記録します。保存されたデータは報告され、インターネット経由でテクニカルセンターに送信されます。サポートアプリケーションに移動して、処理の進行状況をフォローアップします。

➤ 「診断」でデータを印刷する方法

1. MaxiSys プログラムメニューから[診断]アプリケーションボタンをクリックします。診断ツールバーの[印刷]ボタンは、診断操作を通して利用できます。
2. [印刷]をタップすると、画面にドロップダウンメニューが表示されます。
3. このページを印刷-画面を印刷する
4. すべてのデータを印刷する-表示されているすべてのデータの PDF を印刷します。
5. 一時ファイルが作成され、印刷のためにコンピュータに送信されます。
6. ファイルが正常に転送されると、確認メッセージが表示されます。

🕒 ご注意

印刷する前に、タブレットが Wi-Fi または LAN を介してコンピュータネットワークに接続されていることを確認してください。印刷の詳細については、91 ページの【印刷】を参照してください。

➤ 診断でデータロギングレポートを送信するには

1. MaxiSys プログラムメニューから[診断]アプリケーションボタンをタップします。診断ツールバーのペン型のデータロギングボタンは、診断操作全体で使用できます。
2. [データロギング]ボタン（ペンアイコン）をタップして、エラーオプションを表示します。特定のエラーを選択すると、送信フォームが表示され、レポート情報を入力できます。
3. 画面右上の[送信]ボタンをタップしてインターネット経由でレポートフォームを送信すると、正常に送信されると確認メッセージが表示されます。

## 現在のディレクトリパス

ディレクトリパスには、現在のページにアクセスするためのすべてのディレクトリ名が表示されます。

## ステータス情報バー

メインインターフェースの上部にある「ステータス情報バー」には、次の項目が含まれています：

1. **VCI アイコン**-タブレット診断デバイスと VCMI デバイス間の通信ステータスを表示します
2. **バッテリーアイコン**-車両のバッテリーステータスを示します

## メインセクション

メインセクションは、車両識別の選択、メインメニュー、テストデータ、メッセージ、指示、およびその他の診断情報を表示する操作の段階によって異なります。

自動スキャン画面のメインセクションには、ほとんどの車両のシステムリストと、フォルクスワーゲン、アウディ、BMW、フォード、ランドローバー、ジャガー、クライスラー、フィアット、ボルボなどの一部のメーカーのトポロジーマップが同時に表示されます。

### A. トポロジータブページ

【トポロジー】タブページには、車両制御モジュールのシステム分布図が表示されます。

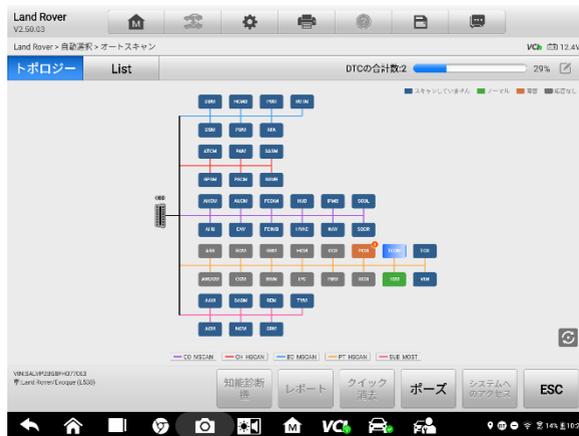


図 4-12 「トポロジー」タブの図

## B. リスタブページ

列 1-システム番号を表示します。

列 2-スキャンされたシステムを表示します。

列 3-スキャン結果を表示します。

- ◇ **-!**-スキャンしたシステムがコード読み取り機能をサポートしていないか、テスターと制御システム間の通信エラーがあることを示します。
- ◇ **-?-**: 車両制御システムが検出されたが、テスターがアクセスできないことを示します。
- ◇ **エラー|#**: 故障コードが検出されていることを示します。「#」は、検出されたエラーの数を示します。
- ◇ **パス|エラーなし**: システムがスキャンされ、エラーが検出されなかったことを示します。
- ◇ **スキャンされていません**: システムがスキャンされていないことを示します。
- ◇ **応答なし**: システムが応答を受信していないことを示します。

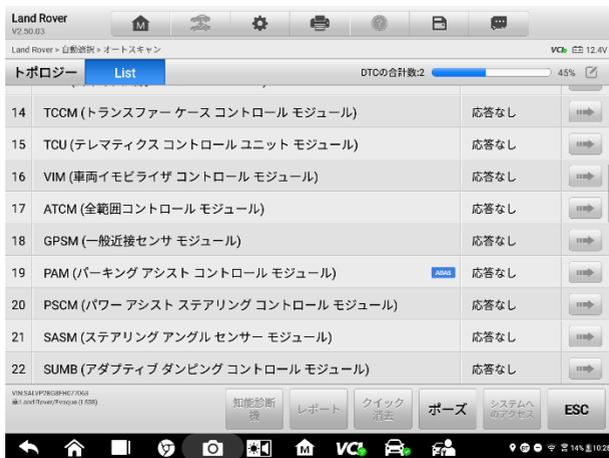


図 4-13 リストタブページのサンプル

## 機能ボタン

画面下部に表示される機能ボタンの種類は、操作によって異なります。機能には、原因、レポート、コードクリア、終了スキャンなどが含まれます。これらのボタンの機能については、以下のセクションで説明します。

次の表に、機能ボタンの操作の簡単な説明を示します：

表 4-2 診断画面の機能ボタン

名称	説明
知能診断	知能診断機能に直接アクセスして、すべての DTC 故障コード分析情報を表示します。詳細については、70 ページの「知能診断操作」を参照してください。
レポート	診断データをレポートフォームに表示します。
クイック消去	スキャン後、すべてのエラー情報をクリアします。
エラースキャン	車両システムモジュールをスキャンします。
一時停止	スキャンプロセスを一時停止します。
システムに入る	ECU システムに入ります。

戻る	戻る 前のページに戻るか、[診断]インターフェースを終了します。
----	----------------------------------

トポロジーまたはリストからシステムモジュールの1つを選択し、[システムの入力]をタップして特定のシステム機能を入力します。

### 🚫 注意

診断ボタンツールバー（画面の上部にあります）は、表示されたデータの印刷と保存、ヘルプ情報の取得、データロギングの実行などのタスクの診断セッション全体でアクティブになります。

## 4.4 コントロールユニット

このオプションを使用すると、一連の選択肢を通じて、テストに必要な制御システムを手動で見つけることができます。メニュー方式の手順に従い、毎回適切な選択を行ってください。プログラムは、いくつかの選択を行った後、診断機能メニューに案内します。



図 4-14 機能メニュー画面のサンプル

利用できる機能は車両によって異なる場合があります。機能メニューには次のものが含まれます：

- **ECU 情報**-詳細な ECU 情報を表示します。情報画面を表示する場合に選択します。

- **故障コード**-読み取りコードと消去コードが含まれています。前者は車両制御モジュールから取得した詳細な DTC 情報を表示し、後者は ECU から DTC やその他のデータを消去するのに役立ちます。
- **ライブデータ**-車両の ECU からライブデータとパラメーターを取得して表示します。
- **アクティブテスト**-特定のサブシステムおよびコンポーネントテストを提供します。この選択は、アクチュエータ、アクチュエータテスト、または機能テストとして表示される場合があります。利用可能なテストは車両によって異なります。
- **特別な機能**-カスタム構成のコンポーネント適応またはバリエーションコーディング機能を提供し、修理後に特定のコンポーネントの適応値を入力できるようにします。テスト車両によっては、この選択がコントロールユニットの適応、バリエーションコーディング、構成などとして表示される場合があります。

#### 4.4.1 画面メッセージ

続行する前に追加の入力が必要な場合、メッセージが表示されます。画面上のメッセージには、確認、警告、エラーの 3 つのタイプがあります。

- **確認メッセージ**

このタイプのメッセージは通常、元に戻せないアクションを実行しようとしているとき、またはアクションが開始されて続行するために確認が必要になるときに、「情報」画面として表示されます。

- **警告メッセージ**

このタイプのメッセージは、選択したアクションを完了すると表示され、元に戻せない変更やデータの損失が発生する可能性があります。このメッセージの例は「Erase Codes」です。

- **エラーメッセージ**

エラーメッセージは、システムエラーまたは手続きエラーが発生したときに表示されます。考えられるエラーには、ケーブルの切断や通信の中断などがあります。

#### 4.4.2 選択を行う

診断アプリケーションは、一連のオプションを一度に 1 つずつ表示するメニュー方式のプログラムです。メニューから選択すると、シリーズの次のメニューが表示されます。選択するたびに焦点が絞り込まれ、目的のテストにつながります。指またはスタイラスペンを使用してメニューを選択します。

## 4.5 ECU 情報

この機能は、コントロールユニットのタイプやバージョン番号など、テストされたコントロールユニットの特定の情報を読み取って表示します。



図 4 15 ECU 情報画面のサンプル

1. 各ボタンの操作の詳細
2. 現在のディレクトリパス
3. ステータス情報バー
4. メインセクション-左側の列にアイテム名が表示されます。右の列には、仕様または説明が表示されます。
5. 機能ボタン-この場合、ESC ボタンのみが使用可能です。表示後にタップして終了します。

## 4.6 故障コード

### 4.6.1 コードの読み取り

この機能は、車両制御システムから DTC を取得して表示します。[コードの読み取り]画面は、テストする車両ごとに異なります。一部の車両では、フリーズフレームデータを取得して表示することもできます。サンプルの[コードの読み取り]画面は次のように表示されます：

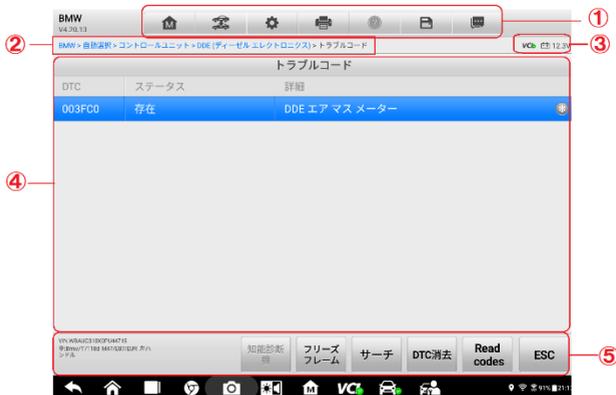


図 4-16 コード読み取り画面のサンプル

1. 診断ツールバー-詳細については、32 ページの表 42 診断ツールバーのボタンを参照してください。
2. 現在のディレクトリパス
3. ステータス情報バー
4. メインセクション
  - 列 1-車両から取得したコードを表示します。
  - 列 2-取得したコードのステータスを示します。
  - 列 3-取得したコードの詳細な説明。
  - 列 4-知能診断画面へのアクセスを提供します。
5. 機能ボタン
  - **知能診断**-タップして知能診断画面に入り、関連する修理ケースとヘルプ情報を確認します。
  - **知能診断**-タップして知能診断画面に入り、関連する修理ケースとヘルプ情報を確認します。
  - **検索**-タップして、選択した DTC でインターネット上の追加情報を検索します。
  - **コードの消去**-タップして ECU からコードを消去します。コードを消去する前に、DTC を読み取り、必要な修復を実行することをお勧めします。
  - **コードの読み取り**-車両制御システムから DTC を取得して表示します。[コードの読み取り]画面は、テストする車両ごとに異なります。
  - **戻る**-タップして前の画面に戻るか、機能を終了します。

## 4.6.2 故障コードの消去

車両から取得したコードを読み取り、特定の修理を行った後、この機能を使用して車両からコードを消去できます。この機能を実行する前に、エンジンがオフの状態では車両のイグニッションキーがオン（RUN）位置にあることを確認してください。

### ➤ コードを消去するには

1. 機能メニューの[コードの消去]をタップします。
2. この機能を適用すると、データが失われたことを通知する警告メッセージが表示されます。
  - a) [はい]をタップして続行します。操作が正常に完了すると、確認画面が表示されます。
  - b) [いいえ]をタップして終了します。
3. 確認画面で【戻る】をタップして、コードの消去を終了します。
4. コードの読み取り機能を再度チェックして、操作が成功したことを確認します。

## 4.7 ライブデータ

この機能を選択すると、選択したモジュールのデータリストが画面に表示されます。制御モジュールで使用可能なデータは、車両ごとに異なります。パラメーターは、ECMによって送信される順序で表示されるため、車両間のばらつきが予想されます。

ジェスチャースクロールを使用すると、データリスト内をすばやく移動できます。データが複数の画面に表示される場合は、画面をタッチして指を上下にドラッグして、表示されているパラメーターの位置を変更します。以下の図は、典型的なライブデータ画面を示しています：



図 4-17 コード読み取り画面のサンプル

1. **診断ツールバーボタン**-画面の上部中央にあるドロップダウンボタンをタップすると、ツールバーボタンが表示されます。各ボタンの操作の詳細な説明については、32 ページの**エラー! 参照元が見つかりません。**を参照してください。
  2. **メインセクション**
    - **名前列**-この列には、パラメーター名が表示されます。
      - a) **チェックボックス**-パラメーター名の左側にあるチェックボックスをタップして、アイテムを選択します。もう一度チェックボックスをタップして、アイテムの選択を解除します。
      - b) **ドロップダウンボタン**-パラメーター名の右側にあるドロップダウンボタンをタップして、データを表示するオプションのモードを提供するサブメニューを開きます。
    - **値列**-パラメーター項目の値を表示します。
    - **範囲列**-最小値と最大値を表示します。
    - **単位列**-パラメーター値の単位を表示します。
- ユニットモードを変更するには、上部のツールバーの**設定ボタン**をタップし、必要なモードを選択します。**エラー! ブックマークが定義されていません。** ページの**エラー! 参照元が見つかりません。**を参照してください。

## ディスプレイモード

メインインターフェースでデータを表示する際に選択できる表示モードは 4 つあり、さまざまなパラメータータイプに応じて表示に最適なモードを選択できます。パラメーター名の右側にあるドロップダウンボタンをタップしてサブメニューを開きます。合計 7 つのボタンが表示されます。左側の 4 つのボタンは、さまざまなデータ表示モードを表し、情報ボタンは追加情報が表示されたときにアクティブ

になります。表示データの単位を切り替えるためのユニット変更ボタンがあります。また、トリガーボタンをタップして、「トリガー設定」ウィンドウを開きます。

名	値	単位
<input type="checkbox"/> 周囲圧	998.89	mbar
<input type="checkbox"/> 周辺温度	14.94	°C
<input type="checkbox"/> バッテリー電圧	14.47	mV
<input type="checkbox"/> クーラント温度	28.93	°C
<input type="checkbox"/> データレベル	0_Q3M947	
<input type="checkbox"/> エンジン回転数	833.89	r/min
<input type="checkbox"/> 吸気温度(モーター回転時のみ)	26.95	°C

図 4-18 表示モード画面のサンプル

各パラメーター項目は、選択したモードを個別に表示します。

- ◇ **アナログゲージモード**-各パラメーターをゲージチャートに表示します。
- ◇ **テキストモード**-各パラメーターをテキストリストとして表示するデフォルトモードです。

### ⓘ 注意

ON、OFF、ACTIVE、ABORT などのスイッチ読み取り値などのステータスパラメーターは、テキストモードでのみ表示できます。センサー読み取り値などの値パラメーターは、テキストモードとグラフモードの両方で表示できます。

- ◇ **波形グラフモード**-波形グラフにパラメーターを表示します。

このモードでは、パラメーター項目の右側に 5 つのコントロールボタンが表示され、表示ステータスを操作できます。



図 4-19 波形グラフモード画面のサンプル

1. **設定ボタン (SetY)** -Y 軸の最小値と最大値を設定します。
2. **スケールボタン**-スケール値を変更します。

右側の波形グラフの上に表示される 2 つのスケールボタンがあり、グラフの X 軸と Y 軸のスケール値を変更するために使用できます。X 軸には 4 つのスケールがあります : x1、x2、x4、および x8。Y 軸には、x1、x2、および x4 の 3 つのスケールがあります。

3. **編集ボタン**-波形の色と線の太さを編集します。
4. **ズームインボタン**-1 回タップすると、選択したデータグラフが全画面で表示されます。
5. **終了ボタン**-タップして波形グラフモードを終了します。

**全画面表示**-このオプションは、波形グラフモードでのみ使用でき、主にデータ比較のためのグラフマージステータスで使用されます。このモードでは、画面の右上に 3 つのコントロールボタンがあります。

- **スケールボタン**-タップして、波形グラフの下のスケール値を変更します。X 軸には x1、x2、x4、x8 の 4 つのスケールがあります。Y 軸には x1、x2、x3 および x4 の 3 つのスケールがあります。
- **編集ボタン**-タップして編集ウィンドウを開きます。編集ウィンドウでは、選択したパラメーター項目に表示される波形の色と線の太さを設定できます。
- **ズームアウトボタン**-タップして全画面表示を終了します。
- **終了ボタン**-タップして波形グラフモードを終了します。

➤ データグラフの波形の色と線の太さを編集するには

1. 波形グラフモードで表示するパラメーターを選択します。
2. 編集ボタンをタップすると、編集ウィンドウが表示されます。

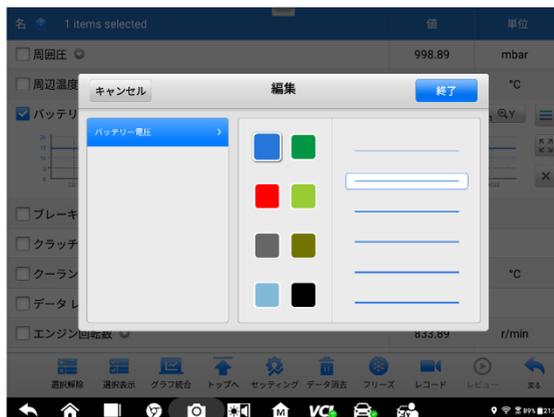


図 4-20 波形編集画面のサンプル

3. パラメーター項目は、左側の列で自動的に選択されます。
4. 2番目の列から色を選択します。
5. 右側の列から線の太さを選択します。
6. [完了]をタップして設定を保存して終了するか、[キャンセル]をタップして保存せずに終了します。

---

🔍 注意

全画面表示の場合は、画面右上の編集ボタンをタップして波形の色と線の太さを編集してください。

---

### トリガー設定

トリガー設定画面で、最小値と最大値を入力して標準範囲を設定できます。この範囲を超えると、トリガー機能が実行され、生成されたデータが自動的に記録・保存されます。画面下部の「レビュー」ボタンをタップしてライブデータを保存します。

パラメーター名の右側にあるドロップダウンボタンをタップしてサブメニューを開きます。トリガーボタンはサブメニューの最後のボタンです。タップするとトリガー設定ウィンドウが表示されます。

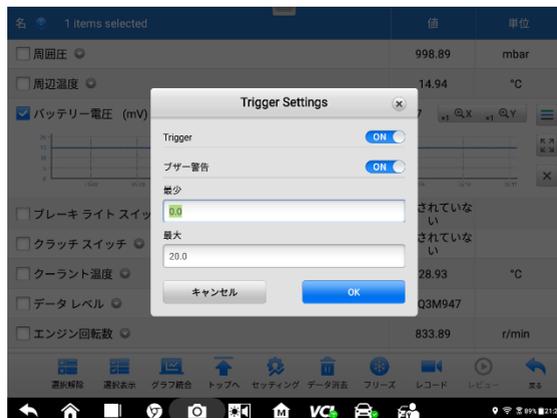


図 4-21 トリガー設定画面のサンプル

「トリガー設定」ウィンドウでは、2つのボタンと2つの入力ボックスを使用できます。

- a) **トリガーオン**-トリガー機能をオンまたはオフにします。デフォルトの状態は「オン」です。
- b) **ブザーアラーム**-アラーム機能をオンまたはオフにします。機能を有効にした後、データの読み取り値が事前設定された最小値または最大値を超えると、アラームはリマインダーとして「ピープ音」を鳴らし、初めてトリガーされたときにのみ鳴ります。
- c) **最小値**-入力ボックスをクリックして仮想キーボードを開き、下限値を設定します。
- d) **最大値**-入力ボックスをクリックして仮想キーボードを開き、上限値を設定します。

#### ➤ トリガーの設定方法

1. パラメーター名の右側にあるドロップダウンボタンをクリックして、サブメニューを開きます。
2. サブメニュー右側の[トリガー]ボタンをクリックして、トリガー設定ウィンドウを開きます。
3. 右側の[最小値]ボタンをクリックして、最小値を入力します。

4. 右側の[最大値]ボタンをクリックして、最大値を入力します。
5. [OK]をクリックして設定を保存し、[データストリームの読み取り]インターフェイスに戻るか、[キャンセル]をクリックして設定を保存せずに終了します。

トリガー設定が成功すると、パラメーター名の前にトリガーマークが表示されます。トリガーされていない場合、マークは灰色になります。トリガーされると、トリガーマークはオレンジ色に変わります。さらに、各データグラフに 2 本の水平線が表示され、アラームトリガーの制限を示します。限界線は、パラメーター波形と区別するために異なる色で表示されます。

◇ **デジタルメーターモード**-パラメーターをデジタルメーターグラフィックの形式で表示します。

### 3. 機能ボタン

ライブデータ画面で使用可能なすべての機能ボタンの操作を以下に説明します。

- ◇ **すべてキャンセル**-このボタンをタップすると、選択したすべてのパラメーター項目がキャンセルされます。一度に最大 50 個のパラメーターを選択できます。
- ◇ **選択したアイテムを表示/すべて表示**-このボタンをクリックして、これら 2 つのオプションを切り替えます。一方は選択したパラメーター項目を表示し、もう一方はすべてのパラメーター項目を表示します。
- ◇ **グラフのマージ**-このボタンをタップして、選択したデータグラフをマージします（波形グラフモードの場合のみ）。この機能は、さまざまなパラメーターを比較する場合に非常に便利です。

---

#### 注意

このモードは、デジタルで表現できる 2~5 個のパラメーターのグラフマージをサポートします。非デジタルパラメーターはサポートされません。

---

#### ➤ 選択したデータグラフをマージするには

1. マージするパラメーターを選択します。
2. ライブデータ画面の下部にある**グラフマージボタン**をタップします。
  - a) このモードは、デジタルで表現できるパラメーターのみをサポートします。非デジタルパラメーターが選択されている場合、選択したパラメーターがこのモードではサポートされていないこと、および 2~5 個のデジタルパラメーターを選択することをユーザーに通知するメッセージが表示されます。ボタンをクリックして前の画面に戻り、サポートされているパラメーターを選択します。
  - b) このモードでサポートされていないパラメーターが選択されている

場合、サポートされているパラメーターのみを選択するようにユーザーに通知するメッセージが表示されます。5 つ以上のパラメーターが選択されている場合もメッセージが表示されます。サポートされているパラメーターを入力し、[OK] ボタンをタップしてマージします。

3. ライブデータ画面の下部にある[マージのキャンセル] ボタンをタップして、マージをキャンセルします。

◇ **トップへ**-選択したデータ項目をリストのトップに移動します。

◇ **設定**-このボタンをタップして、録画時間を設定します。5 秒、15 秒、30 秒、60 秒、90 秒の 5 つのオプションを使用できます。

➤ **ライブデータレコードの期間を設定するには**

1. ライブデータ画面下部の設定ボタンをタップします。

2. トリガーバーの後に時間を記録する右側の> ボタンをタップし、時間の長さを選択します。

3. [OK] をタップして設定を保存し、[ライブデータ設定] 画面に戻るか、右上隅の[X] ボタンをタップして保存せずに終了します。

4. [ライブデータ設定] 画面の右上隅にある[完了] をタップして設定を確認して保存し、[ライブデータ] 画面に戻るか、[キャンセル] をタップして保存せずに終了します。

◇ **データのクリア**-このボタンをタップして、キャッシュされたすべてのライブデータをクリアします。

◇ **フリーズ**-取得したデータをフリーズモードで表示します。

- 前のフレーム-フリーズしたデータの前のフレームに移動します。
- 次のフレーム-フリーズしたデータの次のフレームに移動します。
- 再生/一時停止-タップして、フリーズしたデータを再生/一時停止します。
- 再開-タップしてフリーズデータモードを終了し、通常のデータ表示に戻ります。

◇ **記録**-選択したデータ項目のライブデータの記録を開始します。ライブデータ画面下部の録音ボタンをタップすると、録音するパラメーターを選択するように促すメッセージが表示されます。[取得] ボタンをタップして確認します。下にスクロールして、記録するデータを選択します。[記録] ボタンをタップして、記録を開始します。[再開] ボタンをタップして記録を停止します。記録されたライブデータは、[ライブデータ] 画面の下部にある[レビュー] セクションで表示できます。記録されたデータは、Data Manager アプリケーションで確認することもできます。

● 再開-このボタンをタップすると、データの記録が停止し、通常のデータ表示に戻ります。

● フラグ-このボタンは、記録機能が適用されたときに表示されます。このボタンをタップして、データを記録するときに関心のあるポイントにメ

モを設定します。レビューまたはデータマネージャーでの再生中にメモを追加できます。プリセットフラグを選択してポップアップウィンドウを開き、ノートを入力するための仮想キーボードを表示します。

◇ **レビュー**-記録されたデータをレビューします。[レビュー]ボタンをタップして記録リストを表示し、レビューする項目を1つ選択します。

---

### 注意

ライブデータ画面で確認できるのは、現在の操作中に記録されたデータのみです。過去に記録されたすべてのデータは、Data Manager アプリケーションの「データの確認」で確認できます。

- 前のフレーム-クリックすると、前のフレームのデータが表示されます。
- 次のフレーム-記録されたデータの次のフレームに切り替えます。
- 再生/一時停止-タップして、記録されたデータを再生/一時停止します。
- 選択を表示-選択したパラメーター項目を表示します。
- グラフのマージ-選択したデータグラフをマージします。
- 戻る-レビューを終了し、ライブデータ画面に戻ります。

◇ **戻る**-前の画面に戻るか、機能を終了します。

## 4.8 アクティブテスト

アクティブテスト機能は、車両固有のサブシステムおよびコンポーネントテストにアクセスするために使用されます。使用可能なテストは車両によって異なります。

アクティブテスト中、タブレットは ECU にコマンドを送信してアクチュエーターをアクティブにします。このテストでは、ECU データを読み取るか、アクチュエーターの動作を監視することにより、システムまたは部品の整合性を判断します。このようなテストには、ソレノイド、リレーの切り替えが含まれる場合があります。または2つの動作状態間の切り替えを行います。

アクティブテストを選択すると、テストオプションのメニューが表示されます。使用可能なテストは車両によって異なります。メニューオプションからテストを選択します。画面に表示される指示に従ってテストを完了します。手順は車両によって異なります。

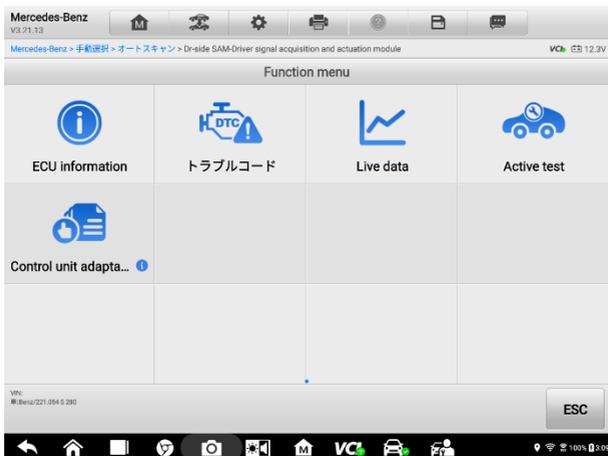


図 4-22 アクティブテスト画面のサンプル 1



図 4-23 「アクションテスト」画面のサンプル 2

アクティブテスト画面の右下隅にある機能ボタンは、テスト信号を操作します。操作手順は、テスト画面のメインセクションに表示されます。画面の指示に従い、適切な選択を行ってテストを完了します。終了したら、【戻る】をタップしてテストを終了します。

## 4.9 特殊機能

これらの機能は、修理または交換が完了した後の特定のコンポーネントの再調整または構成を含む、さまざまなコンポーネントの適応を実行します。



図 4-24 “特殊機能画面のサンプル 1

機能を選択すると、機能の詳細情報と実行画面が表示されます。



図 4-25 特殊機能画面のサンプル 2

リストタブページ：

- 列 1-実行されている機能の説明を表示するか、特別な機能に対応するライブデータを表示します。
- 列 2-完了またはアクティブ化などの実行ステータスを表示するか、特別な機能に対応するライブデータ値を表示する場合があります。
- 列 3-ライブデータの測定単位を表示します。

機能ボタンをタップして、選択した機能を実行するか、機能を終了します。

## 4.10 プログラミングとコーディング

OBD II の導入以来、最新のハイブリッドおよびEVに至るまで、自動車のハードウェアおよびソフトウェアテクノロジーは飛躍的に進歩しており、ソフトウェアの更新が次の問題を解決する唯一の方法である可能性があります。

- ドライブビリティ
- 燃費
- 電力損失
- 故障コード
- 機械部品の耐久性

プログラミングおよびコーディング機能は、車両制御モジュールを再フラッシュするために使用されます。これにより、車両のコンピュータソフトウェアを最新バージョンに更新したり、修理または交換後に特定のコンポーネントの適応データを再プログラミングしたりできます。

---

### 注意

プログラミング機能は、車両が VCMi デバイスに接続されている場合에만適用されません。VCMi デバイスは、車両の ECU との通信を確立してデータを転送するための PassThru インターフェイスとして機能します。

---

利用可能なプログラミングまたはコーディング操作はテスト車両によって異なります。タブレットメニューには、利用可能な操作のみが表示されます。

プログラミング操作には、次の2つの一般的なタイプがあります。

- A. コーディング-ティーチインプログラムまたはコンポーネントアダプテーションとも呼ばれ、車両部品の修理または交換後に車両制御モジュールのアダプティブデータを再プログラムするために使用されます。
- B. 再プログラミング-インターネットアクセスを介してオンラインサーバーデータベースから最新バージョンのソフトウェアをダウンロードし（この手順はタブレットがインターネットに接続されているときに自動的に実行されるため、ソフトウェアの更新を自分で確認する必要はありません）、最新バージョンを再プログラミングします車両の ECU へのバージョン。

---

 **注意**

ECU プログラミング機能を適用する前に、タブレットがインターネットに接続されていることを確認してください。これにより、タブレットは更新サービスのために自動車メーカーのサーバーにアクセスできるようになります。

---

プログラミングまたはコーディング機能を選択すると、車両のメーカーとモデルによって異なる操作オプションのメニューが開きます。メニューオプションを選択すると、プログラミングインターフェイスが表示されるか、追加の選択肢の別のメニューが開きます。プログラミングまたはコーディング操作を実行するときは、画面の指示に従ってください。画面に表示される情報は、実行されている操作の種類によって異なります。

## 4.10.1 コーディング

コーディング画面のメインセクションには、車両コンポーネントのリストと、主に2つの部分で構成されるコーディング情報が表示されます。



図 4-26 コーディング画面のサンプル

1. コーディングに使用できるすべてのシステムが左側に表示され、コーディングデータまたは値が右側に表示されます。
2. メインセクションの下部には、操作できる機能ボタンが表示されます。車の状態とコーディング情報を注意深く確認し、ファンクションキーを使用して対応するコンポーネントのコードを編集し、すべてのプロジェクト編集が終了したら[送信]をクリックします。操作が完了すると、画面に「完了」、「終了」、「成功」などの実行状況情報が表示されます。

戻るボタンをタップして機能を終了します。

## 4. 10. 2 再プログラミング操作

### 再プログラミングを開始する前に

- タブレットが安定した Wi-Fi ネットワークに接続されていることが必須です。
- タブレットは USB で VCOM に接続する必要があります。
- モジュールのプログラミング中にタブレットのバッテリーを完全に充電する必要があります。必要に応じてタブレットを充電器に接続します。
- バッテリーメンテナーを車両のバッテリーに取り付けて、プログラミング全体で安定した電圧が維持されるようにします。電圧要件は車両メーカーによって異なります。モジュールをプログラミングする前に、車両メーカーの推奨事項を参照してください。
- モジュールのプログラミングプロセス中は、アプリケーションを閉じないでください。この操作により、プログラミングが失敗し、モジュールが恒久的に損傷する可能性があります。

通常の再プログラミング操作では、最初に VIN 番号を入力して検証する必要があります。入力ボックスをタップして正しい番号を入力すると、プログラミングインターフェイスが表示されます。

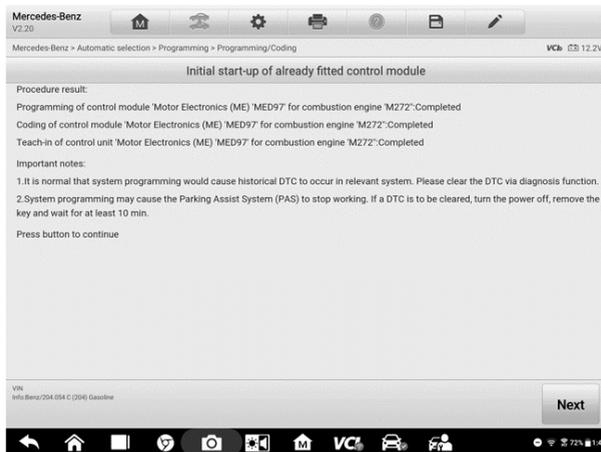


図 4-27 再プログラミング操作画面のサンプル

再プログラミングインターフェイスのメインセクションには、ハードウェア、現在のソフトウェアバージョン、およびコントロールユニットにプログラムされる最新のソフトウェアバージョンの情報が表示されます。

プログラミング手順をガイドする一連の画面上の操作手順が表示されます。

画面上の情報を注意深く読み、指示に従ってプログラミング手順を実行します。

### 4. 10. 3 更新エラー

#### ❗ 重要

車内で再プログラミングするときは、常に車両のバッテリーが完全に充電され、良好な動作状態にあることを確認してください。再プログラミング中に、電圧が適切な動作電圧を下回ると、動作が失敗する場合があります。失敗した動作を回復できる場合もありますが、失敗した再プログラミングによって制御モジュールが破損することもあります。プログラミング全体を通して安定した電圧が維持されるように、外部バッテリーメンテナーを車両に接続することをお勧めします。必要な電圧は車両メーカーによって異なります。維持する正しい電圧については、車両メーカーにお問い合わせください。

フラッシュの更新手順が正しく完了しない場合があります。フラッシュエラーの一般的な原因には、タブレット、VCM1、および車両間のケーブル接続不良、フラッシュ手順が完了する前に車両のイグニッションがオフになっている、車両のバッテリー電圧が低いなどがあります。

プロセスが終了した場合は、すべてのケーブル接続を再確認して通信が良好であることを確認し、フラッシュ手順を初期化します。前の操作が成功しなかった場合、プログラミング手順が自動的に繰り返されます。

## 4.11 一般的な OBDII 操作

OBD II / EOBD 車両診断は、DTC のチェック、ダッシュボードで照らされた誤動作インジケータランプ (MIL) の原因の特定、排出ガス認証テストの前のモニターステータスのチェック、修理の検証、およびその他の排出ガス関連サービスの実行をすばやく行う方法を提供します。OBDII ダイレクトアクセスオプションは、診断データベースに含まれていない OBDII/EOBD 準拠の車両のテストにも使用されます。画面上部の診断ツールバーボタンは、特定の車両診断に使用できます。詳細については、表 4-2 診断ツールバーボタン (28 ページ) を参照してください。

### 4.11.1 一般的な手順

- **OBDII/ EOBD 診断機能にアクセスするには**
  1. MaxiSys プログラムメニューの [診断] アプリケーションボタンをクリックすると、「車両メニュー」が表示されます。
  2. EOBD ボタンをタップします。車両との通信を確立するには、2 つのオプションがあります：
    - **自動スキャン**-車両が使用しているプロトコルを判別するために、各プロトコルを使用して通信を確立するために選択します。
    - **プロトコル**-選択すると、さまざまなプロトコルのサブメニューが開きます。通信プロトコルは、ECM と診断ツール間のデータ通信の標準化された方法です。グローバル OBD は、いくつかの異なる通信プロトコルを使用する場合があります。
  3. [プロトコル] オプションが選択されている場合は、特定のプロトコルを

選択します。OBDII 診断メニューが表示されるのを待ちます。



図 4-28 OBDII 診断メニューのサンプル

4. 機能オプションを選択して続行します。

- DTC & FFD
- I / M 準備完了ステータス
- ライブデータ
- O2 センサーモニター
- オンボードモニター
- コンポーネントテスト
- 車両情報
- 車両ステータス

---

ⓘ 注意

サポートされている機能は車両によって異なる場合があります。

---

## 4. 11. 2 機能の説明

このセクションでは、各診断オプションのさまざまな機能について説明します：

### 4. 11. 2. 1 DTC と FFD

この機能を選択すると、画面に保存されているコードと保留中のコードのリスト

が表示されます。特定の DTC のフリーズフレームデータを表示できる場合は、DTC アイテムの右側にスノーflake ボタンが表示されます。コードの消去機能を使用できます。画面下部の機能ボタンをタップして適用します。



図 4-29 DTC と FFD 画面のサンプル

### ● 現在のコード

現在のコードは、車両の ECU からの排出量関連の DTC です。OBDII/EOBD コードは、排出量の重大度に応じて優先度が高く、優先度の高いコードが優先度の低いコードを上書きします。コードの優先度によって、エラー表示灯 (MIL) の点灯とコードの消去手順が決まります。メーカーはコードのランク付けが異なるため、表示は車両によって異なると予想されます。

### ● 保留中のコード

これらは、最後のドライブサイクル中に保存条件が満たされているが、DTC が保存される前に 2 つ以上の連続したドライブサイクルで満たされる必要があるコードです。保留中のコードを表示する目的は、診断情報がクリアされ、車両の修理後にサービス技術者を支援することであり、1 回の運転サイクル後にテスト結果を報告します。

- 運転サイクル中にテストが失敗した場合、関連する DTC が報告されます。40~80 のウォームアップサイクル内に保留中のエラーが再び発生しない場合、エラーはメモリから自動的にクリアされます。
- プログラムによって報告されたテスト結果は、必ずしもコンポーネントまたはシステムのエラーを示しているとは限りません。別の運転サイク

ルの後、テスト結果が再びエラーがあることを示した場合、この時点で故障コードが保存され、コンポーネントまたはシステムにエラーがあることを示します。

#### ● フリーズフレーム

ほとんどの場合、保存されたフレームは最後に報告された DTC です。車両の排出量に大きな影響を与える特定の DTC は、優先度が高くなります。このような場合、最も優先度の高い DTC は、フリーズフレームレコードが保持される DTC です。フリーズフレームデータには、DTC が保存された時点での重要なパラメーター値の「スナップショット」が含まれています。

#### ● コードの消去

このオプションは、DTC、フリーズフレームデータ、特定のメーカー拡張データを含むすべての排出ガス関連の診断データを車両 ECU からクリアするために使用されます。このオプションは、すべての車両モニターの I/M 準備モニターステータスを未準備または未完了ステータスにリセットします。

「**トラブルコードのクリア**」オプションを選択すると、偶発的なデータ損失を防ぐために確認インターフェイスが画面に表示されます。確認インターフェイスで、**[はい]**を選択して続行し、**[いいえ]**を選択して終了します。

### 4.11.2.2 I/M 準備完了状態

この機能は、監視システムの準備ができているかどうかを確認するために使用されます。車両が国の排出基準を満たしているかどうかを確認する前に、この機能を使用してセルフチェックを実行できます。**[I / M 準備完了状態]**を選択してサブメニューを開きます。サブメニューには2つのオプションがあります：

- **DTC がクリアされてから**-最後に DTC が消去されてからのモニターのステータスを表示します。
- **この運転サイクル**-現在の運転サイクルの開始以降のモニターのステータスを表示します。

### 4.11.2.3 ライブデータ

この機能により、ECU からのリアルタイム PID データの表示が可能になります。表示されるデータには、アナログおよびデジタルの入出力、および車両データストリームでブロードキャストされるシステムステータス情報が含まれます。

ライブデータはさまざまなモードで表示できます。詳細については特殊機能 (56 ページ) を参照してください。

#### 4.11.2.4 センサーモニター

この機能により、車両の車載コンピュータに保存されている最近の O2 センサーモニターのテスト結果を取得して確認できます。

O2 センサーモニターテスト機能は、コントローラーエリアネットワーク (CAN) を使用して通信する車両ではサポートされていません。CAN 搭載車両の O2 センサーモニターテスト結果については、オンボードモニターを参照してください。

#### 4.11.2.5 オンボードモニター

この機能を使用すると、オンボードモニターテストの結果を表示できます。テストは、サービス後に車両のコントロールモジュールのメモリがすでに消去されている場合に役立ちます。

#### 4.11.2.6 コンポーネントテスト

この機能は、電子制御モジュールの双方向制御を実行でき、診断ツールは、車両システムを操作するための制御命令を送信できます。この機能は、特定のコマンドに対する電子制御モジュールの応答をチェックすることにより、正常に動作しているかどうかを判断します。

#### 4.11.2.7 車両情報

この機能により、車両識別番号 (VIN)、校正識別番号、校正検証番号 (CVN)、およびその他のテスト車両の情報を表示できます。

#### 4.11.2.8 車両ステータス

この機能は、OBDII モジュールの通信プロトコル、故障コードの数、エラー表示灯 (MIL) のステータスなど、車両の現在の状態をチェックします。

### 4.12 診断レポート

#### 4.12.1 プレスキャンとポストスキャン

プレスキャンおよびポストスキャン機能を実行するには

1. 車両の自動スキャン-自動VID 機能により、車両とその装備システムを自動的に識別できます。すべてのシステムで使用可能なすべてのモジュールが自動的にスキャンされ、DTC とコードの詳細が一覧表示されます。

2. Pre-SCAN レポートの印刷-車両の画像をタブレットで撮影して SCAN レポートに添付できます。レポートファイルを生成して送信できます。レポートは、ショップや車両の情報を使用してカスタマイズできます。

3. 車両の修理-最初から効率的な修理計画を作成します。

4. Auto SCAN 修理済み車両-修理中に新しいエラーが発生していないこと、および完了時に DTC が存在しないことを確認します。

5. ポストスキャンレポートの印刷-プレスキャンレポートのすべての DTC が修正されていることを証明します。

## 4. 12. 2 診断レポート PDF

診断レポートは、MaxiSys 919 プラットフォームの複数のアプリケーションで確認、保存、および印刷できます。

a) 履歴機能から確認：

- 診断メインページに入り、トップツールバーの履歴をタップします。

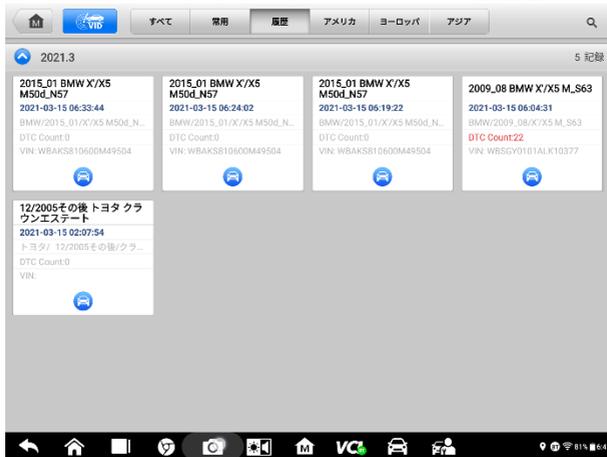


図 4-30 履歴画面のサンプル

- 履歴レコードを選択し、右上隅の \*\*\* ボタンをタップして、PDF ドキュメントを表示、印刷、電子メールで送信、または履歴テストを削除します。



図 4-31 履歴テスト画面のサンプル

b) 自動スキャン機能から確認：

- 「自動スキャン」ページに入り、ファンクションボタンバーの[失敗スキャン]ボタンをクリックします。



図 4-32 自動スキャン画面のサンプル 1

- システムスキャンが完了したら、画面下部の機能ボタンバーの[レポート]をタップします。



図 4-33 自動スキャン画面のサンプル 2

- 診断ツールバーのボタンをタップし、[すべてのデータを保存]を選択して PDF ドキュメントを保存するか、[このページを保存]を選択して現在のページのスクリーンショットを保存します。



図 4-34 自動スキャン画面のサンプル 3



図 4-35 PDF ドキュメント画面のサンプル

c) ナビゲーションバーの機能から確認

- 診断レポートは、自動スキャン、コードの読み取り、ライブデータ、アクティブテストなどの診断機能画面からも表示できます。診断ツールバーのボタンをタップし、[すべてのデータを保存]を選択してPDF ドキュメントを保存するか、[このページを保存]を選択して現在のページのスクリーンショットを保存します。

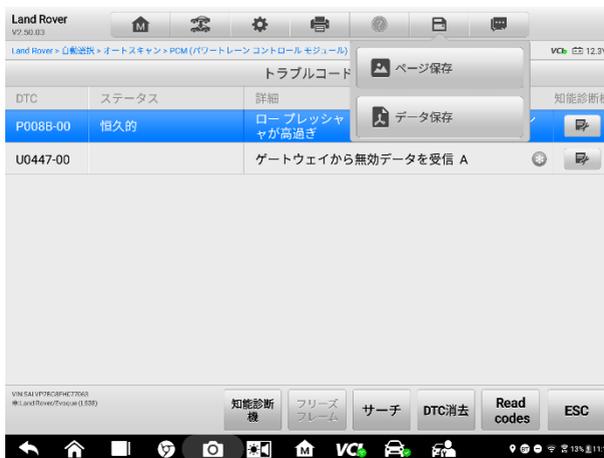


図 4-36 コードを読む画面のサンプル

## 4.13 車両診断の終了

診断アプリケーションは、車両との通信がアクティブな状態で動作します。診断アプリケーションを閉じる前に、診断操作画面を適切に終了して、車両とのすべての通信を停止することが重要です。

---

### ⓘ 注意：

通信が途絶えると、車両の電子制御モジュール（ECM）が損傷する可能性があります。データケーブル、USB ケーブル、ワイヤレスまたは有線ネットワークなど、すべての形式の通信リンクがテスト全体で適切に接続されていることを確認します。テストケーブルと電源を切断する前に、すべての画面を終了します。

---

#### ➤ 診断アプリケーションを終了するには

1. 実行中の診断画面[戻る]または[ESC]機能ボタンをクリックして、診断セッションを徐々に終了します。
2. 診断ツールバーの[車両交換]ボタンをタップして、[車両メニュー]画面に戻ります。
3. 車両メニュー画面で、上部ツールバーの[ホーム]ボタンをタップするか、画面下部のナビゲーションバーの[戻る]ボタンをタップします。
4. 診断ツールバーの[ホーム]ボタンをタップして、アプリケーションを直接終了し、MaxiSys プログラムメニューに戻ります。

この時点で、診断アプリケーションは車両と通信しなくなります。他の MaxiSys アプリケーションを安全に実行するか、MaxiSys 診断システムを終了して Android システムのメインページに戻ることができます。

---

## 5 知能診断

知能診断は、特定の故障コード分析機能であり、これを使用して、最新のコード固有のデータ、DTC 分析、修復支援、修復のヒント、および関連する修復ケースにアクセスできます。これは、実際のショップの修理注文と記録から、経験豊富な業界の専門家からの情報を基に作成されています。

豊富な業界の専門家からの情報を基に作成されています。

知能診断では、データクラウドコンピューティングテクノロジーを使用して、特定の故障コードを車両モデルと正確に照合します。診断データは、自動車整備の専門家によって完全に検証されています。

知能診断の故障コードデータには、主に以下の内容が含まれています：

1. テストされた車両システムと故障コード
2. テクニカルサービスのお知らせ (OEM 情報)
3. 故障コードの詳細
4. エラーガイダンス
5. メンテナンスのヒント
6. 成分測定
7. 関連する修理ケース

---

### 注意

知能診断機能を実行する前に、ネットワークが正常に接続されていることを確認してください。

---

## 5.1 知能診断機能へのアクセス

### 5.1.1 自動スキャン

知能診断を開始する前に、MaxiSys 診断機器と車両間の良好なデータ通信を確認してください。MaxiSysMS909 診断パネルを VCI デバイスを介してテスト車両に接続します。特定の接続操作については、詳細について「車両通信の確立」を参照して

ください。



図 5-1 システム一覧画面のサンプル

フォルクスワーゲン、アウディ、BMW、フォード、ランドローバー、ジャガー、クライスラー、フィアット、ボルボなど、多くの車両ブランドの場合、車両システム間の関係を表示するためのトポロジーマップを利用できます。

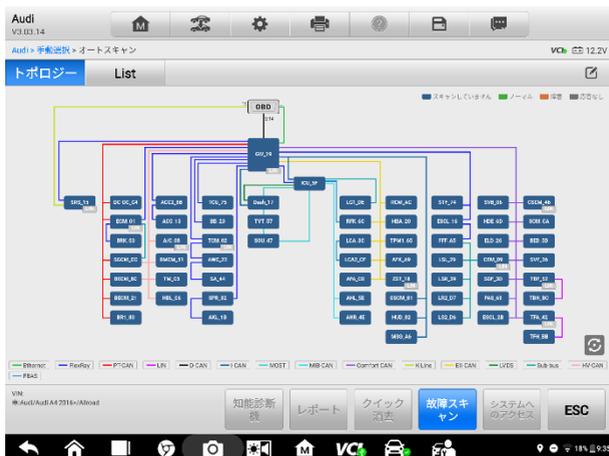


図 5-2 トポロジー画面のサンプル

[リスト]タブを選択して、車両システムをリストとして表示します。



図 5-3 リスト画面のサンプル

## 5.1.2 システムエラースキャン

車両システムのリストまたはトポロジーのマッピングが完了したら、システムリスト、トポロジー、またはリスト画面の下部にあるエラースキャンボタンをタップして、車両システムのエラーを見つけます。

- 1) システム一覧画面の下部にあるエラースキャンボタンをタップします。スキャン後、エラーが特定されたシステムが赤で表示され、エラーの数が右側に表示されます。エラーの総数が上部に表示されます。



図 5-4 システムリスト画面のエラースキャンサンプル 1

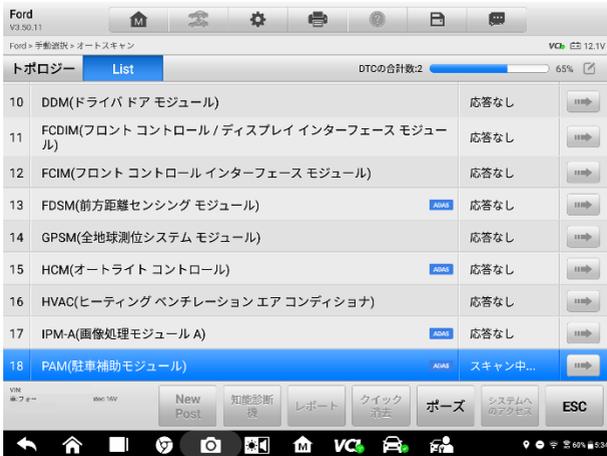


図 5-5 システムリスト画面のエラーキャンサンプル 2

- 2) トポロジーされ、エラーの数がシステムアイコンの右上隅に表示されます。エラーの総数が上部に表示されます。

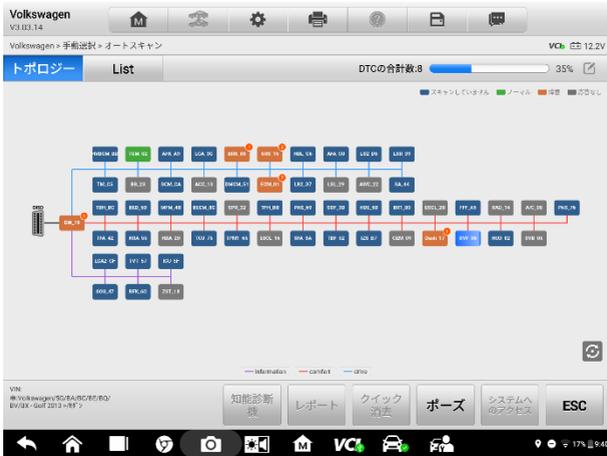


図 5-6 トポロジー画面でのエラーキャンサンプル

- 3) [リスト]画面では、エラーが特定されたシステムも赤で表示され、右側にエラーの数が表示されます。上部に合計のエラーの数が表示されます。



図 5-7 リスト画面でのエラーキャンサンプル

システムエラーをスキャンした後、知能診断画面にアクセスするには 2 つの方法があります：

- [知能診断ボタン] をクリックして知能診断画面に入り、車両全体の故障コードの関連情報を表示します。
- [知能診断アイコン] をクリックして知能診断画面に入り、特定の故障コードの関連情報を表示します。

### 5.1.3 知能診断ボタンによるアクセス

車両システムのすべてのエラーがスキャンされたら、画面の下隅にあるスマートンをタップして、知能診断画面に直接入ります。

知能診断画面に入ると、スキャンされたすべてのシステムのすべての DTC の TSB、DTC 分析、修復支援、および修復のヒント情報が表示されます。詳細な操作手順については、知能診断操作を参照してください。

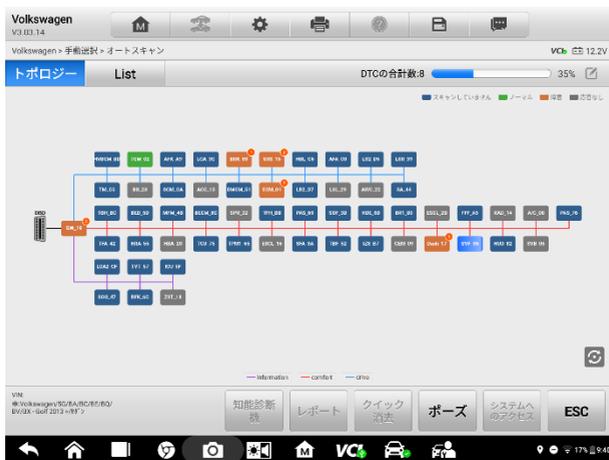


図 5-8 知能診断ボタン画面のサンプル

## 5.1.4 知能診断アイコンを介したアクセス

知能診断アイコンを使用して知能診断機能を開始し、特定の DTC の詳細なエラー修復手順を取得することもできます。

故障コード、エラーの説明、ステータスなど、検出されたエラーの詳細は、システム名またはモジュールのすぐ下に表示されます。この車両で知能診断機能が利用できる場合は、右側に**知能診断アイコン**が表示されます。

リスト画面で、右側の**知能診断アイコン**をタップして、知能診断画面に直接入ります。



図 5-9 知能診断アイコン画面のサンプル 1

または、トポロジー画面で、システムスキャンが完了したら、システムアイコン（エラーが検出された場合はオレンジ色で表示）をタップして、以下に示す知能診断アイコンで完全なシステム名を表示します。知能診断アイコンをタップして、知能診断画面に直接入ります。

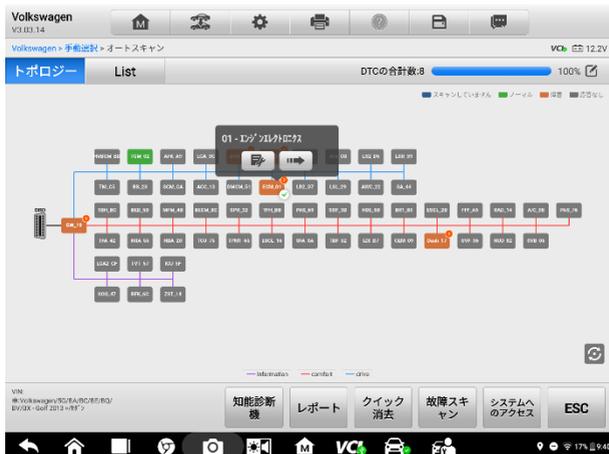


図 5-10 知能診断アイコン画面のサンプル 2

矢印の形をしたアイコンをタップして特定のシステムに入るときに、この車両で智能診断機能が使用できる場合は、智能診断画面にアクセスすることもできます。

➤ 特定のシステムに入った後に智能診断画面にアクセスするには

1. [システム]リスト、[トポロジー]、または[リスト]画面で、アイコンをタップしてシステムに入ると、[機能]メニューが表示されます。利用できる機能は車両によって異なります。



図 5-11 システムアイコン画面に入る (リスト) のサンプル

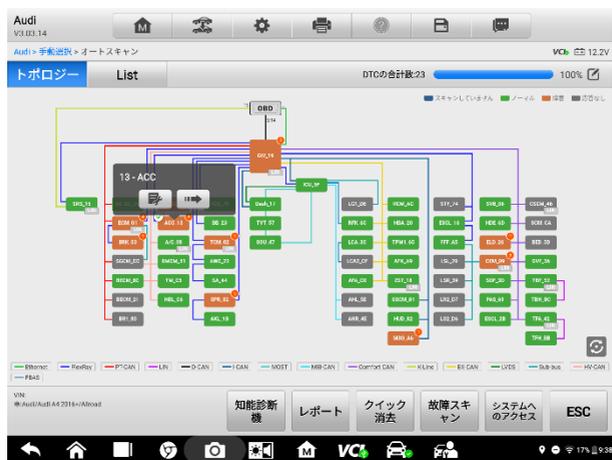


図 5-12 システムアイコン画面に入る (トポロジー) のサンプル

2. 機能メニュー画面からトラブルコードを選択すると、トラブルコード画面が表示されます。

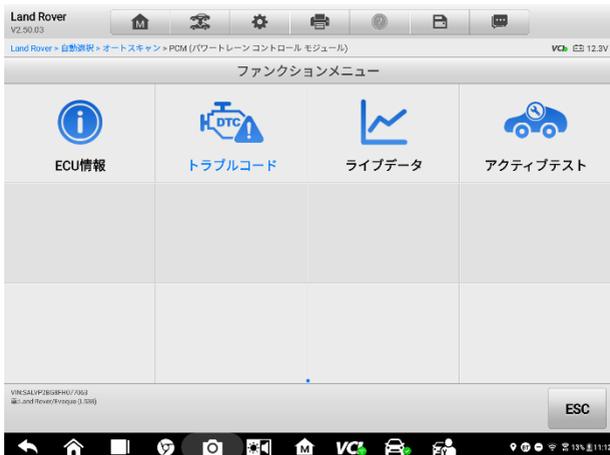


図 5-13 機能メニュー画面のサンプル

3. DTCの説明の右側にある**知能診断アイコン**をタップします。または、DTCリストから特定のDTCを選択し、画面の下部にある**[知能診断]**ボタンをタップします。



図 5-14 「故障コード」画面のサンプル

## 5.2 スマートな診断操作

知能診断は、MaxiSysMS909 の重要で強力な機能です。この機能は、技術サービスのアナウンス、故障コードの詳細、メンテナンスガイダンス、メンテナンス手順、検出されたエラーの修復に役立つコンポーネント測定モジュールなど、車両のエラーを検出するための大量の情報を提供します。知能診断機能は、関連する症例情報も提供します。



図 5-15 知能診断レイアウト

知能診断機能は、次の部分で構成されています：

1. **車両システムと検出された DTC**-車両システムの名前と検出された DTC を表示します。
2. **テクニカルサービス速報**-DTC 関連のリコール、TSB、および OEM キャンペーンが含まれています。
3. **3DTC 分析**-故障コードに関連する修理支援情報を提供します。
4. **修理支援**-DTC にスマートに優先順位を付け、ユーザーを適切な修理に導きます。
5. **修復のヒント**-エラーを特定してクリアするための手順を詳しく説明します。

6. **コンポーネントの測定**-オシロスコープを使用してコンポーネントのエラーをテストするための詳細情報と説明ガイドを提供します。
7. **関連ケース**-参照用に関連するエラークリア修復ケースを提供します。

## 5.2.1 車両システムと検出された DTC

このセクションには、エラーを含むスキャンされた車両システムが表示されます。ドロップダウンメニューをタップして、すべてのシステムの包括的な情報を表示するか、詳細について別の故障コードに切り替えます。

右側の矢印ボタンをタップして、特定の DTC とともにすべてのシステムのドロップダウンリストを表示します。指を使って画面を上または下にタッチしてスライドし、リスト内のすべてのコードを確認します。すべてのシステムを選択するか、DTC を選択して、対応する智能診断情報を表示します。



図 5-16 車両システムと検出された DTC 画面のサンプル

## 5.2.2 テクニカルサービスアナウンス (OEM 情報)

テクニカルサービスアナウンス機能は、選択した故障コードを関連する車両メーカーの TSB と組み合わせます。選択した故障コードに関連するすべての TSB が TSB 表示ウィンドウに一覧表示されます。TSB を選択し、TSB ページを開いて、TSB の詳細を表示します。

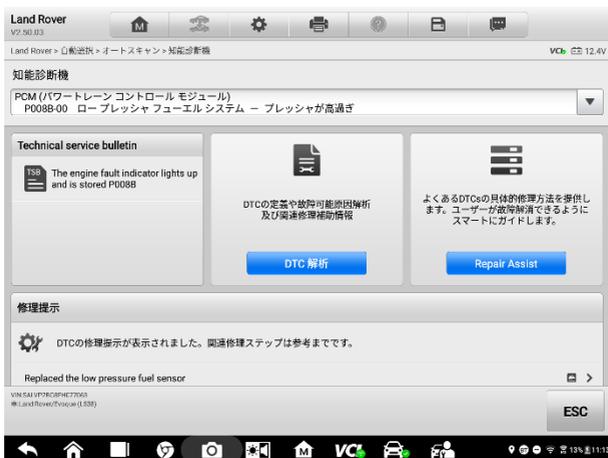


図 5-17 TSB 画面のサンプル

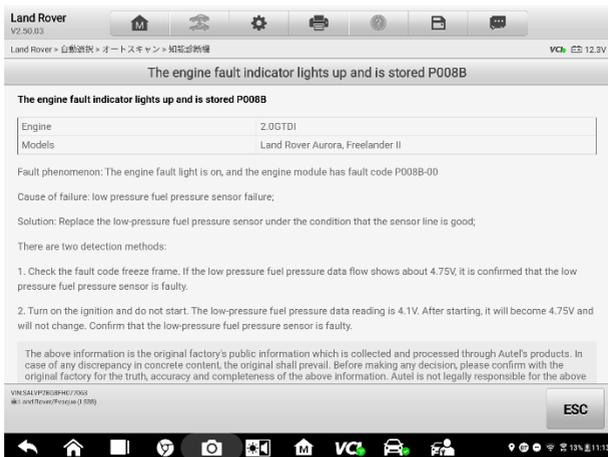


図 5-18 TSB の詳細画面のサンプル

### 5.2.3 DTC 分析

知能診断画面の DTC 分析には、エラーの説明、状態、エラーの影響、考えられる原因、考えられる解決策など、故障コードに関連する修理支援情報が含まれています。修理支援情報は車両によって異なる場合があります。

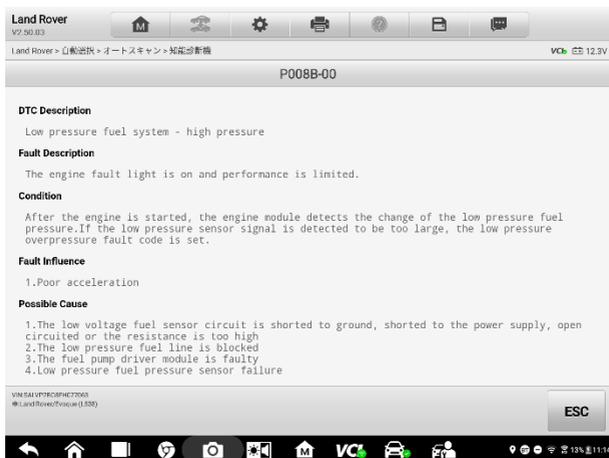


図 5-19 DTC 分析画面のサンプル 1

## 5.2.4 修理アシスト

修復アシストには、アイテムとその説明、完了ステータス、および優先度のリストが表示されます。優先度の数値が高いほど（1 が最も高い）、関連するアイテムを早期にテストする必要があります。

### ➤ 修理アシストを実行するには

1. 知能診断画面の**修理アシストボタン**をタップしてページを開きます。



図 5-20 修理アシスト画面のサンプル 1

- 右側の【実行】アイコンをタップして、選択した項目を実行します。画面の指示に従って、一連の選択を行います。



図 5-21 修理アシスト画面のサンプル 2

表 5-2 修理アシストの完了ステータス

完了		これは、プロシージャのすべてのブランチが完了したことを示します。
未完成		これは、特定のブランチが完了していないことを示しています。
応答なし		これは、プロシージャのブランチが実行されていないことを示しています。

3. [続行]ボタンをタップして次の手順に進みます。[ブランチの選択]に複数の DTC がある場合、実行された DTC が青色で強調表示されることに注意してください。



図 5-22 修復アシスト画面のサンプル 3

 注意

場合によっては、このアイコンをタップして右側の列を折りたたんで、分岐選択画面全体を表示する必要があります。

4. この修復プロセスでは、必要に応じて、コードの読み取り、コードの消去、ライブデータ、フレームのフリーズ、アクティブテストなどの1つ以上の診断機能を統合できます。

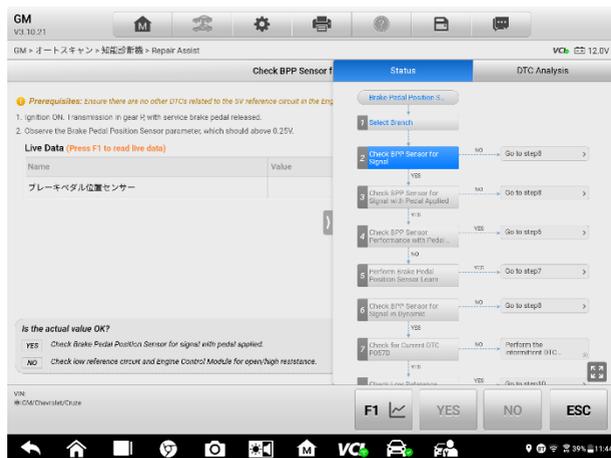


図 5-23 修復アシスト画面のサンプル 4

5. 場合によっては、回路を確認する必要があります。たとえば、図 5-24 を例にとると、最初のリンクアイコンをタップして位置図を開くと、車内のコンポーネントの吸気カムシャフト位置アクチュエータソレノイドバルブの位置が表示されます。

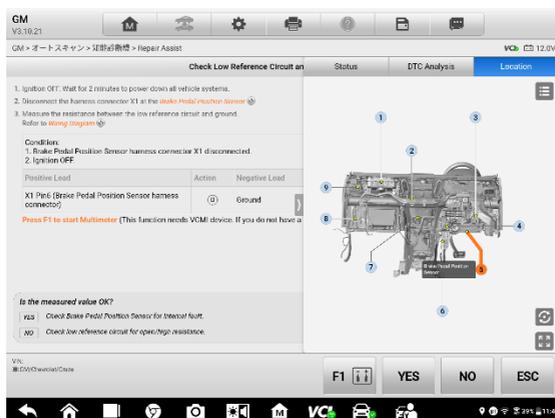


図 5-24 修復アシスト画面のサンプル 5

6. 2番目のリンクアイコン🔗をタップして配線図を開き、関連する配線を見つけます。右上隅にある凡例ボタン☰をタップすると、必要に応じてリスト内の名前をタップすることで、コンポーネント、コネクタ、配線、および接地電極を見つけることができます。

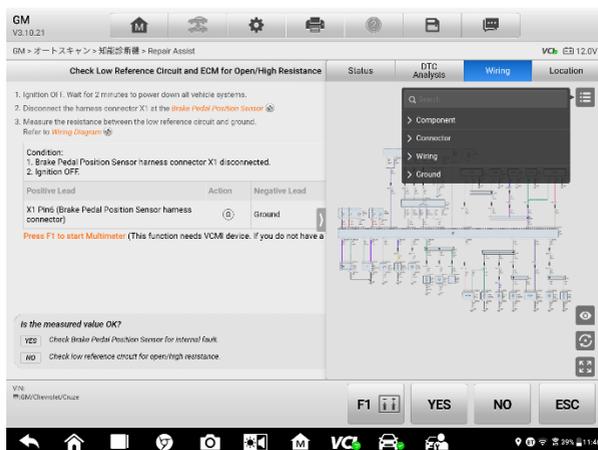


図 5-25 修復アシスト画面のサンプル 6

7. コネクタの詳細を表示する場合は、前にリンクアイコン🔗をタップします。  
リスト内の名前を入力すると、画像が表示されます。

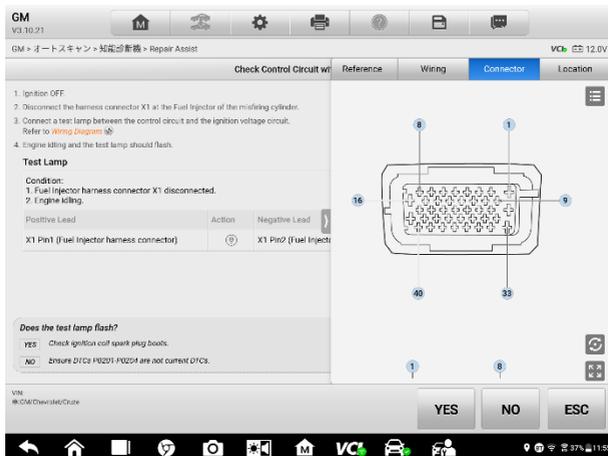


図 5-26 修復アシスト画面のサンプル 7

8. ワイヤを関連する PIN に接続し、測定を開始します。パラメーターはすでにデバイスに正しく設定されています。測定値に問題がないかどうかを確認するだけです。



図 5-27 修復アシスト画面のサンプル 8

9. 検査が終了すると、いくつかの参照情報を使用して問題を解決するためのガイドとなるソリューションが生成されます。

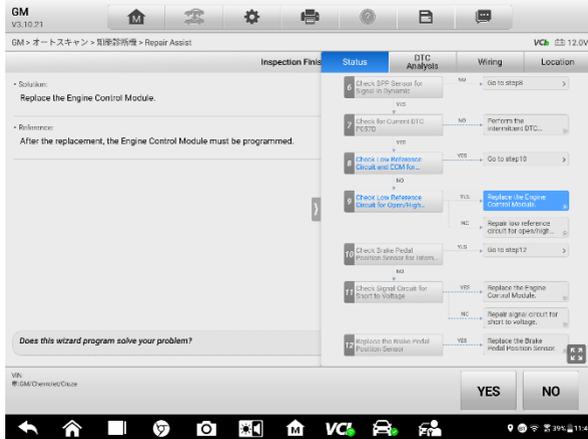


図 5-28 修復アシスト画面のサンプル 9

🔍 注意

配線図の操作手順は次のとおりです：

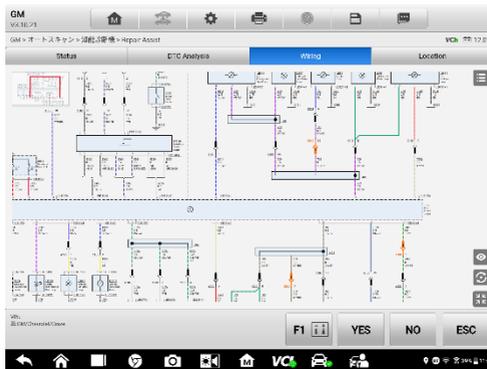


図 5-29 修復アシスト画面のサンプル 10

1. このボタン  をタップして特定のモジュール名を検索またはタップして見つけます。場所を特定すると、関連するワイヤーが強調表示されます。また、図の特定のモジュールを直接タップして、そのモジュールと関連するワイヤーを強調表示できます。
2. このボタン  をタップして最後のボタンに切り替えるか、このボタン

- ➔ をタップして次のボタンに切り替えます。
3. このボタンをタップして、以前に表示したものを見つけます。
  4. このボタンをタップして無関係なワイヤーを非表示にし、このボタンをタップして非表示のワイヤーを表示します。
  5. このボタンをタップして、初期設定を復元します。
  6. このボタンをタップして全画面を終了し、このボタンをタップして全画面に入ります。

## 5.2.5 修復のヒント

修復のヒント機能は、エラーをクリアするために必要な情報を含む、一連の診断および修復手順を表示します。修復手順は、テキストとビデオで提供されます。

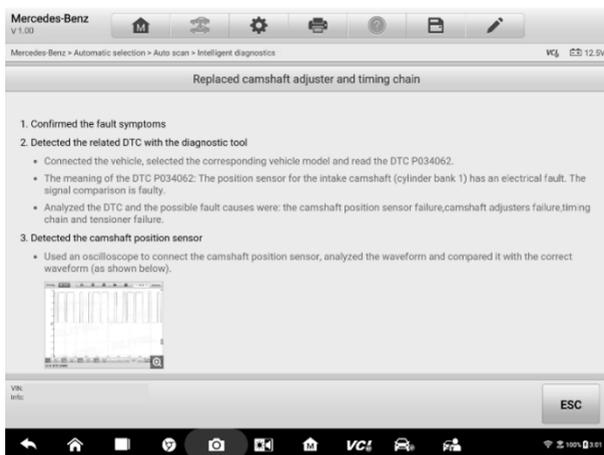


図 5-30 修理のヒントの説明 1 (テキスト)

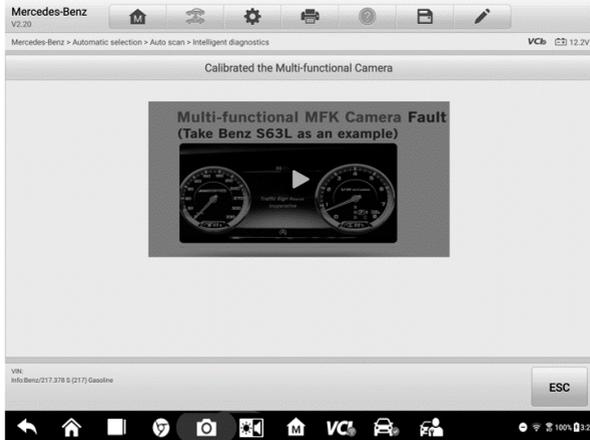


図 5-31 修理のヒントの説明 2 (ビデオ)

## 5.2.6 成分測定

コンポーネント測定セクションでは、一般的なトラブルシューティングの概要と、オシロスコープを接続して使用してコンポーネントのエラーをテストするためのガイドを提供します。このセクションには、関連する回路図または配線図、車両構造分析、波形分析、関連する DTC、および技術者が診断と修理を行うのに役立つ詳細な表記が含まれる場合があります。

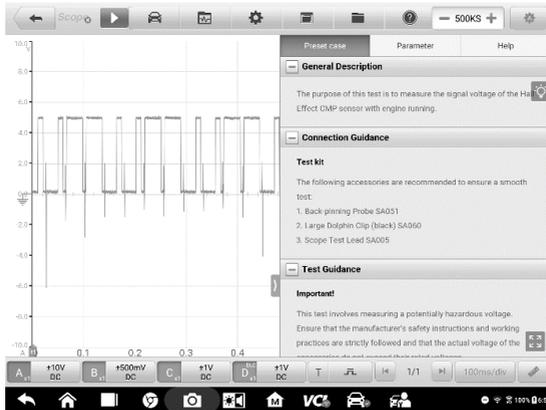


図 5-32 コンポーネント測定画面のサンプル

## 5.2.7 関連するケース

このセクションでは、現在の車両や現在のエラーに関連する可能性のある推奨修理ケースを示します。これらの修理ケースは、車両の診断と修理に関するより詳しい情報を提供する場合があります。関連するケースをタップして確認してください。



図 5-33 関連するケース画面のサンプル

### ➤ 関連する症例情報を確認する

1. [関連修理ケース]アイコンをクリックすると、ケースのホームページが画面に表示されます。
2. ページをスクロールして、関連情報を見つけます。
3. 左上の矢印アイコンをクリックして、前の修理ケースページに戻ります。

## 6 サービス

サービスセクションは、スケジュールされたさまざまなサービスおよびメンテナンスタスクのために車両システムにすばやくアクセスできるように特別に設計されています。典型的なサービス操作画面は、一連のメニュー方式のエグゼクティブコマンドです。画面の指示に従って、適切な実行オプションを選択し、正しい値またはデータを入力して、必要なアクションを実行します。アプリケーションは、選択したサービス操作を完了するための詳細な指示を表示します。

各特殊機能を入力すると、画面には、診断とホット機能という 2 つのアプリケーションの選択肢が表示されます。診断により、特定の特別な機能を完了した後に必要になるコードの読み取りとクリアが可能になります。ホット機能は、選択した特殊機能のサブ機能で構成されています。



図 6-1 サービスメニューのサンプル

この章では、最も一般的に使用されるいくつかのサービスについて説明します

### 6.1 オイルリセットサービス

エンジンオイルライフシステムのリセットを実行します。これにより、車両の運転条件と気候に応じて最適なオイルライフ変更間隔が計算されます。オイルが交換

されるたびにオイルライフリマインダーをリセットする必要があるため、システムは次のオイル交換がいつ必要かを計算できます。

---

 **ご注意：**

1. オイルを交換するたびに、エンジンオイルの寿命を常に 100%にリセットしてください。
  2. サービスインジケータをリセットする前に、必要なすべての作業を実行する必要があります。そうしないと、サービス値が不正確になり、関連する制御モジュールによって DTC が保存される可能性があります。
  3. 一部の車両では、スキャンツールはメンテナンスサイクルやサービス間隔などの追加のサービスライトをリセットできます。たとえば、BMW 車両の場合、サービスリセットには、エンジンオイル、点火プラグ、フロント/リアブレーキ、クーラント、粒子フィルター、ブレーキ液、マイクロフィルター、車両検査、排気ガス検査、排気ガス検査、車両チェックが含まれます。
- 

## 6.2 電動パーキングブレーキ（EPB）サービス

この機能には、電子ブレーキシステムを安全かつ効果的に維持するための多数の用途があります。アプリケーションには、ブレーキ制御システムの無効化と有効化、ブレーキ液制御の支援、ブレーキパッドの開閉、ディスクまたはパッド交換後のブレーキ設定が含まれます。

### 6.2.1 EPB の安全性

電動パーキングブレーキ（EPB）システムのメンテナンスを実行することは危険な場合があるため、サービス作業を開始する前に、これらのルールに留意してください。

- ✓ 作業を開始する前に、ブレーキシステムとその操作に完全に精通していることを確認してください。
- ✓ EPB 制御システムは、ブレーキシステムのメンテナンス/診断作業を実行する前に非アクティブにする必要があります。これは、ツールメニューから実行できます。
- ✓ 車両が静止していて平らな地面にある場合にのみ、メンテナンス作業を行ってください。

- ✓ メンテナンス作業が完了した後、EPB 制御システムが再アクティブ化されていることを確認してください。

---

### 🔍 ご注意

Autel は、電動パーキングブレーキシステムのメンテナンスに起因する事故や怪我について一切責任を負いません。

---

## 6.3 タイヤ空気圧監視システム (TPMS) サービス

この機能を使用すると、車両の ECU からタイヤセンサー ID をすばやく検索したり、タイヤセンサーの交換後に TPMS 交換およびリセット手順を実行したりできます。

## 6.4 バッテリー管理システム (BMS) サービス

バッテリー管理システム (BMS) を使用すると、ツールはバッテリーの充電状態を評価します。また、閉回路電流を監視し、バッテリーの交換を登録し、車両の休止状態をアクティブにし、診断ソケットを介してバッテリーを充電できます。

---

### 🔍 ご注意

1. この機能はすべての車両でサポートされているわけではありません。
  2. BMS のサブ機能と実際のテスト画面は車両によって異なる場合があります。画面の指示に従って正しいオプションを選択してください。
- 

車両は、密閉型鉛蓄電池または AGM (吸収ガラスマツト) 電池のいずれかを使用できます。鉛蓄電池には液体硫酸が含まれており、転倒するとこぼれる可能性があります。AGM バッテリー (VRLA バッテリー、バルブ調整鉛酸) にも硫酸が含まれていますが、酸は端子板間のガラスマツトに含まれています。

交換用のアフターマーケットバッテリーは、容量やタイプなど、既存のバッテリーと同じ仕様をすることをお勧めします。元のバッテリーを別の種類のバッテリー (鉛蓄電池を AGM バッテリーに交換する) または異なる容量 (mAh) のバッテリーと交換する場合、車両はさらに、新しいバッテリータイプの再プログラミングが必要になる場合があります。に、バッテリーのリセットを実行します。車両固有の追加情報については、車両のマニュアルを参照してください。

## 6.5 ディーゼルパーティキュルフィルター (DPF) サービス

DPF 機能は、エンジンコントロールユニット交換後の DPF 再生、DPF コンポーネント交換ティーチン、DPF ティーチンを管理します。

ECM は、運転スタイルを監視し、再生を採用するのに適した時間を選択します。アイドリング速度と低負荷で多く運転される車は、より高い負荷と速度で運転される車よりも早く再生を試みます。再生を行うために、長時間の高排気温度を取得する必要があります。

再生が不可能な方法で車が運転されている場合、つまり頻繁な短い移動の場合、DPF ライトと「チェックエンジン」インジケータの表示に加えて、DTC が最終的に登録されます。診断ツールを使用して、ワークショップでサービスの再生を要求できます。

ツールを使用して強制 DPF 再生を実行する前に、次の項目を確認してください：

- フューエルライトが点灯していません。
- DPF 関連のエラーはシステムに保存されません。
- 車両には指定されたエンジンオイルが含まれています。
- ディーゼル油は汚染されていません。

---

### **!** 重要

問題のある車両を診断して緊急再生を実行する前に、完全な診断ログを取得し、関連する測定値ブロックを読み取ることが重要です。

---

### **注意**

1. エンジン管理ランプが点灯している場合、または EGR バルブがエラーしている場合、DPF は再生されません。
  2. DPF を交換するとき、および燃料添加剤 Eolys を補充するときは、ECU を再適合させる必要があります。
  3. DPF サービスを実行するために車両を運転する必要がある場合は、その機能のためにもう一人必要です。1 人が車両を運転し、もう 1 人がツールの画面を観察する必要があります。スキャンツールの運転と観察を同時に行おうとしないでください。これは危険であり、お客様の命と他の車両や歩行者の命を危険にさらします。
-

## 6.6 イモビライザー（IMMO）サービス

イモビライザーは、正しいイグニッションキーまたは他のデバイスが存在しない限り、自動車のエンジンの始動を防ぐ盗難防止メカニズムです。このデバイスは、ホットワイヤーリングと呼ばれる方法によって泥棒が車を始動するのを防ぎます。ほとんどの新しい車両には、標準装備としてイモビライザーが装備されています。このシステムの重要な利点は、車の所有者がシステムをアクティブにする必要がないことです。自動的に動作します。イモビライザーは、可聴アラームだけよりもはるかに効果的な盗難防止保護を提供すると見なされます。多くの自動車保険会社は、イモビライザーを装備した車両の料金を引き下げています。

盗難防止装置として、イモビライザーは、自動車のエンジンを始動するために必要なシステムの1つ、通常は燃料供給または点火を無効にします。これは、イグニッションキーのトランスポンダーとステアリングコラムの無線周波数リーダーと呼ばれるデバイスの間の無線周波数識別によって実現されます。キーがイグニッションに配置されると、トランスポンダーは固有の識別コードを備えた信号をリーダーに送信し、リーダーはそれを車両のコンピュータ制御モジュールの受信機に中継します。コードが正しい場合、コンピュータは燃料供給と点火システムが作動して車を始動できるようにします。コードが間違っているか存在しない場合、コンピュータはシステムを無効にし、正しいキーがイグニッションに配置されるまで車は起動できなくなります。

IMMO サービスは、紛失した車両キーを無効にし、交換用キーフォブをプログラムできます。1つ以上の交換キーフォブをプログラムできます。

## 6.7 ステアリング角度センサー（SAS）サービス

ステアリングアングルセンサーキャリブレーションは、現在のステアリングホイールの位置を、ステアリングアングルセンサーEEPROMの直進位置として永続的に保存します。そのため、キャリブレーションの前に、前輪とステアリングホイールを正確に直進位置に設定する必要があります。さらに、車両識別番号（VIN）もメーターパネルから読み取られ、ステアリングアングルセンサーEEPROMに永続的に保存されます。キャリブレーションが正常に完了すると、ステアリング角度センサーのフォールトメモリが自動的にクリアされます。

キャリブレーションは、次の操作の後に必ず実行する必要があります：

- ハンドルの交換
- 舵角センサーの交換
- ステアリングアングルセンサーからコラムへのコネクタハブを開くことを含むメンテナンス

- ステアリングリンケージ、ステアリングギアまたはその他の関連メカニズムのメンテナンスまたは修理作業
- ホイールアライメントまたはホイールトラック調整
- ステアリング角度センサーやアセンブリ、またはステアリングシステムの一部に損傷が発生した可能性のある事故の修理

---

🔍 **ご注意**

1. Autel は、SAS システムの保守に起因する事故や傷害について一切責任を負いません。車両から取得した DTC を解釈するときは、メーカーの修理に関する推奨事項に従ってください。
  2. このマニュアルに示されているすべてのソフトウェア画面は例であり、実際のテスト画面はテスト車両によって異なる場合があります。メニューのタイトルと画面上の指示に注意して、正しいオプションを選択してください。
  3. 手順を開始する前に、車両に ESC ボタンがあることを確認してください。ダッシュのボタンを探します。
-

## 7 データマネージャー

データマネージャーアプリケーションを使用すると、保存したファイルを保存、印刷、および確認し、ワークショップ情報、顧客情報レコードを管理し、テスト車両の履歴レコードを保持できます。

データマネージャーアプリケーションを選択すると、ファイルシステムメニューが開きます。8つの主要な機能を使用できます。



図 7-1 データマネージャーのメイン画面のサンプル

次の表に、データマネージャーアプリケーションの各機能ボタンを簡単に説明します。

表 7-1 データマネージャーのボタン

名前	ボタン	説明
車両履歴		タップして診断履歴レコードを確認します。
ワークショップ情報		タップしてワークショップ情報を編集します。

名前	ボタン	説明
顧客管理		タップして、新しい顧客アカウントファイルを作成します。
画像		タップしてスクリーンショットを確認します。
PDF ファイル		タップして診断レポートを確認します。
レビューデータ		タップして、記録されたデータを確認します。
アプリのアンインストール		タップしてアプリケーションをアンインストールします。
データレコード		タップして、テスト車両の通信データと ECU 情報を確認します。保存されたデータは、インターネット経由でテクニカルセンターに送信して、確認および解決することができます。

## 7.1 車両履歴

この機能は、車両情報や以前の診断セッションから取得した DTC など、テスト車両の履歴の記録を保存できます。テスト情報は要約され、読みやすい表リストに表示されます。車両履歴は、以前にテストされた車両への直接アクセスも提供し、自動または手動の車両選択を実行することなく、診断セッションを直接再開できるようにします。

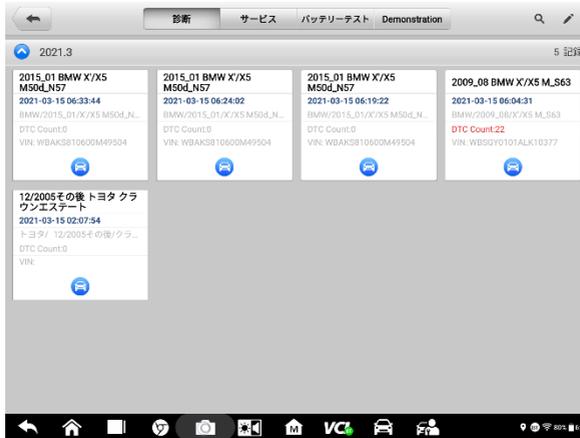


図 7-2 車両履歴画面のサンプル

1. 上部のツールバーボタン-ナビゲーションとアプリケーションコントロールを行います。
  2. メインセクション-すべての車両履歴レコードを表示します。
- 記録された車両の診断セッションをアクティブにする方法
1. MaxiSys プログラムメニュープログラムメニューの[データマネージャー]をタップします。
  2. [車両履歴]を選択して画面を開きます。[診断]または[サービス]をタップして、診断テストレコードまたはサービステストレコードを選択します。
  3. 車両記録アイテムのサムネイルの下部にある診断アイコンをタップします。
  4. 車両の診断画面が表示され、新しい診断セッションがアクティブになります。車両の診断操作の詳細な手順については、診断を参照してください。
  5. 車両のサムネイルを選択して記録を選択します。履歴テストの記録シートが表示されます。テスト車両の記録された情報を確認し、右上隅の[診断]ボタンをタップして診断を続行します。

### 7.1.1 過去のテスト記録

テストされた車両の「履歴テスト」レコードテーブルは詳細なデータテーブルであ

り、車両の年式、ブランド、モデルなどの車両の基本情報と、前回の診断セッションで取得された診断トラブルコードが含まれています。技術者は、他の関連するメンテナンス情報を自分で手動追加することもできます。

## 🚫 注意

MaxiSys タブレットは、以前にテストされた車両でテストセッションを再開するために、VCI への接続を確立する必要があります。



図 7-3 履歴テストレコードシートのサンプル

### ➤ 履歴テストレコードを編集するには

1. MaxiSys プログラムメニューの[データマネージャー]をタップします。
2. 車両履歴を選択します。
3. メインセクションから特定の車両履歴レコードのサムネイルを選択します。履歴テストレコードが表示されます。
4. [編集] (ペンアイコン) をタップして編集を開始します。
5. 各項目をタップして、情報を入力したり、ファイルや画像を添付したりします。

## 🚫 注意

車両の VIN、ライセンス番号、および顧客アカウント情報はデフォルトで

関連付けられています。車両レコードは、この車両と顧客 ID を使用して自動的に関連付けられます。

6. **【顧客に追加】**をタップして、履歴テストレコードシートを既存の顧客アカウントに関連付けるか、新しい関連付けられたアカウントを追加してテスト車両レコードに関連付けます。詳細については、244 ページの「顧客情報」を参照してください。
7. **【完了】**をタップして更新されたレコードを保存するか、**【キャンセル】**をタップして保存せずに終了します。

## 7.2 ワークショップ情報

メンテナンスステーション情報テーブルを使用して、メンテナンスステーションの名前、住所、電話番号、その他の情報など、メンテナンスステーションの詳細情報を編集、入力、および保存できます。メンテナンスステーション情報テーブルの内容は、車両診断レポートとラインパイプのテストファイルを印刷するときに、印刷されたドキュメントのヘッダーとして表示されます。

ワークショップ情報

基本情報

Set shop logo  フッターイメージを設定します 

ショップ名  電話

都道府県  Fax

市  email

郵便番号

住所

更なる情報

責任者  責任者役職

ウェブサイト

スローガン

備考

図 7-4 ワークショップ情報シートのサンプル

### ➤ ワークショップ情報シートを編集するには

1. MaxiSys プログラムメニューのデータマネージャアプリケーションを

タップします。

2. ワークショップ情報を選択します。
3. 各フィールドをタップして、適切な情報を入力します。
4. [完了]をタップして更新されたワークショップ情報レコードを保存するか、[キャンセル]をタップして保存せずに終了します。

## 7.3 顧客情報

顧客機能を使用すると、顧客アカウントを作成および編集できます。これは、関連するテスト車両履歴レコードに関連付けられているすべての顧客情報アカウントを保存および整理するのに役立ちます。

### ➤ 顧客アカウントを作成するには

1. MaxiSys プログラムメニューのデータマネージャアプリケーションをタップします。
2. [顧客]を選択します。
3. [顧客の追加] ボタンをタップします。空の情報フォームが表示されたら、各フィールドをタップして適切な情報を入力します。

---

### ⊗ 注意

記入が必要な項目は必須項目として表示されます。

---

4. サービス対象の車両が複数あるお客様もいます。アカウントにはいつでも新しい車両情報を追加できます。[新しい車両情報の追加]をタップしてから、車両情報を入力します。ボタンをタップしてキャンセルします。
5. [OK]をタップしてアカウントを保存するか、[キャンセル]をタップして保存せずに終了します。

### ➤ 顧客アカウントを編集するには

1. MaxiSys プログラムメニューの[データマネージャー]をタップします。

2. **【顧客】**を選択します。
3. 対応する名刺をタップして顧客アカウントを選択します。顧客情報レコードが表示されます。
4. 上部のツールバーの**【編集】**をタップして編集を開始します。
5. 入力フィールドをタップして情報を編集または修正し、更新された情報を入力します。
6. **【完了】**をタップして更新された情報を保存するか、**【キャンセル】**をタップして保存せずに終了します。

➤ **顧客アカウントを削除するには**

1. MaxiSys プログラムメニューの**【データマネージャー】**をタップします。
2. **【顧客】**を選択します。
3. 対応する名刺をタップして顧客アカウントを選択します。顧客情報レコードが表示されます。
4. 4 上部のツールバーの**【編集】**をタップして編集を開始します。
5. 画面上部の**【削除】**ボタンをタップします。リマインダーメッセージが表示されます。
6. **【OK】**をタップしてコマンドを確認すると、アカウントが削除されます。**【キャンセル】**をタップしてリクエストをキャンセルします。

## 7.4 画像

画像セクションは、キャプチャされたすべてのスクリーンショットを含む PNG データベースです。



図 7-5 画像データベース画面のサンプル

1. ツールバーボタン-画像ファイルを編集、印刷、または削除するために使用されます。詳細については、246 ページの表 8-2PNG データベースのツールバーボタンを参照してください。
2. メインセクション-保存された画像を表示します。

表 7-2PNG データベースのツールバーボタン

名前	ボタン	説明
戻る		前の画面に戻ります。
検索の入力		タップして検索ページに入ります。
編集の入力		タップして編集ツールバーを表示し、画像を選択、削除、印刷、または電子メールで送信します。
キャンセル		タップして編集ツールバーを閉じるか、ファイル検索をキャンセルします。

名前	ボタン	説明
検索		画像のスクリーンショット時間を入力して、画像ファイルをすばやく見つけます。
印刷		タップして、選択した画像を印刷します。
削除		タップして選択した画像を削除します。
Eメール		タップして、選択した画像をメールで送信します。

➤ **画像を編集/削除するには**

1. MaxiSys プログラムメニューからデータマネージャを選択します。
2. [画像]を選択して、PNG データベースにアクセスします。
3. ウィンドウの右上隅にある[編集]をタップします。編集画面が表示されます。
4. 画像の右下隅にあるチェックボックスをタップして、編集する画像を選択します。
5. [削除]アイコンをタップして、選択した画像を削除するか、すべての画像を削除します。[印刷]アイコンをタップして、選択した画像を印刷します。[メール]アイコンをタップして、選択した画像をメールで送信します。

## 7.5 PDF ファイル

PDF セクションには、保存されたデータのすべての PDF ファイルが保存および表示されます。PDF データベースに入った後、PDF ファイルを選択して保存された情報を表示します。

このセクションでは、ファイルの表示と編集に標準の Adobe Reader アプリケーションを使用します。詳細な手順については、関連する Adobe Reader のマニュアルを参照してください。

## 7.6 レビューデータ

[データの確認]セクションでは、ライブデータストリームの記録されたデータフレームを再生できます。

[データの確認]メイン画面で、再生するレコードファイルを選択します。

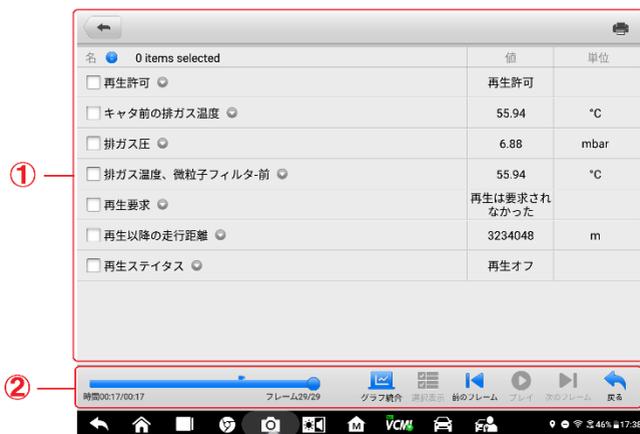


図 8-6 データ再生画面のサンプル

1. メインセクション-記録されたデータフレームを表示します。
2. ナビゲーションツールバー-データの再生を操作できます。

ナビゲーションツールバーボタンを使用して、記録データをフレーム間で再生します。

[戻る]をタップして、データの再生を終了します。

## 7.7 アプリのアンインストール

このセクションでは、MaxiSys Diagnostics Systemにインストールされているファームウェアアプリケーションを管理できます。このセクションを選択すると、管理画面が開き、使用可能なすべての車両診断アプリケーションを確認できます。

車のブランドアイコンをタップして削除したい車両のファームウェアを選択すると、選択した項目の右上に青いチェックマークが表示されます。トップバーの[削除]ボタンをタップして、システムデータベースからファームウェアを削除します。

## 7.8 データレコード

「データレコード」機能は、サポートプラットフォームを直接起動し、診断システムにフィードバックされた（保存された）すべてのデータレコードを表示できます。詳細については、105 ページの「データレコード」を参照してください。



## 8 設定操作

[設定]メニューにアクセスして、デフォルト設定を調整し、MaxiSys システムに関する情報を表示します。MaxiSys システム設定では、次のオプションを使用できません：

- ユニット
- 言語
- 印刷設定
- 通知センター
- 自動更新
- ADAS 登録
- 車両リスト
- 国コード
- システム設定
- 情報

### 8.1 オペレーティング

ここでは、設定の操作手順について説明します。

#### 8.1.1 ユニット

このオプションを使用すると、診断システムの測定単位を変更できます。

➤ **単位設定を調整するには**

1. MaxiSys プログラムメニューの設定アプリケーションをタップします。
2. 左側の列の[単位]オプションをタップします。
3. 適切な測定単位、メートル法または英語を選択します。選択した単位の右側にチェックマークが表示されます。
4. 左上隅のホームボタンをタップして、MaxiSys プログラムメニューに戻

ります。または、システムセットアップ用の別の設定オプションを選択します。

## 8.1.2 言語

このオプションを使用すると、MaxiSys システムの表示言語を調整できます。

### ➤ 言語設定を調整するには

1. MaxiSys プログラムメニューの設定アプリケーションをタップします。
2. 左側の列の[言語]オプションをタップします。
3. 適切な言語を選択します。選択した言語の右側にチェックマークが表示されます。
4. 左上隅のホームボタンをタップして、MaxiSys プログラムメニューに戻ります。または、システムセットアップ用の別の設定オプションを選択します。

## 8.1.3 印刷設定

このオプションを使用すると、タブレットからコンピュータを介してネットワークプリンターに印刷できます。

### ➤ プリンター接続をセットアップするには

1. MaxiSys プログラムメニューの[設定]をタップします。
2. 左側の列の[印刷設定]をタップします。
3. [ネットワーク経由で印刷]をタップして印刷機能をアクティブにします。これにより、デバイスはWi-Fi またはイーサネット接続を介して PC 経由でプリンターにファイルを送信できます。
4. 左上隅の[ホーム]をタップして、MaxiSys プログラムメニューに戻ります。または、システムセットアップ用の別の設定オプションを選択します。

## 印刷操作

### ➤ MaxiSys プリンタードライバーをインストールするには

1. Maxi PCSuite を [www.autel.com](http://www.autel.com)>Support>Downloads>Autel Update Tools からダウンロードし、Windows ベースの PC にインストールします。
2. Setup.exe をダブルクリックします。
3. インストール言語を選択すると、ウィザードがロードされます。
4. 画面の指示に従い、[次へ]をクリックして続行します。

5. [インストール]をクリックすると、プリンタードライバプログラムがコンピュータにインストールされます。
6. [完了]をクリックしてインストールを完了します。

---

## 🔍 注意

MaxiSys プリンターは、インストール後に自動的に実行されます。

---

このセクションでは、MaxiSys タブレットからファイルを受信し、コンピュータを介して印刷を実行する方法について説明します。

### ➤ コンピュータを介して印刷を実行するには

1. 印刷する前に、タブレットが Wi-Fi または LAN 経由でコンピュータネットワークに接続されていることを確認します。
2. コンピュータで MaxiSys プリンタープログラムを実行します。
3. [印刷のテスト]をクリックして、プリンターが正常に機能していることを確認します。
4. タブレットツールバーの[印刷]ボタンをタップします。テストドキュメントがコンピュータに送信されます。
  - MaxiSys プリンターの自動印刷オプションが選択されている場合、MaxiSys プリンターは受信したドキュメントを自動的に印刷します。
  - [自動印刷]オプションが選択されていない場合は、[PDF ファイルを開く]ボタンをクリックしてファイルを表示します。印刷するファイルを選択して、[印刷]をクリックします。



---

## 🔍 注意

Printing Services プログラムがインストールされているコンピュータが、プリンターに接続されていることを確認してください。

---

### 8.1.4 ニュースプッシュ

このオプションを使用すると、通知センター機能のオンとオフを切り替えることができます。通知センター機能は、インターネットを介したシステム更新通知やその他のサービス情報について、サーバーから定期的にオンラインメッセージを受信するように MaxiSys タブレットを構成します更新のニュースや重要なサービスメッセージを見逃さないように、通知設定を常にオンにすることを強くお勧めします。オンラインメッセージを受信するにはインターネットアクセスが必要です。

### ➤ **通知センター機能を有効にするには**

1. MaxiSys プログラムメニューの[設定]をタップします。
2. 左側の列の通知センターをタップします。
3. ON / OFF をタップして、通知機能を有効または無効にします。機能が有効な場合、ボタンは青色で表示され、無効な場合、ボタンは灰色で表示されます。
4. 左上隅の[ホーム]をタップして、MaxiSys プログラムメニューに戻ります。または、システム設定用の別の設定オプションを選択します。

通知センター機能がオンになっていて、MaxiSys デバイスが新しいメッセージを受信すると、MaxiSys プログラムメニューに通知メッセージが表示されます。メッセージバーを押して下にドラッグすると、受信したメッセージのリストが表示されます。リストを上にもスライドします。または下に移動して、追加のメッセージが存在する場合は表示します。

特定のメッセージをタップして、対応するアプリケーションを起動します。たとえば、更新通知メッセージをタップすると、更新アプリケーションが起動します。

## 8.1.5 自動更新

このオプションを使用すると、ソフトウェアを自動的に更新する特定の時間を設定できます。3つの更新オプションがあります：OS 更新、MaxiSys 更新、および車両更新。

[開く/閉じる]ボタンをクリックして、「自動更新」を有効または無効にします。自動更新が有効になっている場合、ボタンは青色で表示され、自動更新が無効になっている場合、ボタンは灰色で表示されます。開始後、その日の更新時刻を設定できます。特定の時刻が設定されている場合、選択したソフトウェアはその特定の時刻に自動的に更新されます。

## 8.1.6 ADAS 登録

### ➤ **ADAS 标定「ADAS キャリブレーション」機能を有効にする方法**

1. 登録された MaxiSys にアクティブな更新があることを確認します。
2. MaxiSys プログラムメニューで[設定]を選択します。
3. ADAS 登録をクリックします。
4. ADAS フレームの QR コードをスキャンしてバインドするか、QR コードが利用できない場合はフレームのシリアル番号を手動で入力します。

5. ADAS キャリブレーションカードから検証コードを入力します。
6. 登録が完了すると、システムがリセットされ、メイン画面が表示されます。

## 8.1.7 車両リスト

このオプションを使用すると、アルファベット順または使用頻度のいずれかで車両を並べ替えることができます。

### ➤ 車両リスト設定を調整するには

1. MaxiSys プログラムメニューの[設定]アプリケーションをクリックします。
2. 左の列の[車のロゴの並べ替え]オプションをクリックします。
3. [使用頻度で並べ替え]または[アルファベット順で並べ替え]を選択します。選択すると、右側に「√」アイコンが表示されます。
4. 左上隅の[ホーム]ボタンをクリックして MaxiSys プログラムメニューに戻るか、システム設定で他のオプションを選択して設定します。

## 8.1.8 国コード

この機能は、信頼性が高く安定した Wi-Fi 通信を確保するために、さまざまな国の地域に Wi-Fi チャネルオプションを提供します。調整を行う前に、タブレットを VCMi デバイスに接続してください。

### ➤ 国コード設定を調整するには

1. MaxiSys プログラムメニューの設定アプリケーションをタップします。
2. 左側の列にある[国コード]オプションをタップします。
3. 適切な国の地域を選択します。選択を確認するメッセージが表示されます。
4. 左上隅のホームボタンをタップして、MaxiSys プログラムメニューに戻ります。または、システムセットアップ用の別の設定オプションを選択します。

---

### 注意

国コードを設定した後、タブレットが Wi-Fi 接続を介して VCMi デバイスを見つけ

られない場合は、USB または Bluetooth 接続を使用して再試行してください。

---

## 8.1.9 システム設定

このオプションは、Android のバックグラウンドシステム設定画面に直接入ることができます。この画面では、ワイヤレスおよび有線ネットワーク設定などの Android システムプラットフォームのさまざまなシステム設定、サウンドや画面などのさまざまなデバイス設定、およびシステムセキュリティ設定を調整し、Android システムに関する関連情報を確認できます。詳細については、関連する Android のドキュメントを参照してください。

## 8.1.10 情報

情報機能は、製品名、バージョン、ハードウェア、シリアル番号など、MaxiSys 診断デバイスの情報を提供します。

### ➤ 情報で MaxiSys 製品情報を確認するには

1. MaxiSys プログラムメニューの設定アプリケーションをタップします。
2. 左側の列の[バージョン情報]オプションをタップします。右側に製品情報画面が表示されます。
3. 左上隅のホームボタンをタップして MaxiSys プログラムメニューに戻るか、システムセットアップ用の別の設定オプションを選択します。

## 9 更新

ファームウェアと呼ばれる MaxiSys 診断システムの内部プログラミングは、アップデートアプリケーションを使用して更新できます。ファームウェアの更新は、通常、データベースに新しいテスト、新しいモデル、または拡張アプリケーションを追加することにより、MaxiSys アプリケーションの機能を向上させます。

ディスプレイデバイスは、インターネットに接続されているときに、すべての MaxiSys コンポーネントで利用可能な更新を自動的に検索できます。見つかった更新はすべてダウンロードしてデバイスにインストールできます。このセクションでは、MaxiSys 診断システムファームウェアへの更新のインストールについて説明します。設定アプリケーションで通知機能が有効になっているときに更新が利用可能かどうかを通知メッセージが表示します（通知センターページ 251 を参照）。



図 9-1 アップデート画面のサンプル

## 1. ナビゲーションとコントロール

- ホームボタン-MaxiSys プログラムメニューに戻ります。
- すべて更新-すべてのタブレットシステムで利用可能な更新。
- 最近の更新を表示-最近の更新を表示します。
- 検索バー-ファイル名を入力して特定の更新項目を検索します（例：特定の自動車メーカー）。

## 2. ステータスバー

- 左側-MaxiSys デバイスのモデル情報とシリアル番号を表示します。
- 右側-完了ステータスを示す更新プログレスバーを表示します。

## 3. メインセクション

- 左の列-車両のロゴを表示し、ファームウェアのバージョン情報を更新します。
- 中央の列-ファームウェアの操作または機能に対する新しい変更についての簡単な紹介を表示します。ボタンをタップして情報画面を表示し、詳細を表示し、周囲の薄暗い領域をタップしてウィンドウを閉じます。
- 右の列-各ファームウェアアイテムの動作ステータスに応じて、ボタンの表示が異なります。
  - a) **[更新]**をタップして、選択したアイテムを更新します。
  - b) **[一時停止]**をタップして、更新手順を一時停止します。
  - c) **[続行]**をタップして、中断された更新の更新を続行します。

### ➤ ファームウェアを更新するには

1. タブレットの電源を入れ、電源に接続され、安定したインターネット接続があることを確認します。
2. MaxiSys プログラムメニューから[アプリケーションの更新]ボタンをタップするか、受信時に更新通知メッセージをタップします。[アプリケーションの更新]画面が表示されます。
3. 利用可能なすべての更新を確認します：

- すべてのアイテムを更新する場合は、[すべて更新]ボタンをタップします。
  - 個々のアイテムのみを更新する場合は、特定のアイテムの右側の列にある[更新]ボタンをタップします。特にショップのインターネット接続の速度と安定性が不明な場合は、更新が正しく実行されるようにするために、このオプションを強くお勧めします。
4. [一時停止]ボタンをタップして更新プロセスを一時停止します。[続行]をタップして更新を再開すると、プロセスは一時停止ポイントから続行されます。
  5. 更新プロセスが完了すると、ファームウェアが自動的にインストールされます。新しいバージョンが古いバージョンに置き換わります。

## 10 VCI マネージャー

VCI Manager は、MaxiSys909 タブレットを VCI デバイスに接続するためのアプリケーションです。このアプリケーションを使用すると、タブレットを VCI デバイスとペアリングし、通信ステータスを確認できます。Bluetooth または Wi-Fi 経由で接続を構築できます。後者は、モジュール操作の速度がより安定して高速です。



図 10-1 VCI マネージャー画面のサンプル

1. **接続モード**-3 つの接続モードが利用可能です。接続ステータスは各モードの横に表示されます。
  - Wi-Fi 接続-ワイヤレスデバイスに接続されている場合、接続状態は接続済みとして表示され、それ以外の場合は未接続として表示されません。
  - BT ペアリング-ワイヤレスデバイスとペアリングすると、接続状態は接続済みとして表示されます。それ以外の場合は、未接続として表示されます。
  - 更新 (VCI ソフトウェアの場合のみ) -USB 接続を使用した MaxiSys タブレットネットワークを介してインターネット経由で VCI ソフトウェアを更新します。

- 接続モードを選択して、接続を管理および設定します。
2. **設定**-このセクションでは、ワイヤレスペアリングを管理したり、ネットワーク接続を設定したりできます。
- Wi-Fi 設定-Wi-Fi 接続に使用できるすべてのデバイスのタイプと部分的なシリアル番号を検索して表示します。
  - BT 設定-ペアリングに使用できるデバイスのタイプと部分的なシリアル番号を検索して表示します。デバイスをタップしてペアリングを開始します。BT ステータスアイコンは、デバイスの受信信号強度を表示します。
  - イーサネット設定-ネットワーク構成を実行できます。

## 10.1 WI-FI 接続

Wi-Fi 接続は VCI との迅速な連携のための高度な機能です。Wi-Fi 接続は 5G をサポートしているため、この通信方法を使用すると、MaxiSys909 タブレットと VCI はより高速で安定した接続を共有します。タブレットは最大 50 メートルで操作できます。車両に接続するときには、VCI デバイスから離してください。

Wi-Fi 接続は、オシロスコープの測定機能を使用する場合の理想的な通信モードです。詳細については、オシロスコープを参照してください。



図 10-2 Wi-Fi 接続画面のサンプル

- Wi-Fi 経由で VCI デバイスをタブレットに接続するには

1. タブレットの電源を入れます。
2. データケーブルの 26 ピンの端を VCMI の車両データコネクタに接続します。
3. データケーブルの 16 ピンの端を車両データリンクコネクタ (DLC) に接続します。
4. タブレットの MaxiSys プログラムメニューで VCMI マネージャーをタップします。
5. 接続モードリストから Wi-Fi を選択します。
6. Wi-Fi トグルボタンをスワイプしてオンにします。右上隅にある [更新] をタップします。デバイスは、使用可能なユニットの検索を開始します。
7. 使用する VCMI タイプによっては、デバイス名にシリアル番号が付加された Maxi として表示される場合があります。接続に適切なデバイスを選択してください。
8. 接続が確立されると、接続ステータスが「接続済み」と表示されます。
9. 画面下部のシステムナビゲーションバーの VCMI ボタンは、タブレットが VCMI デバイスに接続されていることを示す緑色の Wi-Fi アイコンを表示します。
10. デバイスを切断するには、接続されているデバイスのリストをもう一度タップします。
11. 左上の [戻る] をタップして、MaxiSys プログラムメニューに戻ります。

---

 **注意**

迅速な接続を確保するために、安定したネットワーク環境でこの操作を実行してください。

---

## 10.2 BT ペ어링

BT ペ어링は、ワイヤレス接続の基本的な方法です。VCI デバイスは、同期手順中に電源がオンになるように、車両または使用可能な電源に接続する必要があります。タブレットのバッテリーが充電されているか、AC / DC 電源に接続されていることを確認してください。



図 10-3 サンプル BT ペアリング画面

➤ VCI デバイスをタブレットとペアリングするには

1. タブレットの電源を入れます。
2. データケーブルの 26 ピンの端を VCM1 の車両データコネクタに接続します。
3. データケーブルの 16 ピンの端を車両データリンクコネクタ（DLC）に接続します。
4. タブレットの MaxiSys プログラムメニューで VCM1 マネージャーをタップします。
5. 接続モードリストから BT（Bluetooth の略）を選択します。
6. Bluetooth トグルボタンをスワイプしてオンにします。右上隅にある [スキャン] をタップします。デバイスは、使用可能なペアリングユニットの検索を開始します。
7. 使用する VCM1 タイプによっては、デバイス名がシリアル番号の接尾辞が付いた Maxi として表示される場合があります。ペアリングに適切なデバイスを選択してください。
8. 正常にペアリングされると、接続ステータスが「接続済み」と表示されます。

9. 数秒待つと、画面下部のシステムナビゲーションバーの VCMi ボタンに、タブレットが VCMi デバイスに接続されていることを示す緑色のチェックマークが表示されます。
10. デバイスを切断するには、接続されているデバイスのリストをもう一度タップします。
11. 左上の[戻る]をタップして、MaxiSys プログラムメニューに戻ります。

### ⓘ 注意

VCMi デバイスは、一度に1つのタブレットとのみペアリングできます。ペアリングされると、デバイスは他のユニットで検出できなくなります。

## 10.3 アップデート

アップデートモジュールは、MaxiSys MS909 タブレットの最新のアップデートを提供します。VCI ソフトウェアをアップデートする前に、タブレットのネットワーク接続が安定していることを確認してください。



図 10-4 VCI 更新画面のサンプル

- VCI デバイスソフトウェアを更新するには
  1. タブレットの電源を入れます。

2. VCM1 デバイスを USB 経由でタブレットに接続します。
3. タブレットの MaxiSys プログラムメニューで VCM1 マネージャーをタップします。
4. 接続モードリストから [更新] を選択します。
5. ソフトウェアの現在のバージョンと最新バージョンが表示されます。[今すぐ更新] をタップして、VCM1 ソフトウェアを更新します。

---

## 11 ADAS 操作

Advanced Driver Assistance Systems (ADAS) は、パッシブアラートまたは車両のアクティブ制御のいずれかによってドライバーを支援し、より安全に、より高い認識と精度で運転するための一連の車両システムです。

ADAS は主にカメラ、センサー、超音波、LIDAR を使用して、運転中または停車中の車両位置、歩行者位置、道路標識、車線と交差点の検出、道路（曲線）と運転条件（視界不良または夜間運転）などの運転環境データを取得します。この情報を使用して、車両に所定のアクションを実行するように指示します。カメラ、センサー、センシングシステムは通常、フロントバンパーとリアバンパー、フロントガラス、キャビンインテリア、サイドミラー、バックミラーに配置されています。

Daotong ADAS キャリブレーションツールは、包括的で正確な ADAS キャリブレーションソリューションを提供します。

1. ベンツ、BMW、アウディ、フォルクスワーゲン、ポルシェ、インフィニティ、レクサス、GM、フォード、ボルボ、トヨタ、日産、ホンダ、ヒュンダイ、キアなど、多くの車種をカバーしています。
2. アダプティブクルーズコントロール (ACC)、ナイトビジョンシステム (NVS)、レーンデパーチャーワーニング (LDW)、ブラインドスポット検出 (BSD)、アラウンドビューモニタリング (AVM)、追突など、複数のドライバーアシスタントシステムのキャリブレーションをサポートします。警告 (RCW) およびヘッドアップディスプレイ (HUD)。
3. グラフィックイラストとステップバイステップの説明を提供します。
4. 技術者にキャリブレーションをガイドするデモを提供します。

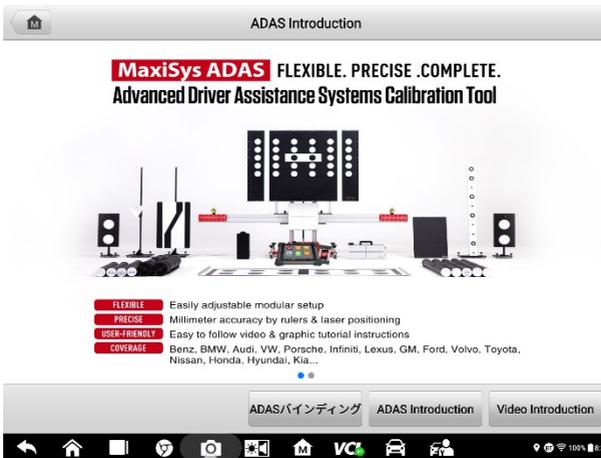


图 11-1 ADAS 導入画面のサンプル

## 12 サポート

このアプリケーションは、Autel のオンラインサービスベースステーションを MaxiSys タブレットと同期するサポートプラットフォームで起動します。デバイスをオンラインアカウントに同期するには、初めて使用するときにインターネット経由で製品を登録する必要があります。サポートアプリケーションは、Autel のサービスチャネルとオンラインコミュニティに接続されており、問題を解決するための最速の方法を提供します。これにより、苦情やヘルプリクエストを送信して直接サービスとサポートを受けることができます。

### 12.1 製品登録

サポートプラットフォームにアクセスし、Autel からアップデートやその他のサービスを取得するには、MaxiSys 診断デバイスを初めて使用するときに登録する必要があります。

#### ➤ 診断デバイスを登録するには

1. 次の Web サイトにアクセスします : <http://pro.autel.com>。
2. Autel アカウントをお持ちの場合は、アカウント ID とパスワードを使用してサインインします。
3. Autel の新規メンバーの場合は、左側にある [Create Autel ID] ボタンをクリックして ID を作成します。
4. 入力フィールドに必要な情報を入力し、[検証コードの取得] ボタンをクリックして、電子メール検証用の検証コードを取得します。
5. オンラインシステムは、登録された電子メールアドレスに確認コードを自動的に送信します。[確認コード] フィールドにコードを入力し、他の入力フィールドに入力し、Autel の利用規約を読み、[同意する] をクリックして、[Autel ID の作成] をクリックします。下部に製品登録画面が表示されます。
6. デバイスのシリアル番号とパスワードは、タブレットの設定アプリケーションの [バージョン情報] セクションにあります。
7. 製品モデルを選択し、[製品登録] 画面で製品のシリアル番号とパスワードを入力し、[送信] をタップして登録手順を完了します。

## 12.2 サポート画面レイアウト

サポートアプリケーションインターフェイスは、上部のナビゲーションバーのホームボタンでナビゲートされます。

- ホームボタン-MaxiSys プログラムメニューに戻ります。



図 12-1 サポートアプリケーション画面のサンプル

サポート画面のメインセクションは 2 つのセクションに分かれています。左側の狭い列はメインメニューです。メインメニューから 1 つのサブジェクトを選択すると、右側に対応する機能インターフェイスが表示されます。

## 12.3 マイアカウント

[マイアカウント]画面には、個人情報、更新情報、サービス情報など、オンラインで登録されたアカウントと同期されたユーザーと製品の包括的な情報が表示されます。

### 12.3.1 個人情報

ユーザー情報とデバイス情報はどちらも個人情報セクションに含まれています。

- ユーザー情報- Autel ID、名前、住所、その他の連絡先情報など、登録済みのオンライン Autel アカウントの詳細情報を表示します。
- デバイス情報- シリアル番号、登録日、有効期限、保証期間など、登録済みの製品情報を表示します。

## 12.3.2 更新情報

[更新情報]セクションには、製品のシリアル番号、ソフトウェアのバージョンまたは名前、更新時刻など、製品のソフトウェア更新履歴の詳細なリストが表示されます。

## 12.3.3 サービス情報

[サービス情報]セクションには、デバイスのサービス履歴情報の詳細なレコードリストが表示されます。デバイスが修理のために Autel に返送されるたびに、デバイスのシリアル番号と、エラーの種類、変更されたコンポーネント、システムなどの詳細な修理情報が表示されます。再インストールは記録され、関連するオンライン製品アカウントに更新され、サービス情報セクションに同期されます。

## 12.4 苦情

[苦情]画面では、新しい苦情ケースを作成したり、過去の苦情記録を表示したりできます。

### 12.4.1 画面レイアウト

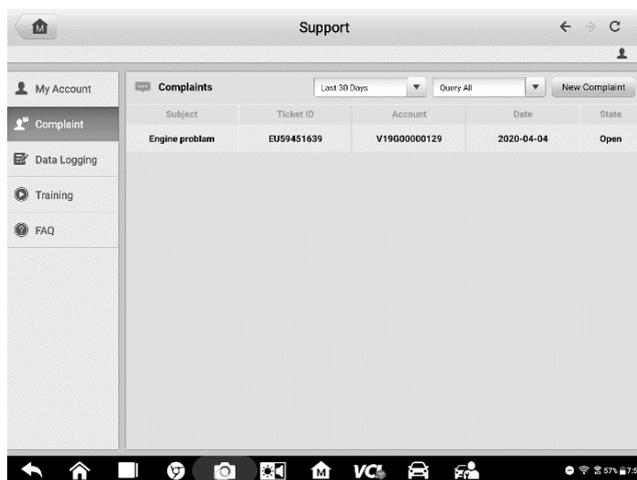


図 13-2 苦情画面のサンプル

苦情リスト

苦情リストには通常、デフォルトですべての苦情レコードとそのステータス

が表示されます。各苦情アイテムの概要情報には、件名、チケット ID、ユーザーのアカウント ID、日付、およびケースステータスが含まれます。

ケースステータスには次の 2 種類があります。

- オープン-苦情ケースは開始されましたが、まだ処理されていないことを示します。
- クローズ-苦情ケースが処理され、解決され、終了したことを示します。

#### ➤ 新しい苦情セッションを確立する

1. 製品をオンラインで登録します。
2. MaxiSys プログラムメニューの[サポート]をタップします。デバイス情報はオンラインアカウントと自動的に同期されます。
3. メインメニューの[苦情]をタップします。
4. 右上隅にある[新しい苦情]をタップします。サービスチャネルのカテゴリを含む選択メニューが表示されます。
5. 対象のサービスチャネルを選択し、[次へ]をクリックして続行します。標準的苦情フォームが表示され、個人情報、車両情報、デバイス情報などの詳細情報を入力できます。画像または PDF ファイルを添付することもできます。
6. 各入力フィールドに適切な情報を入力します。苦情をより効率的に解決するために、フォームにできるだけ詳細に記入することをお勧めします。
7. ケースの緊急性に応じて、最後のセクションで必要な処理時間を選択します。
8. [送信]をタップして、記入済みのフォームを Autel のオンラインサービスセンターに送信します。送信された苦情は、サービス担当者が慎重に対処します。

## 12.5 データロギング

データログセクションは、診断システム上のすべてのフィードバック（送信済み）、フィードバックではない（ただし保存済み）、または履歴（最新の 20 のテストレコードまで）のデータログの記録を保持します。サポート担当者は、サポートを通じて送信されたレポートを受信して処理します。プラットフォーム。ソリューション

は 48 時間以内に返送されます。問題が解決するまで、サポートに連絡し続けることができます。



図 13-3 データロギング画面のサンプル

#### ➤ データロギングセッションで返信するには

1. フィードバックタグをタップして、送信されたデータログのリストを表示します。
2. サポートから最新のメッセージを選択します。
3. 画面下部の入力フィールドをタップして返信を入力するか、[音声]ボタンをタップして音声メッセージを録音するか、カメラボタンをタップしてスクリーンショットを撮ります。
4. [送信]をタップして、メッセージをサポートに配信します。

## 12.6 トレーニング

トレーニングセクションには、Autel のオンラインビデオアカウントへのクイックリンクがあります。言語別にビデオチャンネルを選択すると、製品の使用方法や車両診断の実践など、利用可能なすべての Autel オンラインチュートリアルビデオが表示されます。

## 12.7 FAQ

FAQ セクションには、Autel のオンラインメンバーアカウントの使用とショッピング

グおよび支払い手順に関してよくある質問と回答のすべての包括的なリファレンスが記載されています。

- アカウント-Autel のオンラインユーザーアカウントの使用に関する質問と回答を表示します。
- ショッピングと支払い-オンラインでの商品の購入と支払いの方法または手順に関する質問と回答を表示します。

## 13 リモートデスクトップ

リモートデスクトップアプリケーションは、TeamViewer Quick Support プログラムを起動します。これは、シンプルで高速かつ安全なリモートコントロールインターフェイスです。このアプリケーションを使用して、Autel のサポートセンター、同僚、または友人から、TeamViewer ソフトウェアを介して PC 上の MaxiSys タブレットを制御できるようにすることで、アドホックリモートサポートを受けることができます。

### 13.1 操作

TeamViewer 接続が電話として使用されている場合、TeamViewer ID は電話番号であり、すべての TeamViewer の顧客はこの番号で個別に電話をかけることができます。TeamViewer ソフトウェアプログラムを実行しているコンピュータとモバイルデバイスは、グローバルに一意の ID 番号で識別できます。「リモートデスクトップ」アプリケーションを初めて起動すると、TeamViewer ソフトウェアはデバイスの特性に基づいて永続的な ID 番号を自動的に生成します。

タブレットがサードパーティからリモートサポートを受けることができるように、「リモートデスクトップ」アプリケーションを起動する前に、必ずデバイスをインターネットに接続してください。

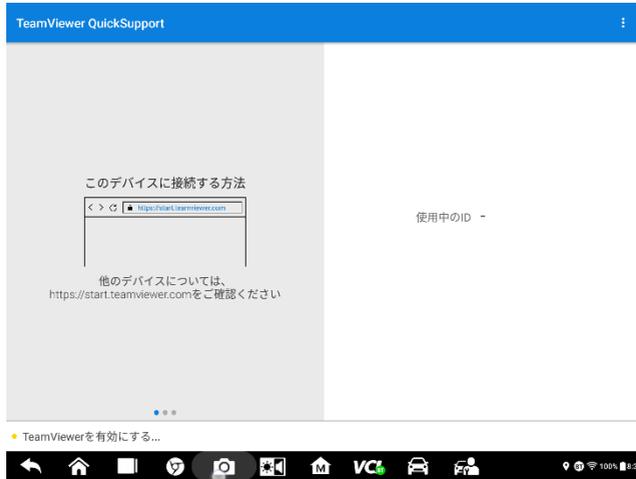


図 14-1 リモートデスクトップ画面のサンプル

➤ パートナーからリモートサポートを受けるため

1. タブレットの電源を入れます。
2. MaxiSys プログラムメニューでリモートデスクトップアプリケーションをタップします。TeamViewer インターフェイスが表示され、デバイス ID が生成されて表示されます。
3. パートナーは、TeamViewer フルバージョンプログラムをオンライン (<http://www.teamviewer.com>) でダウンロードして、リモートコントロールソフトウェアを自分のコンピュータにインストールする必要があります。ソフトウェアを自分のコンピュータで同時に起動します。サポートを提供し、タブレットをリモートで制御します。
4. パートナーに ID を提供し、パートナーがリモートコントロール要求を送信するのを待ちます。
5. デバイスでリモートコントロールを許可するための確認を求めるメッセージが表示されます。
6. [許可] をタップして受け入れるか、[拒否] をタップして拒否します。
7. 追加情報については、関連する TeamViewer ドキュメントを参照してください。

## 14 クイックリンク

クイックリンクアプリケーションを使用すると、Autel の公式 Web サイトや、自動車サービスの他の多くの有名なサイトに簡単にアクセスできます。このサイトでは、技術ヘルプ、ナレッジベース、フォーラム、トレーニング、専門家によるコンサルティングなど、豊富な情報とリソースを提供しています。



図 15-1 クイックリンク画面のサンプル

### ➤ クイックリンクを開くには

1. MaxiSys プログラムメニューの[クイックリンク]をタップします。クイックリンクアプリケーション画面が表示されます。
2. メインセクションからウェブサイトのサムネイルを選択します。Chrome ブラウザが起動し、選択したウェブサイトが開きます。
3. これで、Web サイトの探索を開始できます。

## 15 Maxi Viewer

Maxi Viewerを使用すると、ツールでサポートされている機能とバージョン情報を検索できます。検索には、ツールと車両を検索する方法と、機能を検索する方法の2つがあります。

### 車両で検索するには

1. MaxiSys プログラムメニューで Maxi Viewer アプリケーションをタップします。Maxi Viewer アプリケーション画面が表示されます。
2. 左上隅のドロップダウンリストからツール名をタップし、検索するツール名を選択します。
3. 検索する車両のブランド、モデル、および年をタップします。

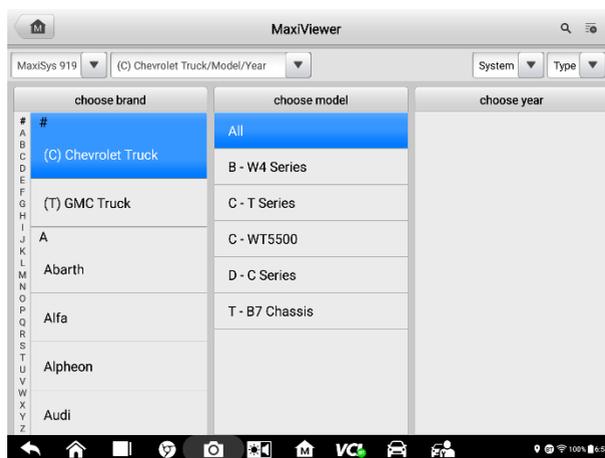


図 15-1 関数ビューア画面のサンプル 1

4. 選択した車両に対して選択したツールでサポートされているすべての機能が、機能、サブ機能、バージョンの3つの列に表示されます。

Model	Year	Model	System	Type	Function	Sub function	Version
B - W4 Series	(4) 2004	B - W4 Series	Chassis	Medium duty truck	Active test	/	Above GM_V3.00
B - W4 Series	(4) 2004	B - W4 Series	Chassis	Medium duty truck	Live data	/	Above GM_V3.00
B - W4 Series	(4) 2004	B - W4 Series	Chassis	Medium duty truck	Trouble codes	/	Above GM_V3.00
B - W4 Series	(4) 2004	B - W4 Series	Powertrain	Medium duty truck	Active test	/	Above GM_V3.00
B - W4 Series	(4) 2004	B - W4 Series	Powertrain	Medium duty truck	Live data	/	Above GM_V3.00
B - W4 Series	(4) 2004	B - W4 Series	Powertrain	Medium duty truck	Trouble codes	/	Above GM_V3.00

図15-2関数ビューア画面のサンプル2

### 機能で検索するには

1. MaxiSys プログラムメニューで Maxi Viewer アプリケーションをタップします。Maxi Viewer アプリケーション画面が表示されます。
2. 左上のツール名をタップしてツールリストをドロップダウンし、検索するツール名をタップします。
3. 右上の検索ボックスに検索したい機能を入力します。画面には、この機能をサポートするすべての車両が、車両の年式、システム、容量、タイプ、機能、サブ機能、バージョン。

### ⓘ 注意

あいまい検索がサポートされています。関数関連のキーワードの一部を入力して、利用可能なすべての情報を検索してください。

## 16 HD 内視鏡

Maxi Video アプリケーションは、タブレットを Maxi Video カメラに接続するだけで、デジタルビデオスコープとして動作するように MaxiSys 診断デバイスを構成します。この機能により、通常は視界から隠されている到達困難な領域を検査でき、デジタル静止画像やビデオを記録する機能により、機械、設備、インフラストラクチャを安全かつ迅速に検査するための経済的なソリューションを提供します。

---

### 警告と重要事項：

感電、絡み合い、その他の原因による怪我のリスクを減らし、工具の損傷を防ぐために、これらの指示に従ってください。

- イメージャヘッドとケーブルを、充電中の電荷や可動部品が含まれている可能性のある場所に置かないでください。感電や絡まりによる怪我のリスクが高まります。
- イメージャヘッドケーブルを使用して、周囲を変更したり、通路を空けたり、目詰まりしたりしないでください。
- 点検が終了したら、イメージャヘッドケーブルを点検エリアから慎重に引き抜いてください。
- イメージャヘッドケーブルは 3m (10') の深さまで防水です。深さが深くなると、イメージャヘッドケーブルに漏れが発生し、感電や工具の損傷を引き起こす可能性があります。
- イメージャヘッドの動作温度は、32° F (0° C) から 113° F (45° C) の間です。

---

### 検査：

- **自動車の場合：**検査中に自動車が走行していないことを確認します。ボンネットの下の金属や液体は高温になっている可能性があります。イメージャヘッドに油やガスが付着しないようにしてください。
- **パイプの場合：**金属パイプに電荷が含まれている可能性があると思われる場

合は、資格のある電気技師にパイプをチェックしてから使用してください。

- **壁の場合**：内壁を検査する場合は、ツールを使用する前に、必ず家全体の回路ブレーカーを遮断してください。
  - **作業エリア**：作業エリアに十分な光があることを確認してください。
- 

## 16.1 アクセサリー

### 16.1.1 HD 内視鏡カメラ

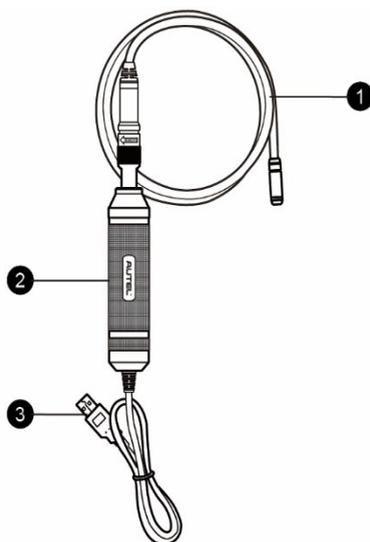


図 16-1 MaxiVideo カメラ

1. リムーバブルイメージヘッドケーブル-画像およびビデオ表示用の Maxi Videos を実行するときにツールに接続します。
2. ハンドグリップ-人間工学に基づいて設計されたハンドルで、快適なグリップと俊敏な操作を実現します。
3. USB ケーブル-Maxi Video カメラを MaxiSys タブレットに接続します。

## 16.1.2 カメラアクセサリー

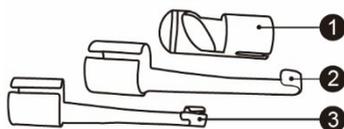


図 16-1 8.5mm イメージャヘッドアクセサリー

1. **磁石**-落としたリングやネジなどの小さな金属物を拾います。
2. **フック**-エラー物の詰まりを取り除き、パイプまたは限られた領域のワイヤーを拾います。
3. **ミラー**-目視できない領域を確認するのに役立ちます。

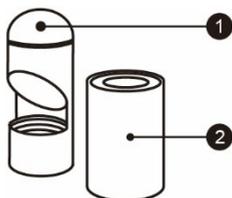


図 16-2 5.5mm イメージングヘッドアクセサリー

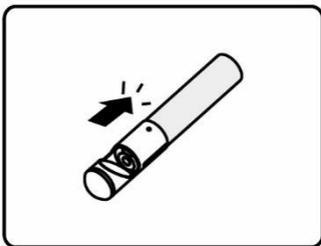
1. **ミラー**-目視できない領域を確認するのに役立ちます。
2. **磁石**-落としたリングやネジなどの小さな金属物を拾います。

## 16.1.3 アクセサリーアセンブリ

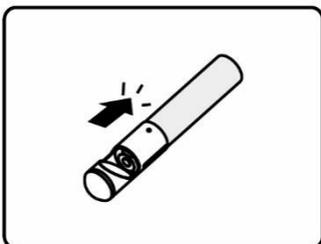
### 8.5mm イメージャヘッドの場合

マグネット、フック、ミラーを含む3つのアクセサリーは、以下に説明するのと同じ方法でイメージャヘッドに取り付けることができます：

1. アクセサリーとイメージヘッドを持ちます。



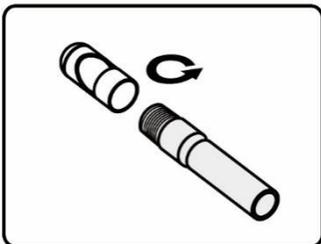
2. アクセサリーの端をイメージヘッドにかぶせてから、アクセサリーを固定します。



## 5. 5mm イメージヘッドの場合

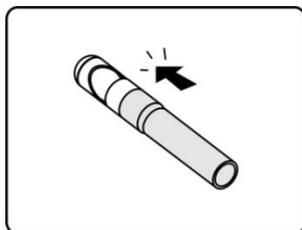
マグネットとミラーを含む 2 つのアクセサリーは、以下に説明するのと同じ方法でイメージヘッドに取り付けることができます：

1. アクセサリーとイメージヘッドを持ちます。



2. アクセサリーのネジ部分をイメージヘッドにねじ込み、アクセサリーを固

定めます。



## 16.1.4 技術仕様

表 16-1 仕様

項目	説明
最適な表示距離	直径 8.5mm のカメラ : 2.54cm から 35.56cm 直径 5.5mm のカメラ : 0.95cm から 30cm
解決	解像度 JPG 画像 (640x480) AVI ビデオ (320x240)
動作温度	主成分 : 0° C ~ 55° C (環境) プローブチューブ : -10° C ~ 70° C
保管温度	-20° C ~ 75° C (環境)
防水	カメラとプローブチューブ : 1m
重量	直径 8.5mm のカメラ : 0.3kg 直径 5.5mm カメラ : 0.2kg

## 16.2 操作

Maxi Video アプリケーションを開く前に、イメージヘッドケーブルを USB ポートを通じてタブレットに接続する必要があります。特定のニーズに応じて、正しいイメージヘッドアクセサリーを取り付けてください。

---

## ⓘ 注意

動作中は、イメージヘッドケーブルを操作して、限られたスペースや扱いにくいスペースにアクセスしやすくすることができます。

---

### ➤ 「HD 内視鏡」アプリケーションを使用して写真を撮る方法

1. イメージングヘッドケーブルを MaxiSys タブレットの上部にある USB ポートに接続して接続します。
2. MaxiSys タブレットの電源を入れてください。
3. MaxiSys プログラムメニューの[HD 内視鏡]アプリケーションをクリックして、カメラ操作インターフェースである「HD 内視鏡」操作インターフェースを開きます。デフォルトのカメラはイメージングヘッドです。
4. 右下の[カメラ]アイコンを選択して撮影します。
5. イメージングヘッドを調整して適切に配置することにより、ファインダーで撮影する画像に焦点を合わせます。
6. 操作インターフェースの青い円をクリックすると、ビューファインダーにキャプチャされた画像が表示され、写真が自動的に保存されます。
7. 画面右上のサムネイルをタップして保存した写真を表示し、画面を左右にスワイプして画像を1枚ずつ表示します。
8. 選択した画像をクリックして、編集ツールバーを表示します。
9. 対応するボタンをクリックして、画像を共有、削除、または編集します。
10. 画面下部の「ナビゲーションバー」の[戻る]または[ホーム]ボタンをクリックして、「HD 内視鏡」アプリケーションを終了します。

### ➤ 「HD 内視鏡」アプリケーションを使用してビデオを録画する方法

1. イメージングヘッドケーブルを MaxiSys タブレットの上部にある USB ポートに接続して接続します。
2. MaxiSys タブレットの電源を入れてください。
3. MaxiSys プログラムメニューの[HD 内視鏡]アプリケーションをクリックして、カメラ操作インターフェースである「HD 内視鏡」操作インターフェースを開きます。デフォルトのカメラはイメージングヘッドです。

4. 右下の[カメラ]アイコンを選択して動画を録画します。
5. イメージングヘッドケーブルを正しく配置して、記録するシーンに焦点を合わせます。
6. 操作インターフェースの赤い丸をクリックして記録を開始します。
7. 赤い丸をもう一度クリックして録画を停止すると、録画されたビデオがシステムギャラリーに自動的に保存されます。
8. 右上隅のサムネイルをクリックして、記録されたすべてのビデオファイルを表示します。
9. 右上隅にある対応するボタンをクリックして、ビデオを削除または編集します。

# 17 メンテナンスとサービス

MaxiSys 診断タブレットと VCI デバイスが最適なレベルと状態を維持できるようにするには、この章に記載されているメンテナンス手順を注意深く読み、それに従って製品をメンテナンスすることをお勧めします。

## 17.1 メンテナンス方法

以下は、デバイスのメンテナンス方法と注意事項を示しています。

- 柔らかい布とアルコールまたは中性洗剤を使用して、タブレットのタッチスクリーンを清掃します。
- タブレットに研磨剤、洗剤、自動車用化学薬品を使用しないでください。
- デバイスを乾燥した状態に保ち、通常の動作温度内に保ちます。
- タブレットを使用する前に手を乾かしてください。タッチスクリーンが湿っていたり、濡れた手でタッチスクリーンをタップしたりすると、タブレットのタッチスクリーンが機能しないことがあります。
- 湿気の多い場所、ほこりの多い場所、汚れた場所にデバイスを保管しないでください。
- 使用の前後に、ハウジング、配線、コネクタに汚れや損傷がないか確認してください。
- 毎日の終わりに、湿らせた布でデバイスのハウジング、配線、およびコネクタをきれいに拭きます。
- タブレットや VCI ユニットの分解しないでください。
- 落としたり、デバイスに深刻な影響を与えたりしないでください。
- 認可されたバッテリー充電器とアクセサリのみを使用してください。許可されていないバッテリー充電器とアクセサリの使用によって引き起こされた誤動作または損傷は、限定製品保証を無効にします。
- バッテリー充電器が導電性物体に接触しないようにしてください。
- 信号の干渉を防ぐために、電子レンジ、コードレス電話、一部の医療機器または科学機器のそばでタブレットを使用しないでください。

## 17.2 トラブルシューティングチェックリスト

- A. タブレットが正常に動作しない場合：

- タブレットがオンラインで登録されていることを確認してください。
  - システムソフトウェアと診断アプリケーションソフトウェアが適切に更新されていることを確認してください。
  - タブレットがインターネットに接続されていることを確認してください。
  - すべてのケーブル、接続、およびインジケータをチェックして、信号が受信されているかどうかを確認します。
- B. バッテリーの寿命が通常より短い場合：
- これは、信号強度の低いエリアにいるときに発生する可能性があります。使用していない場合はデバイスの電源を切ります。
- C. タブレットの電源をオンにできない場合：
- タブレットが電源に接続されているか、バッテリーが充電されていることを確認してください。
- D. タブレットを充電できない場合：
- 充電器がエラーしている可能性があります。最寄りの販売店にお問い合わせください。
  - デバイスを過度の高温/低温で使用しようとしている可能性があります。涼しい場所や暖かい場所でデバイスを充電してください。
  - デバイスが充電器に正しく接続されていない可能性があります。コネクタを確認してください。

---

 注意

問題が解決しない場合は、Autel のテクニカルサポート担当者または最寄りの販売代理店にお問い合わせください。

---

## 17.3 バッテリーの使用について

タブレットは、内蔵のリチウムイオンポリマー電池で駆動します。これは、他の形式のバッテリーテクノロジーとは異なり、これらのテクノロジーに固有の「バッテリーメモリ効果」により、タブレットの自律性を低下させることなく、充電を維持しながらバッテリーを充電できることを意味します。

---

 危険

内蔵のリチウムイオンポリマーバッテリーは、工場でのみ交換可能です。バッテリーパックを誤って交換したり、改ざんしたりすると、爆発の原因になることがあります。

---

- 損傷した充電器を使用しないでください。
- 押しつぶしたり、曲げたり、変形したり、穴を開けたり、細断したりしないでください。

- 変更したり、再製造したり、バッテリーに異物を挿入したり、火災、爆発、その他の危険にさらしたりしないでください。
- 付属の充電器と USB ケーブルのみを使用してください。Autel 認定の充電器や USB ケーブルを使用しないと、デバイスの誤動作やエラーの原因となる場合があります。
- 認定されていないバッテリーまたは充電器を使用すると、火災、爆発、漏れ、またはその他の危険が生じる可能性があります。
- タブレットを落とさないでください。タブレットを特に硬い表面に落とした場合、ユーザーが損傷を疑う場合は、点検のためにサービスセンターに持ち込んでください。
- ネットワークのワイヤレスルーターに近いほど、接続に使用されるバッテリー電力が少なくなるため、タブレットの使用時間が長くなります。
- バッテリーの充電時間は、バッテリーの残量によって異なります。
- バッテリーの寿命は、時間の経過とともに必然的に短くなります。
- 過充電はバッテリーの寿命を短くする可能性があるため、完全に充電されたらタブレットを充電器から取り外します。充電が完了したら、充電器を取り外します。
- 特に夏や冬に車の中や暑い場所や寒い場所にタブレットを放置すると、バッテリーの容量と寿命が短くなる場合があります。バッテリーは常に常温に保ってください。

## 17.4 サービス手順

このセクションでは、技術サポート、修理サービス、および交換部品またはオプション部品の申請に関する情報を紹介します。

### 17.4.1 技術サポート

製品の操作に関して質問や問題がある場合は、お問い合わせください。

#### AUTEL 北アメリカ

- **電話** : 855-AUTEL-US (855-288-3587) 月曜日から金曜日までの午前 9 時から午後 6 時 (EST)
- **ウェブサイト** : [www.autel.com](http://www.autel.com)

- メール: [ussupport@autel.com](mailto:ussupport@autel.com)
- 住所: 175 Central Avenue, Suite 200, Farmingdale, New York, USA 11735

#### AUTEL ヨーロッパ

- 電話番号: 0049 (0) 61032000522
- ウェブサイト: [www.autel.eu](http://www.autel.eu)
- メール: [sales.eu@autel.com](mailto:sales.eu@autel.com)、[support.eu@autel.com](mailto:support.eu@autel.com)
- 住所: Robert-Bosch-Strasse 25、63225、Langen、Germany

#### AUTEL 中国本部

- 電話番号: 0086-755-86147779
- ウェブサイト: [www.autel.com](http://www.autel.com)
- メール: [support@autel.com](mailto:support@autel.com)
- 住所: 中国深セン市南山区西麗街道学苑大道 1001 号南山智園 B1 棟 6-10 階  
〒518055

#### AUTEL 南アメリカ

- 電話番号: (+507) 308-7566
- Website: [www.autel.com/es](http://www.autel.com/es)
- Email: [sales.latin@autel.com](mailto:sales.latin@autel.com)、[latsupport@autel.com](mailto:latsupport@autel.com)
- 住所: Office 103, Building 3845, International Business Park, Veracruz, Panamá Pacífico, Panamá

#### AUTEL オーストラリア

- 電話番号: 03 9480 2978 / +61 476293327
- Website: [www.autel.com.au](http://www.autel.com.au)
- メール: [sales@autel.com.au](mailto:sales@autel.com.au)
- 住所: 155 Islington Street, Melbourne, Collingwood, VIC 3066

他の市場での技術支援については、地元の販売代理店にお問い合わせください。

## 17.4.2 修理サービス

修理のためにデバイスを返却する必要がある場合、[www.autel.com](http://www.autel.com) から修理サービスフォームをダウンロードし、フォームに記入してください。次の情報を含める必要があります:

- 連絡先
- 返品住所
- 電話番号
- 商品名
- 問題の完全な説明
- 保証修理のための購入証明
- 非保証修理の支払いの好ましい方法

---

#### 🔍 ご注意

非保証修理の場合、支払いは Visa、Master Card、または承認されたクレジット条件で行うことができます。

---

デバイスをローカルエージェントまたは以下のアドレスに送信します。

6th-10th Floor, Building B1, Zhiyuan,  
Xueyuan Road, Xili, Nanshan、

### 17.4.3 他のサービス

オプションのアクセサリは、Autel の認定ツールサプライヤー、および/または最寄りの販売代理店または代理店から直接購入できます。

注文書には次の情報が含まれている必要があります。

- 連絡先
- 製品名または部品名
- アイテム説明
- 購入数量

---

## 18 コンプライアンス情報

### FCC Compliance

FCC ID: WQ8MAXISYSMS909

この装置はテスト済みであり、FCC 規則のパート 15 に基づくクラス B デジタルデバイスの制限に準拠していることが確認されています。これらの制限は、住宅への設置において有害な干渉から適切に保護するように設計されています。この装置は使用を生成し、無線周波数エネルギーを放射します。指示に従って設置および使用しないと、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置で干渉が発生しないという保証はありません。この機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こす場合（機器の電源をオン/オフすることで確認できます）、ユーザーは以下の 1 つ以上の手段で干渉を修正することをお勧めします。

- 受信アンテナの向きを変えるか、再配置します。
- 機器と受信機の間隔を広げます。
- ディーラーまたは経験のあるラジオ/テレビ技術者に相談してください。

このデバイスは、FCC 規則のパート 15 に準拠しています。操作は、次の 2 つの条件に従います。

- (1) このデバイスは有害な干渉を引き起こさないと思われず。
- (2) このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含む、受信した干渉を受け入れる必要があります。

コンプライアンスの責任者によって明示的に承認されていない変更または修正を行うと、機器を操作するユーザーの権限が無効になる場合があります。

### SAR

このデバイスの放射出力は、FCC の無線周波数暴露制限を下回っていますが、デバイスは、通常の操作中に人との接触の可能性が最小限になるように使用する必要があります。

ワイヤレスデバイスの露出基準は、比吸収率 (SAR) と呼ばれる測定単位を採用しています。FCC によって設定された SAR 制限は 1.6 W / Kg です。SAR のテストは、FCC によって受け入れられた標準動作位置を使用して行われ、デバイスは、テストされたすべての周波数帯域で最高の認証された電力レベルで送信します。SAR は認定された最高の電力レベルで決定されますが、動作中のデバイスの実際の SAR レベ

ルは最大値を大きく下回る場合があります。これは、ネットワークに到達するために必要な電力のみを使用するように、デバイスが複数の電力レベルで動作するように設計されているため

です。FCC の無線周波数暴露の制限を超える可能性を回避するには、アンテナへの人の近接を最小限に抑える必要があります。

## 19 保証

### 19.1 12 か月限定保証

Autel Intelligent Technology Corp., Ltd. (当社) は、この MaxiSys 診断デバイスの最初の小売購入者に対し、通常の使用中および通常の条件下で、この製品またはその一部が、製品のエラーにつながる材料または仕上がりに欠陥があることが証明された場合保証します。購入日から 12 か月以内に、そのような欠陥は、当社の選択により、修理または購入証明と交換（新しい部品または再構築部品で）されます。

当社は、デバイスの使用、誤用、または取り付けに起因する偶発的または間接的な損害について責任を負いません。一部の地域では、保証期間の制限を許可していないため、上記の制限が適用されない場合があります。

**この保証は以下には適用されません：**

- a) 異常な使用または状態、事故、誤操作、放置、無許可の変更、誤用、不適切な設置または修理または不適切な保管を受けた製品。
- b) 機械的シリアル番号または電子シリアル番号が削除、変更、または破損された製品。
- c) 過度の温度または極端な環境条件への暴露による損傷。
- d) 当社が承認または承認していないアクセサリまたはその他の製品への接続、または使用から生じる損傷。
- e) 外観、化粧品、装飾品、または構造部品（フレーム部品や非動作部品など）の欠陥。
- f) 火災、汚れ、砂、バッテリーの漏出、切れたヒューズ、盗難、または電源の不適切な使用などの外部原因により損傷した製品。

---

#### ❶重要

製品のすべての内容は、修理の過程で削除される場合があります。保証サービスのために製品を提供する前に、製品の内容のバックアップコピーを作成する必要があります。

---